

一 中国南北和平會議ニ関スル件

二 中国改革借款一件

三 対中国新借款團組織ニ関シ米国提議ノ件

四 中国ヘノ兵器供給ニ関スル件

五 南満鐵道ニ関スル件

六 四洮鐵道關係一件

七 中国米輸入交渉ニ関スル件

八 中国鐵道國際管理問題一件

(以上上巻)

## 事項九 対中国借款善後策ニ関スル件

### 一 參戰借款關係

#### 一 參戰借款關係

#### 二 吉会鐵道借款關係

#### 三 滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款關係

#### 四 吉黑森林金鉱借款關係

ノ次第有之候ニヨリ其節右ニ對シテハ篤ト審議ノ上何分ノ儀申進スヘキニ付ソレ迄ハ發電方御見合ハセ相成度旨申入置キタルヲ以テ右ハ勿論御了承ヲ得在北京武官側ヘノ右様

御電訓ハ一時御差控相成タルコトト思考致居候處十二月三十一日在支公使ヨリ別紙<sup>(註4)</sup>写ノ通ノ來電ニ接シタルガ右ハ或

ハ何等カノ行違ヒニアラザルヤトモ被思考候得共本件ノ成行一應御回示相煩ハシ度尚申ス迄モナク兵器彈薬等供給ノ儀ハ目下ノ支那時局並ニ列國トノ關係ニ顧ミ外交上影響ス

ル所少カラザル義ナルニ付追テ篤ト御協議ヲ了スル迄ハ不取敢本件兵器彈薬等ノ交付ハ總テ御差控相成様致度此段及御照會候也

支那ニ対スル兵器供給ノ件ニ關シ客月二十六日附往信ヲ以

テ予テ御打合済ノ在支公使宛往電第一一八二号<sup>(註1)</sup>写及御送附

置候處其後右ニ關スル東少將宛御電訓案ニ付十二月二十八<sup>(註2)</sup>日及二十九<sup>(註3)</sup>日貴省係官タル蒲、勝野両中佐ヨリ更ニ御協議

日及二十九<sup>(註3)</sup>日貴省係官タル蒲、勝野両中佐ヨリ更ニ御協議

政送第一号

支那ニ対スル兵器供給ノ件ニ關シ客月二十六日附往信ヲ以テ予テ御打合済ノ在支公使宛往電第一一八二号<sup>(註1)</sup>写及御送附

置候處其後右ニ關スル東少將宛御電訓案ニ付十二月二十八<sup>(註2)</sup>日及二十九<sup>(註3)</sup>日貴省係官タル蒲、勝野両中佐ヨリ更ニ御協議

註1 日本外交文書大正七年第二冊上巻一八四文書

2 左掲ノ附記一

3 左掲ノ附記一

4 日本外交文書大正七年第二冊上巻一八六文書

尚參戰借款ニ付テハ日本外交文書大正七年第二冊下巻九

〇八、九〇九、九一〇ノ各文書参照

## （附記一）

大正七年十二月二十八日筑紫兵器局長勝野、蒲西陸軍中佐等ト岡部外務書記官トノ交談覽書

一、今般陸軍省ヨリ在支東少将ニ対シ別紙ノ如キ電訓ヲ發スルコトトナレリトテ之ヲ示サレタルニ付小官ハ一応之レヲ外務省ノ上局ニ示シ度キ旨ヲ述ヘ同電訓案ヲ借受ケ来レリ同電訓案中除外例タル辺防軍及參戰軍ノ用ニ供スル武器ハ南北統一ヲ阻礙スル虞ナシト思考セラルニ付除外シタル次第ナリ右參戰軍用ノ武器トハ今後ノ契約ニ係ルモノニテ從來契約済ノ兵器ヲ指スニハ非ズ尤モ陸軍省ニテハ其代金ハ既成參戰借款中ヨリ支払フヘキモノト解シ居レリ（支那側ニテハ參戰軍用ノ武器ハ參戰借款ヨリ支出スルモノニ非ズト思考シ居ル由ナリ）

## 一、地方督軍ニ供給スヘキ兵器契約（八、九アリ）モ中

央政府ヲ介シ成立シタルモノニシテ之等ハ皆既ニ契約済ナルニ付契約通履行セシムル筈ナリト依テ小官ハ其ノ取

十二月二十九日蒲中佐支那行兵器既契約品中今後引渡ヲ実施スヘキモノノ表<sup>〔註〕</sup>ヲ持参シテ來省

一、支那行兵器ニ關シ在支公使宛往電第一一八二号中「前内閣時代ニ於テ泰平組合ト支那政府トノ間ニ明年四月迄毎月一定數量ノ兵器彈薬ヲ供給スルノ契約成立シ」タルモノハ陸軍大臣ニ於テハ前内閣時代ニ於テ陸軍省ニテ供給ノ承諾ヲ与ヘタルモノニシテ已ニ契約済ノモノトイフ意味ニ解釈シタル次第ニシテ契約調印ノ期日カ現内閣成立後ニ於ケルモノノ内江蘇ノ分ハ昨日答ヘタル通ニテ其他ハ其數量モ僅少ナリ余リ問題トスルニ足ラサルヘキヲ以テ契約通り之ヲ供給スルコトト致シ度キ希望ニシテ右ノ解釈並ニ今後ノ新契約ニヨル供給見合セ方ニ付別紙写ノ通り（前ニ借受ケタル電訓案ヲ訂正ス）在支東少將ニ電訓スルコト致シ度キニ付外務省ノ同意ヲ得度キ旨申出アリタリ

一、右電訓案ヲ見ルニ前ノ案中ニ在リタル「邊境防備及參戰軍用」ノ武器ニ付スル除外例ヲ省キアルニ付右ハ如何相成タルヤト質問シタルニ邊境防備用ノモノハ現在契約済ノモノ一モナク今後申込アルモ大体方針ニ準シテ之ヲ

調ノ表ヲ貰受ケントシタルニ右ハ近々陸軍大臣ヨリ外務ノ訓令ニ付同意ヲ求メタルニ前項同様既ニ契約済ノモノハ之レヲ許容スル様致度旨ヲ述ヘラレタルモ小官ヨリ更ニ李純ノ地位ノ甚ダ「デリケート」ナルコトヲ述ヘタル結果兔ニ角陸軍大臣ノ意見ヲ求ムヘシトノコトナリシヲ以テ預ケ帰レリ（其後蒲中佐之ヲ持參來省右ニ同意ノ旨回答アリタリ）

一、第一項電訓案ヲ持帰リ大臣ニ報告シタルニ右除外例及地方督軍行ノ兵器ハ在支公使宛往電第一一八二号ノ趣旨ト矛盾スル嫌アリ兔ニ角陸軍大臣ト話合ノ上迄ハ右発電ヲ見合ハサレ度キ旨陸軍側ニ伝フル様命セラレタルニ付前項蒲中佐來省ノ際其旨ヲ伝ヘ置キ同電訓案ハ其儘預リ置ケリ

## （附記二）

大正七年十二月二十九日蒲陸軍中佐ト岡部外務書記官トノ交談覽書

供給セサルコトトシタルガ參戰軍用ノモノニ付テハ前ニ第一次參戰借款成立ノ際ソレトナク同軍用ノ武器供給ノ内諾ヲ与ヘタル行懸モアリ夫ハ別トスルモ參戰軍編成ニ要スル武器（未タ參戰軍用トシテ武器ヲ供給シタルコトナシ）ハ南方討伐用ニ用ヒラル虞ナキニ付米國公使ニ於テモ異存ナカルヘク右ハ無論差支ナキコトト思考セラレタルニ付特ニ電報中ニ除外例トシテ掲クル必要ヲモ見ザリシ次第ナリト答ヘラレタリ

一、今後申込ノモノハ妥協成立後ニ供給スヘキ条件ヲ以テ予メ交渉ヲナシ置クハ将来外國トノ競争ヲ發生スル場合ニ有利ナル立場ヲ保有スヘキニ付最モ必要ヲ認ム此点ハ陸軍省トシテ最モ重キヲ置ク所ナリ

註 左掲ノ別表

九一 对中国借款善後策ニ関スル件（一）六二七

(別表)

今後引渡スペキ中國行兵器ノ表

(大正七年十一月二十八日陸軍省調)

山	黑	龍	山
廈門			
警			
西察	江	江	東
七、六、五、七、九、			
二、二、一、三、四、			
四、〇、八			
七、八、一、八、一、			
二、一、八、二、〇、			
九、〇			
六、三、三野、同、三、			
式、八、八、砲、式、八、			
山、銃、銃、彈、藥、實、			
砲、包、包、車、包、銃、			
三、三、一、			
〇、〇、〇、〇、六、			
〇、〇、〇、〇、〇、〇、			
四、〇、〇、〇、二、四、			
大正八年一月、大正八年一月、大正八年一月、			
大正八年一月、大正八年一月、大正八年一月、			

二 參戰借款ニ基ク分ハ全然別詮議トス

内田外務大臣ヨリ

# 参戦借款ニ依ル对中国兵器供給問題ニ関シ回 在中国小幡公使宛（電報）

雷人傑

別  
稿

貴電第一八二三號二閏

往電第一一八二號八勿論

ノナレドモ其後解釈二付

ハ多少了解ヲ異ニシ居ル

前記貴電ノ次第モアリ

兵器弾薬ノ交付ヲ總テ見

(欄外註記) 内聞ノ儘記入ス  
契約ハ全部支那中央政府ト泰平組合トノ間ニ實施セルモノニシテ表中配当先ハ該政府ノ命ニヨリ組合ノ実施スヘキモノヲ

(釋文註記)

前内閣時代ニ於テ承認ヲ与ヘ既ニ契約ヲ締結シ八年四月迄

九 対中国借款善後策二閥スル件（一）六二九 六三〇

果陸軍次官ヨリ東少将へ宛テ別電第三号ノ通ノ電訓發セラ  
ルルコトナレリ不取敢御含迄

（別電）

一月二日内田外務大臣發在中国小幡公使宛電報第三号

支那側ヘノ兵器供給問題ニ閑シ陸軍次官ヨリ東少將坂西少將及

齋藤中將宛電訓全文

第三号

支那側ヘ兵器供給ニ閑シテハ小幡公使宛外務大臣發電報ニ  
就テ承知セラルヘキ様曩ニ電報（註）シタル處最近外務大臣宛小  
幡公使發電報ニ依レハ新軍編成用兵器供給ニ付坂西少將ト  
小幡公使間ニ於テ意見ノ相違アルヤニ見受ケラルルニ付テ  
ハ目下陸軍外務両省ニ於テ前記小幡公使宛外務大臣電報第  
一一八二号ノ實行上ニ付審議ノ点モアルヲ以テ此際錯誤ヲ  
避クル為何分ノ義回報スル迄ハ兵器彈薬ノ交付ヲ決行スル  
コトハ總テ一時見合ハスコト承知アリタシ

註 第一次參戰借款兵器費支弁ニ閑シ陸軍次官ヨリ東少將坂西  
少將及齋藤中將宛電訓全文左ノ通  
「參戰借款及兵器供給問題ニ閑シテハ外務大臣ヨリ小幡ア  
使宛電報シアルニ依リ同公使ト談合セラルヘシ」  
尚右陸軍次官ヨリ東、坂西両少將及齋藤中將宛電訓案二通

六六二

ハ一月二日蒲中佐ガ外務省ニ持參シタルモノナリ

六二九 一月四日 在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

參戰借款ニ依ル新軍編成用兵器ノ供給ニ閑シ

請訓ノ件

第一二号

（一月五日接受）

貴電第三号陸軍次官發東少將宛電報中本使ト坂西少將トノ  
間ニ意見ノ相違アルヤニ見受ケラルル旨記載シアルモ其實  
当方ニ於テハ何等意見ノ相違アルニ非ザルハ御承知ノ通り  
ト存ゼラルル處其後尚研究ノ結果坂西少將宛電報中ニ所謂  
二千万円ヨリ購入スヘキ兵器トハ實際ニ於テハ Arms  
Ammunition 以外ノモノ即チ諸種ノ機材ニ止マル趣ニテ  
畢竟該電報モ客年貴電第一一一八二号ノ趣旨ト抵触スル処ナ  
キコト判明セリ就テハ前記東少將宛電訓ニ對シテハ同少將  
ヨリ回電シタルニ付御覽ノ上更ニ何分ノ義御回電ヲ請フ  
六三〇 一月五日 在北京坂西陸軍少將ヨリ

新雲鵬ハ依然參戰借款金受領ノ責任者タルニ

付予算月額ニ從ヒ右交付セラレ度旨曹汝霖ヨ  
リ申出ノ件

（一月六日接受）

六三一 一月八日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
福田參謀次長宛（電報）

坂極秘電第二号

六三一

一月八日

福田參謀次長宛（電報）

坂極秘電第二号

## 九 対中国借款善後策二関スル件(一)六三二

### 取置クノ必要ニ付稟申ノ件

第八七号

支那参戦軍ノ編成ハ着々進捗中ノ模様ノ處南方ニ於テ夙ニ非難ノ声ヲ揚ゲ其裁撤ヲ迫リ或ハ遂ニ和平會議ニ於ケル重要問題ノ一タラムトスル勢アルノミナラズ北方有識者間ニ於テモ同軍ガ終ニ一部権勢家ノ私兵ト化シ或ハ其政権把握ノ道具ニ供セラルルニ至ラズヤト窃ニ憂慮スルモノモ鮮力ラズ将又最近ニ至リ新聞紙上ニ於テモ往々危險視スベキ該軍将来ノ行動ニ関シ論議セラルアリ既ニ当地方在留ノ外人間ニ於テモ一問題ト成リツツアルモノノ如ク現ニ往電第46号所載ノ通り米国公使モ之ニ言及シ又去ル十四日聯合國公使會議ノ際白国公使ヨリ本件ニ関スル質問出デタルモ本使ノ手前ヲ憚リテカ本件ハ茲ニ之ヲ論スルヲ妥当トセズトノ説出デ議題トハ成ラザリシモ彼等ノ間ニハ既ニ研究問題ト成リ居レルハ事実ニ相違ナカル可ク尚本月十七日本使英國公使往訪ノ際ニモ日本ガ参戦軍編成ノ為メ資金ト軍器ヲ供給スルコトハ既定ノ約束ニシテ今逮ニ之ヲ中止シ得ザル事情ハ之ヲ諒トルモ歐洲戰爭モ既ニ實際終了シ且支那ガ無用ナル多數ノ軍隊ニ依リ財政上甚大ノ苦痛ヲ嘗メツツ

前記ノ措置ヲ執ルコトハ公使館附武官青木中將坂西少將等同意見ナリ

六三三 一月二十日 在中国小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

歐洲戰爭終了ノ今日参戦軍編成ノ必要消滅シ  
タル旨英國公使切言並我方ノ見解説示ノ件

第九三号

支那新軍編成ニ対スル英國公使ノ感想ニ付テハ往電第八七号中段ニ言及致シ置キタルモ右ハ一月十七日本使同公使ヲ往訪客年貴電第一一八二号御電訓ヲ執行シタル節同公使ノ述ベタル所ニシテ即チ同日本使ハ同公使ニ対シ右貴電英訳ヲ過日米国公使ニ送リタルモノノ写ナリト断リテ之ヲ手交シ何等質問ノ廉アラバ欣シテ説明スベキ旨述ベタル處英國公使ハ本使ノ厚意ヲ謝シ之ヲ一読シタル後参戦軍編成ノ為メ曩ニ日本側ニ於テ引受ケタル資金及兵器ノ供給ハ既定ノ義務ニ属スルガ為メ之ヲ中止スル事能ハザル事情ハ十分之ヲ諒トシ居ル次第ニシテ別段日本政府ノ処置ニ対シ何等批評等ヲ加フル意思ニアラザルモ单ニ自分一個ノ考ヲ申述ブレバ元來参戦軍ナルモノハ歐洲戰爭終了ノ今日支那トシテ

アル今日何ノ必要アリテ斯カル新軍編成ヲ取急グ次第ナリヤ支那人ノ心理ハ自分ニ於テ殆ド了解ニ苦ム所ナリト述べ参戦軍ナルモノハ今ヤ内外人間注目ノ標的トナリ之ガ将来ノ危険ニ付テモ既ニ論議ノ種トナリ居ル状況ナルニ鑑ミル時ハ該軍發生ノ為メ資金ト軍器トノ供給ヲ約シタル我がトシテ只漫然此儘ニ黙過スルハ独リ益外間ノ誤解ヲ深クシ或ハ終ニ我国ノ一部政治家ガ今日ヨリ深ク支那一部ノ軍閥ト結托シ他日何等カノ活動ニ資センガ為メノ予備の措置ト信ゼラルニ至ラムモ保シ難ク万一斯カル誤解疑惑ノ伝ヘラルニ至ラバ帝国政府ノ信用ニ甚大ノ累ヲ及ボスハ言ヲ俟タザル處ニシテ其節ハ臨機ニ必要ナル打消ノ措置ヲ講ズルノ急務ナルハ勿論ナルモ此際寧ロ帝国政府ヨリ支那政府ニ對シ進デ前記世ノ上ノ論議ヲ指摘シ参戦軍ガ将来断ジテ右ノ如キ危険ナル用途ニ供セラルモノニアラザル旨ノ言質ヲ取り置キ一ハ以テ該軍ノ危険ナル傾向ヲ防止シ一ハ以テ此際帝国政府ノ立場ヲ明瞭ナラシムルノ舉ニ出ヅル方可然ト思考ス何分至急御詮議ノ上其結果御電報ヲ請フ

六三四 一月二十三日 在中国小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

参戦軍ノ用途ニ關シ中国政府ヨリ言質取置方

九 対中国借款善後策二関スル件(一)六三三 六三四

## 二付回訓ノ件

第八九号

貴電第八七号御来示ノ趣ハ當方ニ於テモ同感ナルニ付貴官ハ至急右貴電末段御来示ノ如キ言質ヲ取付ケラルコト致度シ尤モ右言質取付ニ際シテハ帝国政府ノ立場ヲ明瞭ナラシムル点ニ特ニ重キヲ置カル様致度シ以上陸軍大臣ニ於テモ同意ナリ

六三五

一月二十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

参戦借款金受領ノ責任者ハ依然斬雲鵬ナル旨

坂西ヨリ陸相ニ電稟シ陸相之ヲ諒承シタル件

第一一〇号

参戦借款資金交附ノ件ニ関シ坂西少将ヨリ陸軍大臣ニ宛テ斬雲鵬力陸軍總長ニ任命セラルモ依然参戦軍訓練処督練タル以上該借款金受領ノ責任者ニ変更ヲ來スヘキモノニ非スト思考スル旨電稟アリタルニ対シ同大臣ヨリ右ニテ差支ナキ旨回電済ナリ御承知カト思考スルモ為念

六三六 一月二十八日

内田外務大臣ヨリ  
高橋大臣宛

ノ趣了承当省ニ於テハ異議無之候間可然御取計相成度此段及御回答候也

大蔵大臣男爵 高橋是清（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

追テ右御決定ノ上ハ朝鮮銀行ヘハ貴省ヨリ其旨御示達

相成度

（附記二）

参戦借款払渡額

（富田國庫課長ニ就き問合）

一、 払済額

元

（此換算額金三百五十万円）

ノ情況報告及之ガ対策ニ付稟申ノ件

銀二、一二三、九四〇、〇〇

（此換算額金三百五十万円）

（第二四号）

右ハ第一月分即十一月ニ支払フ可キ分ニシテ十二月四

日交付シタリ

一、未払額中第二月分即十二月ニ支払フ可キ分ハ

一、第三月分即八年一月分モ第二月分ト同額ニシテ其総額ノ支払ハ約十ヶ月ヲ要ス可シ

九 対中国借款善後策二関スル件（一）六三七

## 参戦借款第三月分払渡期日ニ關シ照会ノ件

附記一 右ニ対スル大蔵省回答

二 参戦借款払渡額 合計

三 督理参戦軍訓練処及所属各機関毎月経費概算

政機密送第二二号

本件ニ關シ北京中華滙業銀行ヨリ此際概算式百九拾万円払渡方ヲ朝鮮銀行ヘ申越候趣同行木村理事長ヨリ申出有之右ハ貴省森理財局長ヘモ同様申出タル趣ニ候處同借款第二月分ハ本月十五日払渡シタル次第ニテ多少遅延シタリトハ申シ乍ラ爾來未タ半ヶ月ニモ満タザル次第ニ有之且支那現下ノ政情ニ鑑ミ將又本借款ニ対スル内外ノ世論ヲモ考慮シ帝國ニ対スル誤解ヲ避クルノ必要モ有之折柄ナルヲ以テ當方ニ於テハ第三月分ハ矢張前月分払渡期日ヨリ相当期間経過後ニ払渡スコト致度意嚮ニ有之候處右ニ対スル意見一応承知致度此段及御照会也

（附記一）官房秘乙第一七五号

参戦借款第三月分払渡期日ニ關シ回答ノ件  
本件ニ關シ一月二十八日附政機密送第二二号ヲ以テ御照会

（附記三）

督理参戦軍訓練処及所属各機関毎月経費概算合計

（朝鮮銀行ヨリ送付）

	元
第一月	二、一二三、九四〇、二一
第二月	一、七二一、二〇三、三
第三月	一、七二一、二〇三、三
第四月	一、五四八、八五〇、二三三
第五月	六三七、七五一、二八三
第六月	以後未定ナルモ概メ第五月ニ準ズ

六三七 一月三十日

（在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報））

段祺瑞ヘノ武器供給説ニ關スル南方各派憤慨

一月二十九日章行嚴來訪同夜目下当地ニ在ル他ノ代表中唐紹儀ヲ除ケル五名ト更ニ南京ニ赴キ両三日滞在北方代表者ト会商意思ノ疏通ヲ計ル筈ニテ今朝一同唐紹儀宅ニ会合打合ヲ済マシタリト云ヒ其節軍器供給問題ニモ及ビタルガ聞キ及ブ所ニ依レバ段祺瑞ハ三月末ニ卒業スペキ将校下士等本月ニ繰上げ終業セシメ軍隊編成ヲ速成シテ時局ニ対応セ

## 九 対中国借款善後策二閥スル件（一）六三八

六六八

ントン從テ三月末ニ受取ルベキ軍器ヲ貴方ニ逼リテ本月供給セシメタルモノナリトノ事ナル處此ノ如キハ益々諒解シ難キ所ナリト申出タルニ付本官ハ本件ハ実ハ何等承知シ居ラザルモ若シ右供給ガ事實ナリトセバソハ当事者ノ契約ニ依リ政府ニ於テ之ヲ阻止シ得ル理由ナキモノニ止マルベク政府ハ再三借款及武器供給ノ中止ヲ言明シ居レルニ見テ特ニ此際段ノ便宜ヲ計リ右ニ背反スルガ如キ措置ヲ黙過スルモノトハ信シ難ク殊ニ目下議会モ開会中ニテ些細ノ事ニモ世論ヲ惹キ起シ易キ場合ニ於テ到底有リ得ベカラザル所ト考フル旨説示シ置キ彼モ若干ハ諒解シタルヤニ認メタルモ本件ニ關スル南方各派ノ憤慨ト恐慌ハ極メテ著シキモノト認メラレ逢フモノトシテ右ニ言及セザルナキ状況ニ有之而シテ唐寶鍔ガ「ハタ」（？）ヘノ内話ニ依レバ本件ハ当初王克敏ガ唐紹儀ニ洩セルモノナリトノ事ニテ南北両代表ノ或者ノ間ニハ既ニ十分ノ諒解アリ北方内部ノ消息ハ筒抜ケニ南方側ニ伝ハリ居レル所ト認メラルニ付テハ我方ニ於テモ本件等ニ關スル事情ハ可成率直ニ之ヲ公表スルコト却テ誤解ヲ避ケルノ良策タルベシト思考ス尚章ガ其節ノ談話ニ依レバ陝西問題モ數日内ニハ解決シ得ベシトシ地点ニ就

テハ彼ハ衷心南京説ヲ持スルヤノロ口吻ヲ洩シ居ルモ結局上海ニ決定スペシト云ヒ二月中ニハ開会ニ至ルベシト観測シ居リ其語氣ニ見テ彼ハ來滬以来其反対派トモ意思ノ疏通ヲ得タルモノト認メラル将又最近唐紹儀宅ニ事務所ヲ置キ譚輝ヲ秘書長トシ事務ヲ開始セル趣ナリ

北京、廣東へ電報シ南京へ郵送セリ

六三八 二月三日 在中国小幡公使（ヨリ）  
内田外務大臣宛（電報）

参戦軍改メ国防軍ハ南北和平ノ障害トナラザ  
ルヲ保障スル旨中国政府ニ於テ声明スル様外

交部ニ申入レタル件

第一六八号 （二月四日接受）

貴電第八九号ニ閑シ

二月二日外交總長代理ニ会見シ支那参戦軍ヲ改メテ国防軍ヲ編成スル件ニ付大要往電第八七号ノ趣旨ニ基キ南方ニ於テハ南北妥協ノ障害ナリトテ非難ノ声高ク北方有識者間ニテモ一部權勢家ノ私兵トナシ或ハ将来政權爭奪ニ利用セラルニ至ラズヤト窃カニ憂慮スル者鮮カラズ且ツ北方新聞ニモ論議スルモノアリ又英米両国公使ノ如キモ本使ニ同軍

ニ對スル日本ノ借款及軍器引渡ヲ南北統一ニ至ル迄中止ス

ル方可然旨申述居タリ其他在留外国人間ニモ是ヲ非難スル

モノ多ク要スルニ該軍ノ編成ニ関シ内外ニ於テ鮮ナカラズ

誤解疑惑ノ存スルハ遺憾ナガラ事実ト認メザルベカラズ而

シテ帝国政府ガ衷心支那統一ト平和トヲ希望セル誠意ニ拘

ラズ此種ノ疑惑ヲ内外ニ抱カルルハ帝国政府トシテ頗ル不

本意ヲ感シ且ツ帝国政府ノ立場トシテ最モ苦痛トスル処ナ

ルニ付一ツハ是等外国ノ誤解疑惑ヲ釈ク為一ツハ以テ帝国

政府ノ本問題ニ關スル立場ヲ明ニスル為此際貴国政府ヨリ

国防軍ハ断シテ南北平和會議ノ障害ニ利用セラレラレザル

ベキハ勿論将来ニ於テモ決シテ其運用ガ政權ノ争奪又ハ内

乱ノ原因ヲ誘致スルガ如キ事實ナキヲ保障スル旨ヲ我国ニ

声明セラルコト頗ル好都合トスル旨申タル処同總長代理

ハ右誤解疑惑ヲ去ル要アルハ尤ノ次第ナルモ參戰軍ノ借款

及軍器供給ノ契約等ハ外交部ニ於テ全然承知セザル処ニ付

外交部ヲ經テ右声明方ヲ詮議スルハ如何カト思考スル旨申

述ベタルモ結局國務會議ニ本使申込ノ次第ヲ提議シ何分ノ

儀回答スベキ旨答ヘタリ

上海広東へ電報セリ

九 対中国借款善後策ニ關スル件（一）六三九

六六九

南京へ郵送セリ

六三九 二月三日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

参戦軍及參戰借款ニ關シ松井大佐ヨリ唐紹儀

二手交ノ上原參謀總長來電写ニ付唐紹儀ノ林

出ニ表明セル意見報告並右ニ対スル措置振請

訓ノ件

別電 一 同日在上海有吉總領事發内田外務大臣宛電

報第二八号

参戦軍及參戰借款ニ關シ上原參謀總長ヨリ

松井大佐宛電訓

二 同日在上海有吉總領事發内田外務大臣宛電

報第二九号

右ニ対スル唐紹儀ノ反対意見書

（二月四日接受）

二月三日松井大佐來訪、參謀總長ヨリ軍器問題ニ對シ別電  
第二八号ノ如キ弁解ノ電報ニ接シタルニ付右ヲ齎シテ唐紹儀ヲ訪問説明シ置キタリトノコトニ付念ノ為、夫レトナク  
林出ヲ唐ノ許ニ遣シタル処、唐ハ同大佐ノ手交セル右參謀

総長電報ヲ示シ、身ヲ振ハシテ憤慨シ実ハ日本ヲ出發スル

前、原首相ヨリ何等力不平モアル場合ハ遠慮ナク申出ヅル様、親切ニ申吳レラレタルニ付本日コソハ電報ニテ不平ヲ漏ラサンカトモ考ヘタルモ是レ却テ誤解ヲ招クノ因タランコトヲ虞レ躊躇シツツ有リタル際恰モ來訪ニ接セルニ付テハ希バ有吉ニ告ゲテ詳細政府ニ伝達ヲ希望スト前置シ同電（脱）編成ノ軍隊ヲ總テ參戰軍ト称シ之ヲ国防軍ト称セズ然モ既ニ歐洲ノ戰乱終ル何ゾ參戰ノ必要アランヤ、実ハ曩ニ外交團ニ一書ヲ送リテ国防軍ノ不必要ヲ説キ今ヤ南北双方ハ他國ノ熱誠ナル勸告ヲ容レ和平ニ歩ヲ進メツツ有ルニ当リ北方ニ於ケル（脱）閥ハ新ニ三箇師団編成ヲ急ギツツ有ルノ全然不条理ナルヲ訴ヘ右ヲ直ニ中止スル様後援ヲ請ヒ置キタル次第ナル処、若シ松井ノ示セル本電ニシテ其儘紹ニ内示セラレンカ右ノ文意ハ大ニ変更セザルヲ得ザル次第ナリシナルベシト言ヒ、国防軍ナルモノノ倪嗣冲ノ移送兵ノ一部及ビ竜濟光等ノ部下ヨリ成レル事実ヲ挙ゲ此種ノ軍隊ニ南方側ヨリモ人ヲ送レト言フガ如キ吾人ニ取り大ナル侮辱ニシテ恰モ段祺瑞ニ降参スベキ旨勸告セラルト同様ノ意味トナルベク、更ニ況ヤ本問題ヲ和平會議ニ上サザル様ニスベシトノ申出ニ至リテハ北方側ト雖モ敢テシ能

ハザル所ニシテ全然干渉ト称スルモ不可アルコトナシ、蓋シ思フニ是レ參謀本部ノ意思ニシテ貴国政府ノ与リ知ル所ナラザルベシト推察スルモ實以テ意外千万ナリト慷慨シ國防軍廢止セザル可ラザル理由ハ話ニテハ了解シ難シト考ヘ四ケ条ニ分チ松井ニ書面ニテ申送ル答ナルモ有吉ニ伝ヘテ右ノ次第逐一政府ニ申送フレタキ旨繰返シ居タル趣ニ之有リ、右參謀總長ノ電報文其儘手交スルガ如キ松井トシテハ甚ダ不謹慎ノ處置ト認メラレタルニ付松井ニハ直ニ右ノ趣ヲ傳ヘ今後ハ口頭ニテ趣旨ヲ伝達シ感情ノ疎隔ナカラシム様忠告シ置キ、同人モ若干了解尚ホ適當ノ弁解ヲ試ムヘキ旨申居レルニ付今後此種ノ説明等ハ寧ロ外務省ヨリ本官ヲ經テ之ヲ与フル方寧ロ得策トスペク特ニ本件ニ關シテハ本官ヨリモ何等力説明ヲ与ヘ置ク必要有リト認ムル処、右ニ對シ何分ノ御訓示ヲ請フ、尚ホ唐ヨリ松井ニ与ヘタル反駁文ハ別電第二九号ノ通ニシテ支那ニ於テ軍隊ガ概不私入若ハ其一派ノ私有ニシテ國家ニ屬セザル觀有ルハ御承知ノ如ク從ツテ唐等ガ国防軍ヲ段一派ノ私有ト認メ居レル点ハ特ニ注意ヲ要スト認ム。北京ヘ電報セリ

（別電一）

二月三日在上海有吉總領事發内田外務大臣宛電報第二八号  
參戰軍及參戰借款ニ關シ上原參謀總長ヨリ松井大佐宛電訓

第二八号

參戰軍ハ日支軍事協定ノ精神ニ基キ両国軍事提携ノ端緒タラシメントスル真意ニ胚胎スルモノニシテ現ニ我將校指導ノ下ニ着々建設中ニ有レバ今逮カニ是ヲ中止スルコトノ不可能ナルハ貴官ノ万々御承知ノ通ナリ然ルニ最近參戰軍ニ關シ内外非難ノ声漸ク高マレルヲ以テ我ガ政府ハ是ガ緩和策トシテ最近哀願シ来レル第二次參戰軍借款ヲ拒絶シ南北統一後ニ讓ルコトトシ又近ク參戰軍隊ヲ内争ニ使用セザル言質ヲ支那政府ニ強要スル筈ナリ右ノ外南方派ノ憂慮シアル段一派ノ私兵タラシメザル為ニハ該軍編制当事者ニ注意シ普ノク各方面ノ人士ヲ網羅セシムルコトニ昂メツツアリ（不明）南方有力者ニ対シ右參戰軍ニ關スル公正ナル日本ノ態度ヲ説明スルト共ニ參戰借款及ビ兵器ノ交付ハ前内閣締結ノ條約ニシテ關係銀行及ビ同会社ノ既定義務トシテ第一次參戰借款成立當時全部支那政府ニ交付シ支那ハ是ヲ朝鮮銀行ニ預金シ爾後所要額丈ヶ引出シツツアリ從ツテ本借款ハ全然支那ノ手中ニ属シ日本ハ唯是ヲ參戰軍隊編制費以

九 対中国借款善後策ニ關スル件（一）六三九

第二九号

（別電二）

二月三日在上海有吉總領事發内田外務大臣宛電報第二九号  
參戰軍及參戰借款ニ対スル唐紹儀ノ反対意見書

ハザル所ニシテ全然干渉ト称スルモ不可アルコトナシ、蓋シ思フニ是レ參謀本部ノ意思ニシテ貴国政府ノ与リ知ル所ナラザルベシト推察スルモ實以テ意外千万ナリト慷慨シ國防軍廢止セザル可ラザル理由ハ話ニテハ了解シ難シト考ヘ四ケ条ニ分チ松井ニ書面ニテ申送ル答ナルモ有吉ニ伝ヘテ右ノ次第逐一政府ニ申送フレタキ旨繰返シ居タル趣ニ之有リ、右參謀總長ノ電報文其儘手交スルガ如キ松井トシテハ甚ダ不謹慎ノ處置ト認メラレタルニ付松井ニハ直ニ右ノ趣ヲ傳ヘ今後ハ口頭ニテ趣旨ヲ伝達シ感情ノ疎隔ナカラシム様忠告シ置キ、同人モ若干了解尚ホ適當ノ弁解ヲ試ムヘキ旨申居レルニ付今後此種ノ説明等ハ寧ロ外務省ヨリ本官ヲ經テ之ヲ与フル方寧ロ得策トスペク特ニ本件ニ關シテハ本官ヨリモ何等力説明ヲ与ヘ置ク必要有リト認ムル処、右ニ對シ何分ノ御訓示ヲ請フ、尚ホ唐ヨリ松井ニ与ヘタル反駁文ハ別電第二九号ノ通ニシテ支那ニ於テ軍隊ガ概不私入若ハ其一派ノ私有ニシテ國家ニ屬セザル觀有ルハ御承知ノ如ク從ツテ唐等ガ国防軍ヲ段一派ノ私有ト認メ居レル点ハ特ニ注意ヲ要スト認ム。北京ヘ電報セリ

九 対中国借款善後策二関スル件（一）六四〇 六四一

ハ事情全然変更シテ絶対ニ其存在ノ理由ヲ失ヒタリ段氏  
ハ明カニ參戰ノ目標既ニ消エテ中国ノ非難ヲ招クヲ知リ

終ニ參戰軍ヲ改メテ国防軍トナシ以テ中外ヲ欺罔セムト

圖レリ此ノ点ハ日本ノ注意ヲ請フ

二、支那ハ財政困窮シ軍隊ヲ解散スヘキモ軍隊ヲ増加スヘ  
カラス況ヤ国防軍ハ皆倪嗣冲ノ移送隊及張懷芝、竇濟光

等ノ解散兵ヲ以テ補充セルモノナルヲヤ一方ニハ裁兵ノ  
名義ヲ以テ借款ヲ支出シ一方ニハ參戰借款ヲ以テ無頼漢

ヲ募集シツツアリ財政上ヨリ論スルモ国防軍ナルモノハ  
決シテ存在セシムヘカラス

三、近年革命屢々起リ南北互ニ紛争スルモノ皆軍隊ヲ濫リ  
二增加シ武人不法ノ致ス所ニシテ現今軍隊ヲ解散シ督軍

ヲ廢スルコトハ既ニ當國ノ輿論トナレリ支那ノ政事上ヨ  
リ云フモ国防軍ナルモノハ第一ニ裁撤スヘキモノナリ

四、国防軍ハ以上ノ理由ニ依リ当然廢止スヘキモノナレハ  
既ニ成立セル第一回ノ借款モ宜シク其ノ交附ヲ停止シ其  
ノ用途ハ南北會議ニテ決定スヘク既ニ契約セル軍器モ其  
ノ交附ヲ停止スヘシ

ノ用途ハ南北會議ニテ決定スヘク既ニ契約セル軍器モ其  
ノ交附ヲ停止スヘシ

公使ヘ電報セリ

第一八〇号

（二月六日接受）

往電第一六八号ニ關シ二月五日米国公使ニ面会ノ節外交總  
長代理ヘ申入レノ次第同公使含迄トシテ内話シ置ケリ英國  
公使ヘモ今明日中ニ同様取計フ筈

南京、上海、廣東領事ヘ電報セリ

六四二 二月六日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

參戰軍ノ用途ニ關シ中國政府ヨリ保障取付方

ニ付英國公使ニ内話ノ件

第一八五号

（二月七日接受）

往電第一八〇号ニ關シ

二月六日英國公使ニ面会ノ節大要米国公使ニ對スルト同様  
ノ説明ヲ与ヘタル處同公使ハ支那政府ヨリ証言ヲ取付クル  
丈ニテハ如何ニモ不安心ニシテ南北妥協一先成リタル後段  
祺瑞一派ガ支那政府ノ外交機關ヲ通シテ為シタル右証言ヲ  
反古ニシ反対派抑圧ノ威圧ニ之ヲ用ユル位ノコトハ極メテ  
易々タルコトト思料セラル旨ヲ述ヘ頗ル熱心ニ縷々国防  
軍編成中止ノ必要ヲ極論セルニ付本使ハ前來同公使其他同  
僚ノ本件ニ対スル意見ハ逐次帝国政府ニ電報シ置キタルガ

易々タルコトト思料セラル旨ヲ述ヘ頗ル熱心ニ縷々国防  
軍編成中止ノ必要ヲ極論セルニ付本使ハ前來同公使其他同  
僚ノ本件ニ対スル意見ハ逐次帝国政府ニ電報シ置キタルガ

六四〇 二月四日 墓原政務局長ヨリ  
木村朝鮮銀行理事宛

六七二

參戰借款金第三月分払渡期日ニ關シ指示ノ件

拝啓陳者參戰借款第三月分払出方ノ件ニ關シテハ不取敢客

月二十八日附ヲ以テ及回答置候処其後本件ニ關シ大蔵省ト  
モ協議ノ結果同借款第二月分ハ客月十五日払渡シタル次第

ニテ多少遲延シタリト雖モ爾來漸々半ヶ月ヲ経過シタルノ  
ミニ有之且支那現下ノ政情ニ鑑ミ將又本借款ニ對スル内外

ノ世論ヲモ考慮シ帝国ニ対スル誤解ヲ解クルノ必要有之折  
柄ナルヲ以テ第三月分ハ矢張リ前月分払渡期日ヨリ相當期  
間経過後ニ払渡スコトト致候ニ付他日更メテ御申出ノ上當

方ノ指示ヲ俟テ御措并相成様致度此段回答申進候也

註 回答ノ趣旨左ノ通

「本件ニ關シテハ目下大蔵省ト協議中ニ付追テ何分ノ儀申  
柄ナルヲ以テ第三月分ハ矢張リ前月分払渡期日ヨリ相當期  
間経過後ニ払渡スコトト致候ニ付他日更メテ御申出ノ上當

方ノ指示ヲ俟テ御措并相成様致度此段回答申進候也」

六四一 二月五日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

參戰軍ノ用途ニ關シ中國政府ヨリ保障取付方

ニ付米国公使ニ内話ノ件

公使ヘ電報セリ

先ニ繰返シ説明シタル通り本件日本側已定義務ニ屬スル部  
分ハ何分變更シ兼ヌル義ニ付已ムヲ得ズ便法トシテ前述証  
言ヲ取付置カントスル次第ニシテ帝国政府ノ苦衷ハ充分諒  
察アリ度キ旨答置キタルガ英國公使ハ尚不安ニ感スル旨ヲ  
申続居タリ、往電第一八〇号ノ通り転電セリ

六四三 二月六日 東在中国日本公使館付陸軍武官ヨリ  
上原參謀總長宛（電報）

參戰軍ノ目的用途ニ關スル声明方ニ付斎藤中

將ヨリ徐樹錚ニ申入レタル件

支極秘第四十八号

（二月七日接受）

去ル三日小幡公使ハ外交總長代理陳次長ニ參戰軍ハ真正ナ  
ル國家的軍隊ニシテ南北和議ノ進行ヲ阻礙シ又南方ヲ圧迫

スル軍隊ニアラザルコトヲ支那政府ヨリ声明センコトヲ求  
メタルニ陳次長ハ參戰借款ハ日、支西國陸軍間ニ商議セラ  
レタルモノニシテ外交部ノ与ラザル處ナリトテ之力声明ニ  
関シ難色アリ依テ小幡公使ノ依嘱ニ依リ斎藤中將ハ昨五日

靳雲鵬ニ面会シ此際支那政府カ前記ノ声明ヲ為スハ南方ヲ  
シテ北方ニ誠意ナシトノロ実ヲ無効ナラシメ單リ日本ノ立

場ノミナラズ北方軍部ノタメニモ公明ナル態度ヲ表示スル

九 対中国借款善後策ニ闇スル件（一）六四四

六七四

モノニシテ極メテ必要ナル旨ヲ告ケタルニ斬ハ之ニ闇シ何等異存ナシ然レトモ予ハ段參戰督弁ノ命ニ依リ実行者タルニ過キザレハ寧ロ參謀長タル徐樹錚ニ告ケラレ徐ヨリ段ニ上申スルコトニ致シタシト希望セリ依テ同日斎藤中將ヨリ之ヲ徐樹錚ニ告ケタルニ徐ハ之ヲ快諾シ早速段祺瑞ニ申出テタル後何分ノ処置ヲ為スヘシト云ヘリ

六四四 二月八日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

參戰軍編成計画中止方協同勧告ニ闇シ日米英  
各国公使討議ノ模様報告並參戰軍ノ用途ニ闇  
シ中国政府ノ保障取付ノ為ノ協同申入ニ満足  
セザル場合ニ対スル我態度ニ付請訓ノ件

第一九八号 （二月九日接受）

二月七日敵国人送還問題ニ闇スル聯合国代表者會議アリ右會議後首席公使ヨリ本使及仏、米ノ各公使ニ居残ヲ求メ首席公使ノ希望ニヨリ米國公使先ヅロヲ開キ參戰軍編成ニ付テハ諸方面ヨリ種々反対ノ申出ニ接シ居レル旨冒頭シ支那ニ於テ過剰軍隊ノ解散ノ実行ヲ急務トスル今日同軍編成計劃ヲ続行スルノ不条理ニシテ且南北妥協ノ一大障害タル可

キコトヲ縷述シタル後五國公使ヨリ支那政府ニ對シ右計劃中止方協同勧告ヲ試ムルコトトナシテハ如何ト提議シ英國公使先ヅ極力之ニ賛成シ兼テノ持論ヲ敷衍シタルニ付本使ハ同軍編成ト我方ハ已定義務トノ關係ニ付先ニ諸公使ニ對シナシタルト同様ノ説明ヲ繰返スト同時ニ往電第一六八号外交總代理ヘ申入レノ義ニ闇シテハ英米両公使ニ対シナシタルト同様ノ次第ヲ語リ（仏國公使ヘハ之レヨリ先未ダ談話ノ機会ナカリキ）同軍編成中止ニ闇スル提議根本ノ動機ニ対シテハ帝国政府ニ於テモ同感ヲ吝マザル次第ト思料スルコト前内閣時代承認ヲ与ヘタル三銀行及泰平組合ノ已定義務ヲ変改セシムルコトハ如何ニ政府ノ力ヲ以テスルモノシ難キガ為已ムヲ得ザルモ便法トシテ保障取付ノ拏ニ出デントスル次第ナル旨帝国政府苦心ノ存スル処ヲ極力説明シ兎ニ角右本使申入ニ対スル支那側ノ態度如何ヲ見タル上ナラデハ本使トシテハ帝国政府ノ訓令ヲ得ザル限り米國公使ノ提議ニ同意シ難シト思料スル次第ヲ答ヘタルモ仏米両國公使ハ尚不安ノ言ヲ繰返シ殊ニ英國公使ハ往電第一八〇号ノ説同様切リニ右保障ノ當ニナラザルヲ云々シタルニ付本使ハ保障ノ當ニナラザル政府ナラバ唯今提議ノ如キ同

軍編成中止ニ付協同勧告ヲナシ表面之ニ服従シタリトテ矢張果シテ右中止ヲ實行スルヤ否ヤモ当ニナラザル可シト一矢ヲ酬キタルニ英國公使ハ右ハ一應尤モナルモ我々同僚協同シテ申入ルニ於テハ我々ノ願ニ対シテヨモヤ斯マデ不信ノ挙ニ出ヅベシトハ思ハレズト云ヘルニ付本使ハ果シテ我々同僚協同シテ申入ルコトガ右様ノ効力アリト認メラル以上ハ本使ガ已ニ支那政府ニ申入レタル保障ニ付スル要求ヲ更ニ我々同僚協同シテ申入ルコトシテハ如何、元來同軍編成ノコトハ兎モ角支那政府ノ内事ニシテ外國使臣ガ協同シテ右ノ計画自体ノ中止ヲ勧告スルガ如キハ明カニ重大ナル内政干渉トイフ可ク右保障取付ニ止ムレバ斯カル嫌モナシ旁々其方然ル可シト思考スト述ベタル結果英國公使ハ尚兔ヤ角云ヒ居リタルモ米國公使ヨリハソレモ一策ナル可キカトノ說出デ結局本件ハ更ニ熟考スルコトニ決シ散会セリ

卑見ニ依レバ本件ハ何レノ道再ビ五國公使間ノ討議ニ上ルコト思料セラルニ付テハ万ニ各國公使ガ本使ノ試案タ

ル五國協同ニテ支那政府ヨリ保障取付（往電第一六八号申入ノ趣旨）ニ満足セザル場合ニ対シ本使ノ執ルベキ態度ニ

上海、廣東へ電報セリ。

六四五 二月十日 在上海松井陸軍大佐ヨリ

参戰軍編成問題ニ闇シ中国各紙日本攻撃及南方側

ノ意向ニ付報告ノ件

上海電第二号

ノ通信ヲ送リ上海ノ各外字新聞之ヲ掲載シテ日本ノ政策ヲ誹謗シ殊ニ「チャイナ、ブレス」「ミラード」等ノ米国紙ハ殊更ニ支那人ヲ煽動スルノ記事ヲ掲ケアリ支那新聞ハ總テ之ヲ転載シ民国日報、新聞報、新申報等最モ猛烈ニ日本ヲ攻撃セルモ日ヲ経テ事件ノ真相漸ク明瞭トナリ漸次氣抜ノ氣味アルモ尚一般ニ我政府殊ニ軍事当局ノ真意ニ疑惑ヲ有スルコト疑ナク唐紹儀等南方政客ノ真意ハ寧ロ之ニ依テ北京參戰軍隊撤廃ノ輿論ヲ沸騰セシメントスルニ在ルヘシト雖モ唐自身モ尚小官ニ対シ日本政府ノ真意ヲ了解スル能ハスト語リ又彼ハ曩ニ東京ニ於テ自ラ我内閣諸公ヨリ參戰借款中止ノ証言ヲ得帰來之ヲ南方同志ニ伝ヘ飽ク迄日本政府ノ同情掩護ニ依リ妥協ノ態度ニ出ヅル能ハズト懇ヘ又參戰軍中措置少カラズ之ニ背馳シ今ヤ南方同志ニ対シ弁明ノ辞ナク自然唐自ラ亦強硬ノ性質ニ出ヅル能ハズト懇ヘ又參戰軍中止ハ朱啓鈴、王克敏等北方代表共ニ同一ノ意見ニテ徐世昌ノ真意亦是ニアリテ和平會議ノ勞頭必ズ之ヲ決スヘキ性質ノモノナルコトヲ縷述シテ我政府ノ反省ヲ促サンコトヲ乞ヘリ然レトモ其真意絶対ニ之ヲ撤廃セザレバ止マズト云フニ

アラズ将来国防軍ノ編成ニ就テ和平會議ニ依ソテ協商スルノ余地アルモノト為スガ如シ此他章行嚴、張繼等ハ日本当局ノ真意ヲ解セザルニアラザルモ一般ノ形勢上此際日本力參戰軍ヲ猶予スルニアラザレバ独リ南北妥協ニ惡影響ヲ与フルノミナラズ日支両國ノ關係ハ之ニ依ツテ益々離間セラルヘク彼等自ラ亦策ノ出ヅヘキナキ旨ヲ告白セリ

六四六 二月十四日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

參戰軍編成及兵器供給問題ニ関連シ未発送

兵器引渡ハ和平會議終了迄延期ニ決定シタル

#### 旨回訓ノ件

別電 同日内田外務大臣發小幡公使宛電報第一九四号

兵器供給問題ニ關シ田中陸軍大臣ヨリ東武官宛

電訓

第一九三号

貴電第一九八号ニ関シ

其後陸軍大臣ト協議ノ結果二月十四日陸軍大臣ヨリ東少將ニ対シ別電第一九四号ノ通リ電訓ノコトニ決定セリ不取敢

貴官御含迄申進ス尚本件ニ付テハ追テ何分ノ義申進スル筈

二付夫迄ハ外國公使ヘハ何等申入レラレザル様致度シ又右電文中未發送ノ分トハ陸軍ヨリ泰平組合ニ已ニ引渡済ノ分ヲモ含ムモノニシテ現ニ次回即チ二月二十五日積出ノ準備中ノモノヲモ差控方陸軍側ヨリ泰平組合ニ指令ノ答從テ已ニ支那側ニ交付済ノ分以外ニハ和平會議終了ノ時期迄ハ支那側ニ交付セラルモノハナキニ至ル次第ナリ

右別電ト共ニ為参考上海、南京、廣東、漢口、奉天、天津ニ転電アリタシ

#### （別電）

二月十四日内田外務大臣發小幡公使宛電報第一九四号

兵器供給問題ニ關シ田中陸軍大臣ヨリ東武官宛電訓

第一九四号

支那和平會議ニ關聯シテ參戰軍編成及兵器供給ニ対シ目下内外ノ物議ヲ惹起シ居レル次第ナル処帝国トシテハ參戰借款、兵器供給ハ共ニ絶対ニ中止スル能ハザルモ大局上此際列國ノ日本ニ対スル疑惑ヲ一掃スル必要ト南北ノ和平ヲ勧告シタル帝国ノ立場トヨリ考フルトキハ兵器ノ供給ハ和平ノ政情ニ鑑ミ將又本借款ニ対スル内外輿論ヲ考慮シテ與國ニ対スル誤解ヲ避ケル必要ニ依リ前月分ノ払渡期日ヨリ相当期間經過後払渡スコトト致度ニ付キ他日改メテ申出テノ際ニ當方ノ指示ヲ待テ取計フヘキヲ示サレタル由ナリ右ハ極メテ漠然トシタルコトニシテ支那ノ政狀ト本借款ニ対スルヲ急務ナリト考フ貴官ハ右ノ趣旨ニ基キ兵器ノ交付ハ

十数日以内ニ解決セラルル見込ナルベク寧口唐紹儀一派等カ英米両国人等ト相互ニ利用シ且ツ利用サレツツ帝国ニ対スル反感ハ今後益々激増セラルベキヲ以テ當分ハ交附ノ許可ナカルベシト思ハル抑々參戰軍編成事務ヲシテ北京政府常設機關タル陸軍部ニモ參謀本部ニモ全ク单独ニ特設セル參戰軍訓練所ニ而モ段祺瑞ノ執務機關ニシテ參謀長徐樹錚ノ主管セル特別參戰事務所ニモ無關係ナル如ク處理セシメツツアル所以ハ之ヲシテ南北政争以外ニ超然タラシメンコトヲ期シタルハ今更喋々要セズ若シ帝国政府ニシテ此際此事ニ關シ毅然タル態度ヲ持セズ徒ラニ帝国ニ対スル嫉妬心ニ起因セル英米人ノ対日反感ヲ利用シ共鳴シツツアル輕佻浮薄ナル支那南北人種ノ言動ニ重キヲ置キ而モ却テ徐総統始メ今日眞面目ニ支那ノ将来ヲ懸念シ參戰軍ノ基礎確立ニ対シ少カラヌ期待ヲ有シ之カ援助ヲ為シ來リタル帝国ノ誠意ニ感謝シツツアル比較的眞摯誠実ナル人士ヲシテ帝國ノ眞意ヲ疑ハシメ甚シク失望セシムルカ如キハ決シテ支那ニ対シテ帝国ノ重キヲナス所以ニアラザルコト明ナリ最近支那有力者間ニハ歐戰平和予備会ニ於ケル主要議題タル國際聯盟ニ重キヲ置キ支那政局ノ長キ不安定ナルニ鑑ミ

万事ヲ列國協同ノ力ニ預リテ解決シ甚シキハ國ノ統治迄ヲ列國ノ協同ニ委任シ野心國殊ニ我帝国ノ支那ニ於ケル發展ヲ掣肘セントスル所謂親米親英派ノ日ニ其数ヲ増サントシツツアリ數日前外交委員会ニ交通總長曹汝霖不在ノ際支那鉄道列國協同管理案ヲ議決シ之ヲ在仏國陸徵祥ニ打電シ十三日國務會議ニ於ケル曹汝霖ノ熱烈ナル反対意見ニヨリ再ヒ前電報ヲ取消シタルカ如キハ其ノ一例ナリ小官窃ニ察スルニ我帝国内ニハ深ク帝國将来ノ利害ヲ究メズ漠然トシテ支那ニ於ケル列國協同統治ヲ希望シ結局將来自ラ手ヲ焼ク所以ヲ知ラザルモノ頗ル多キヲ覺ユ依リテ此際閣下等ノ御尽力ニ依リ少クトモ此等支那統治列國委任論者ヲシテ更ニ頭ヲ抬ゲ得ザル為比較的眞摯誠實ニ帝国ト共ニ東亜ノ局面殊ニ支那ノ獨立ヲ保全セント思惟シツツアル人士ヲシテ帝國ノ眞意ヲ疑ハシメザル行為ヲ取ラルコト最モ必要ナリト信ズ已ニ支那ノ權内ニ屬スル參戰借款ノ交付ヲ渋ブルガ如キ小刀細工的処置ハ政府反対者ノ歓迎ヲ受クルコトナク寧口帝國政府ノ威信ヲ失シ眞摯ナル人士ノ心ヲ繫ク能ハズ事小ナルニ似テ其害ヤ大ナリ參戰軍編成ヲ中止セハ南北妥協支那統一ハ直チニ成立スベシトノ確乎タル保証ヲ与ヘ

得ルモノ恐ラク一人モナカルベシ過日上海松井大佐ニ示サレタル參戰軍ニ關スル電訓ノ趣旨ハ恐ラク交換セラルルコトナキヲ信スルモ外務省政務局長ノ木村理事死書翰ヲ見テ聊カ所見ヲ陳ス要ハ帝國ヲ信賴スル支那人士ヲシテ不安ノ念ヲ抱カシムルハ帝國ノ權威ヲ損シ英米ヲシテ和平的ニ支那ヲ征服セシムル所以ナルヲ信ス當方ニテモ支那人指導上ノ覺悟ヲ要ス借款金交付ノ件至急何分ノ指示ヲ乞フ

シテ右様ノ事實アリヤ御取調ノ上返電アリタン参考ノ為メ上海ヘ転電シ南京ヘ郵報セシメラレタニ

六四八 二月十五日 内田外務大臣ヨリ  
在中國小幡公使宛（電報）

国防軍及西方邊防籌備處廃止ニ關スル上海發  
新聞電報ノ報道ハ事實ナリヤ問合ノ件

第一一〇号

二月十四日上海發新聞電報ニ段祺瑞ハ徐樹錚ノ建議ニヨリ国防軍及ヒ西方邊防籌備處ヲ廢止シ近畿陸軍專司訓練處ト改メ徐総統モ之ニ同意シ朱啓鈴ヲシテ各方面へ伝ヘシメタリトアリ又同電ニ上海新聞ノ伝フル所ニ拠レハ北京政府ハ軍事協定ニヨリ坂西少将ヲ總教習ニ任シ他ノ日本士官十二名ト共ニ各師團旅团ノ將校二日本式ノ教育ヲ授ケシムルコトトナリ右ノ機関ハ本月十五日正式ニ成立スベシトアリ果

CONFIDENTIAL

MEMORANDUM

On February 6th the Japanese Minister in Pe-  
king spoke to Sir John Jordan about the force consist-  
ing of three divisions and three brigades which is  
being organized by General Tuan Chi Jui and his  
newly formed Bureau of National Defence. Mr. Ob-  
ata informed the British Minister that he had warn-  
ed the Chinese Minister for Foreign Affairs on the  
2nd instant of the apprehensions caused amongst the  
Representatives of South China at the Shanghai Con-  
ference by the creation of this force which was  
also regarded by the foreign communities in China

with the greatest disfavour, and that he had suggested to His Excellency that, with a view to calming these fears, the Chinese Government should issue a Declaration to the effect that the forces in question would not under any circumstances be employed for the purpose of exercising coercion against the South. The Japanese Government did not, however, Mr. Obata told Sir John Jordan, consider that these circumstances would justify them in cancelling or suspending the contracts which had been made with Japanese firms for equipping the new Army.

Sir J. Jordan was invited by Mr. Obata to express his views on this suggestion, which had been submitted to the Chinese Cabinet, but to which they had not yet replied. Sir John answered frankly that he considered it incumbent upon the Powers interested in the restoration of peace in China not to ignore the fact, so clearly shown by all the news received from the South, that is was idle to think that any mere Declaration would either obtain credence in China or would have the effect of deterring Tuan Chi Jui and his adherents from prolonging the internal un-

In reply the Japanese Minister asked to be informed of the evidence to show that the force in question was likely to be used for coercive measures against the South and suggested that a Declaration should be obtained as described above.

Sir John Jordan, associating himself with Dr. Reinsch's opinion, once more emphasized the uselessness of such a declaration for allaying the apprehensions which were so widely entertained and with such justice. He pointed out that the size of the force and the absence of any necessity for it at a time when both parties had agreed to confer at Shanghai for the purpose of settling their differences were in themselves proofs that the force was being organized for no good purpose.

Mr. Obata, after discussing the matter further with his Colleagues gave them to understand that he would again consult his Government and the United States Minister intimated that, if he were given an opportunity, he would be prepared to suggest a scheme, which would, he considered, afford a practical means of dealing with the question.

rest that was already afflicting China and from eventually bringing upon the country the horrors of civil war.

The action of Japan in encouraging the creation of a force which was manifestly intended to coerce the South, if the Shanghai Conference failed to produce an agreement, and in supplying equipment for it, was creating a highly dangerous situation.

Very similar views on the subject of the organization of the War Participation Bureau were expressed on the 7th instant by the United States Minister at a meeting of the Representatives of the Powers interested in the Consortium. His Excellency said that he felt bound to let the Chinese Government know that the Representatives of the Allies were fully alive to the delicate situation in which the President and his friends were placed in consequence of the intrigues of the Northern Military Leaders, and that the Allies intended to give concrete proof by their action that they were not encouraging a movement which was likely to impede the restoration of unity in China.

His Majesty's Government understand that the War Participation Bureau, which was founded to organize a Chinese force for participation in the war in Europe, has been converted by General Tuan Chi Jui into a Bureau for organizing troops for so-called "national defence", for which purpose Tuan and the General associated with him have concluded an Agreement with Japan under which they are to receive military equipment to the value of 20,000,000 Dollars, of which 3,000,000 dollars worth has already been delivered. It has further been reported that the real objects of the Bureau are to secure the continued tenure of power by the Northern Military Party, in order to coerce the South in the event of failure of the Shanghai Conference, and to put an end to the issue of any further pacific mandates by the President.

It appears to His Majesty's Government that China cannot solve this problem unassisted, inasmuch as, if on the one hand the Bureau is supplied with the necessary means to enable it to continue organizing the force in question, all attempts at a

rapprochement between North and South are foredoomed to failure, while, on the other hand, if the Chinese Government refuse to accept further supplies under this Agreement with Japan, this would amount to a rupture with General Tuan and the powerful military leaders with the inevitable consequence of an outbreak of civil war.

In these circumstances the British Ambassador has received instructions from His Majesty's Government to bring to the notice of the Japanese Government the state of affairs described above, which the British Government views with considerable apprehension. His Majesty's Government do not doubt but that the Japanese Government, like themselves and the other Allied Governments, are earnestly desirous of seeing China reunited and peaceful. They trust therefore that the Japanese Government, acting in accordance with the sentiments which they have up till now professed, will cancel the contracts in question, or, if that is impossible, at all events suspend these arrangements for the supply of money and the delivery of munitions of war and arms

which are evidently intended to be employed for the purpose of coercing the South, and thus to have the effect of preventing peace and order from being restored in China.

British Embassy,  
Tokyo.

February 16, 1919.

註 本件ニ關シテハ前掲ノ大正八、大正一、大正二及大正四ハ  
各文書参照

大正〇 1月十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛 (電報)

英國大使ニ説明シ置キタルニ付通報ノ件

別電 同日内田外務大臣在中國小幡公使宛電報第一  
1月〇日

国防軍及參戰借款ニ關シ英國政府申越ノ大要

第111九号

二月十六日英國大使來省幣原次官ニ面会大要別電第一一〇  
号ノ如キ覺書ヲ交附シ其趣旨ヲ縷述シタルニ付次官ハ兵器  
ニ關シテハ今回帝國政府ハ南北妥協成立スル迄新タナル船  
積又ハ交附ヲ停止セんマルノ措置ヲ執ルコトニ決定シタル

血ヲ告ケ次ニ參戰借款ハ兵器ノ場合ト趣ヲ異リソニニ契約

成立後直ニ全額交付ヲアシタルモノニシテ該金額ハ更ニ支

那政府ヨリ同政府ノ勘定トシテ我銀行ニ預ケ入レタルモ今

日ニ於テハ性質上普通ノ銀行預金ナルカ故ニ銀行ハ若シ右

預金ノ引出ヲ拒絶スルトキハ支払停止トシテ破産手続ニ附

セラルベキ順序トナルベク斯ノ如キハ銀行ノ信用維持上到

底忍ビ得ルコトニ非ザル由ヲ説明シ將又國防軍自体ノ問題

ハ全然支那内部ノ事柄ニ屬シ帝國政府ハ支那ノ意嚮ニ反シ

テ同軍編成ノ計画ヲ支持スルノ意思ナキト共ニ之カ廢止ヲ

支那ニ請求スルノ責任ヲモ執ルコトヲ得ズスノ如キハ等シ

ク内政干涉ノ嫌ヲ免レズト思考ス從而同軍ヲ存置スルカ為

メ預金ヲ引出スカ又ハ之ヲ廢止シテ預金ヲ他ニ振向クルカ

ハ全然支那ノ隨意ニ決スベキ問題ニシテ其孰レニ決定セラ

ルルモ帝國政府ガ段祺瑞一派ノ活動ヲ援助センガ為國防軍

編成ノ計画ヲ支持スト言フ如キハ甚ダンキ誣妄ノ臆説ニシ

テ帝國政府ハ支那ノ何レノ党派トモ結託スルノ有害無益ナ

ルコトヲ最モ能ク諒得スルモノナリト述べタル處同大使ハ

委曲了解シタルニ付可然本国政府ニ電報スベキ回答ヘタリ

御命令

本電ハ別電ト共ニ上海総領事ヘ転電アリタシ  
在英米仏大使ヘ転電セリ

(別電)

一月十七日内田外務大臣在中國小幡公使宛電報第一一〇  
国防軍及參戰借款ニ關シ英國政府申越ノ大要

第二二〇号

二月六日在支日本公使ノ英國公使ニ語リタル処ニ拵レバ日

本公使ハ二月二日外交總長ニ對シ国防軍ニ關スル南方側ノ

疑惑ヲ指摘シ如何ナル場合ニ於テモ南方抑圧ノ為メ国防軍

ヲ使用スルガ如キコトナキ旨声明方ヲ慾憲シタル趣ナルガ

英國公使ノ觀ル処ヲ以テセバ支那ニ於テハ一篇ノ声明ハ別

段ノ効果アリトモ認メ難シトナリ二月七日四國團閣

ノ使用スルガ如キコトナキ旨声明方ヲ慾憲シタル趣ナルガ

英國公使ノ觀ル処ヲ以テセバ支那ニ於テハ一篇ノ声明ハ別

九 対中国借款善後策二関スル件（一）六五一 六五二

六八四

開催ニ決定シタル今日国防軍ノ必要ヲ認メザルコト自身既  
ニ同軍組織ノ目的ヲ疑ハシムモノナリト述べ英國政府ノ  
承知セル處ニ拠レバ參戰軍ノ後身タル国防軍組織ノ為段祺  
瑞及ヒ段派ノ將軍連ハ日本ト二千万弗ノ軍器借款ヲ締結シ  
其内既ニ三百万弗ノ交附ヲ受ケタリトノコトニテ其眞ノ目  
的ハ上海和平會議不成功ノ場合ニ南方抑圧ノ為メ北洋軍閥  
ニ於テ依然權力ヲ把持シ且ツ大總統ヲシテ此上和平促進ノ  
命令ヲ發セザラシメンガ為ナリトノコトナリ英國政府ノ觀  
ル処ヲ以テスレバ支那ハ他ノ援助ナクシテ自ラ本件ヲ解決  
スル能ハズ何トナレバ国防軍組織ニ必要ナル手段ニシテ依  
然供給セラルニ於テハ南北和平ハ到底成立セザルベク又  
支那政府ニシテ日本ヨリノ供給ヲ謝絶スルニ於テハ段祺瑞  
並ニ段派ト絶縁スルコトトナリ其結果内乱ヲ惹起スルコト  
トナルベシ右ノ事情ニ依リ英國大使ハ本国政府ノ訓令ニ基  
キ上記ノ事態ヲ日本政府ガ英國政府  
並ニ聯合各國政府同様支那ノ和平統一ヲ熱望セラル從來  
ノ態度ニ顧ミ本件契約ヲ破棄セラルカ又ハ破棄シ難シト  
セバ是非借款並ニ兵器彈薬ノ交附ヲ中止セラルニ至ルベ  
キヲ信ズ

六五一 二月十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）  
幣原次官ノ英國大使ヘノ説明英米公使ニ伝ヘ  
ラレタキ件

第二二二号

往電第二一九号參戰借款兵器供給等ノ件ニ關シ次官ヨリ英  
國大使ヘ説明ノ次第ハ此際不取敢貴地英米公使ノ舍ミ迄ニ  
内密伝ヘ置カルル様致シタン

对中国兵器供給延期ニ關シ在北京東少將宛電

訓写通報ノ件

陸軍省 陸密第五二号  
送達 大正八年二月十七日 田中陸軍大臣ヨリ  
陸軍大臣 田 中 義 一（印）  
外務大臣子爵 内田康哉殿  
支那ヘ兵器供給方延期ノ件通牒

大正八年二月十七日 内田外務大臣宛

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通東少將ヘ電報致置候条御承知相成  
度候也

（別紙）

支那ヘ兵器供給方延期ノ件

支那和平會議ニ關聯シテ參戰軍編成及兵器供給ニ對シ目下  
内外ノ物議ヲ惹起シ居レル次第ナル処帝国トシテハ參戰借  
款、兵器供給ハ共ニ絶対ニ中止スル能ハサルモ大局上此際  
列國ノ日本ニ對スル疑惑ヲ一掃スルノ必要ト南北ノ和平ヲ  
勧告シタル帝国ノ立場トヨリ考フルトキハ兵器ノ供給ハ和  
平會議終了ノ時期迄各方面共一時之ヲ延期シ一意平和ヲ促  
進スルヲ急務ナリト考フ貴官ハ右ノ趣旨ニ基キ兵器ノ交付  
ハ之ヲ実行スルコト勿論ナルモ支那全局ノ平和ノ為未發送  
ノ分タル甘肅、山東口ノ全部湖北及中央口ノ残余ハ一時發  
送ヲ延期スルノ止ムヲ得ザルニ至レル所以ヲ陸軍當局者ニ  
十分説得セラルル様取計ハレ結果返待ツ

六五三 二月十八日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

国防軍及西方邊防籌備處廃止ノ新聞報ニ關ス

ル坂西少將ノ説明回報ノ件

第二四八号  
(一月十九日接受)

貴電第二一〇号ニ關シ

六五四 二月十九日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

兵器供給停止及參戰借款預金ニ關スル幣原次

官ノ英國大使ニ對スル説明ニ付問合ノ件

九 対中国借款善後策ニ關スル件（一）六五三 六五四

六八五

停止スルコトニ決定ノ旨ハ貴電第一九四号末段支那側ニ對スル説得前ノ今日之ヲ言明セラルモ差支ナカリシ次第ナリヤ東少将ノ談ニ依レハ説得ハ可成速ニ之ヲナス考へナルモ陸軍當局ノ都合ニテ尚其運ヒニ至ラサル趣ナリ(二)支那政府ニ於テ參戰借款預金ヲ他ニ振向クルモ帝国政府ニ於テ異議ナシトノ点ハ客年貴電第一一八二号ニ基キ參戰借款預金ノ使途ニ付テハ嚴重監視ヲ行フヘキ旨本使ヨリ各國公使ヘ説明シタル處ト些カ矛盾スルノ嫌ナキヤ貴電第二三一号英米両公使ヘ内話ノ際ノ心得迄右二点ニ關シ折返ヘシ何分ノ義御回訓ヲ請フ

前出六二七文書ノ註1参照

六五五 二月十九日 内田外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛(電報)

#### 兵器供給停止及參戰借款ニ關シ唐紹儀ニ対シ

#### 日本ノ態度方針説明方回訓ノ件

第三一号

貴電第二七号ニ關シテハ其後參謀次長ヨリ松井大佐ヘ唐ノ同官ヘ交付セシ覺書ヲ返還セシムルト同時ニ我陸軍當局ノ意図ヲ説明スヘキ旨ノ電訓ヲ發シタル趣ナルニ就テハ貴官

ハ唐紹儀ニ対シ本大臣發在支公使宛往電第二一九号次官ヨリ英國大使ニ説明シタルト同様ノ趣旨ニ拵リ篤ト帝国政府ノ態度方針ヲ説明シ置カルル様致シタシ北京へ転電アレ

六五六 二月十九日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

#### 參戰借款ガ南方圧迫ノ具ニ供セラレザル様唐紹儀申出ノ件

第五四号

二月十九日朝唐紹儀來訪和平會議ニ於ケル南方總代表ノ資格ニテ挨拶ニ來レリト述べ尚參戰借款残余千七百万円ヲ一時ニ交付セラルヤノ説アルニ対シ昨日閣下宛電報ヲ發セリトテ其全文ヲ手交シ実ハ昨夕刻右ヲ齋ラシテ事務所ニ来レルモ退庁後面会ヲ得ザリシ次第ナリトセリ右ニ対シ本官ハ公使宛貴電幣原次官ガ英國大使ニ説明セラレタル趣旨等ヲ体シ同借款ハ契約成立後全部交付セラレ北京政府ヨリ更ニ我銀行ニ預ケ入レ勘定トナリ居ルモノニテ既ニ普通ノ預金ナル以上銀行ハ支払ヲ拒ミ得ザル立場ニ居ルモノト承知シ居ル旨及右ヲ引出スト否ト若クハ之ヲ他ニ振リ向クル等ハ支那政府自体ノ決定スベキ筋ナルベキ旨説明ヲ与ヘタル

テ申進ズベキ旨答ヘ置ケリ尚同人ハ昨日別電第五五号ノ通陳外交次長ノ來電ニ対シ電報ヲ發シタルハ事實ナリトシ貴國大臣乃至公使ノ説明ニハ満足スルモ陳ノ回答ノ曖昧ナルヲ責メタルモノナリト云ヒ更ニ英米及支那人間最近排日ノ風潮ニ關シテハ彼ハ右ハ貴國軍閥ガ其因ヲ為シタルニ外ナラズ貴國現政府ノ誠意ハ之ヲ諒解シ殊ニ牧野男ノ巴里ニ於ケル宣言ノ如キ大ニ之ニ首肯シ両国人民之ニ共鳴スベシト考フルモ軍閥ガ常ニ或程度迄此等ヲ掣肘シ若クハ妨害ヲ為スノ感アルハ甚ダ遺憾ニシテ是レ即チ誤解ノ原因ナリト為シ居タリ(十九日)

北京、廣東へ電報シ南京へ郵送セリ

六五七 二月十九日 東在中国日本公使館付陸軍武官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

#### 兵器供給停止ハ中國政府ヲ窮地ニ陥ラシムベ

必要ガ事実トセバ之ガ使途ヲ監視セントスル精神ナルベキ

ニ顧ミ我政府ニ於テハ右ニ依リ不需要ナル金額ノ引出ヲ阻止シ得ル途モアラバ素ヨリ斯カ取計フコトト考フルモ何レ

事実ノ真相ハ大臣ヨリ説明アルベシト思考スルニ付其上ニ時ニ引出サルルガ如キハ甚ダ信ジ難ク且若シ右武官副署ノ拒絕セラレ差支ナカルベシトセルニ付本官ハ右残額ガ一

九 対中国借款善後策二関スル件(一) 六五八

予想スル能ハザル処ナリ故ニ兵器供給ヲ和平成立迄中止

セラルルコトハ支那側トシテハ無期延期ト異ナラズ是レ

軍事協定ノ精神ニ基キ生シタル參戰軍編成ノ無期延期ヲ

意味スルモノニシテ軍事協定ノ有効期限ノ延長ト全ク矛

盾スルノミナラズ他日軍事協定廢止ノ議論出デタル場合

參戰督弁國務院ニ於テ是力必要ヲ主張セントスルモ自縛

自縛其理由ノ發見ニ苦ムヘキ立場ニ在ルコトヲモ考慮シ

置カレシコトヲ希望ス此ノ点ニ關シテハ小幡公使ヘ回電

セル写ヲ陸軍省へ送リ置ク

二、外務省ヨリ公使館來電ニ依レハ幣原次官カ一昨日英國

大使ニ向テ參戰借款ヲ參戰軍ニ使用スルト或ハ是ヲ他ニ

流用スルトハ支那側ノ隨意タルベシト回答セラレタルカ

如シ之レ外電第一一八二号ニ基キ既ニ小幡公使ヨリ參戰

借款ハ參戰軍編成ノ為使用スルモノニシテ是ヲ他ニ流用

セシメサルコトヲ當地各國公使団ニ声明セシコトト矛盾

ス之レ又支那側ノ立場ヲ困難ナラシムモノナリト思考

ス

六五八 二月十九日 在中國小幡公使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

參戰軍廢止ノ時機ニ到ラザル旨及之ガ改変ノ

議モナキ旨曹汝霖談話ノ件

(二月二十日接受)

貴電第二一八号ニ閲シ

二月十七日本使曹汝霖ニ會見ノ際曹ハ參戰軍ニ關シテハ未

タ歐洲講和會議終了セザルト西比利亞方面目下ノ状態トニ

鑑ミ政府トシテハ現状ノ儘存置シ之ヲ廢止スルノ時機ニ至

ラズトノ意見ヲ有シ未タ同軍ヲ改編シテ陸軍部ニ隸屬セシ

ムトノ議ナシト述ヘ本使ヨリ最近英米公使ガ日ヲ分チテ別

タニ大總統ニ謁見シタル際新聞報道ニ依レハ參戰軍廢止方

ニ閲シ大總統ニ勸告シタリトノ記事アルガ事實ナリヤト問

ヒタルニ曹ハ英米両公使ヨリ大總統ニ對シ直接右勸告ヲナ

シタル事實ヲ承知セズ英米公使ハ人ヲ介シテ大總統ニ對

シ參戰軍ノ不必要ヲ述ヘタルニ對シ大總統ハ歐洲講和會議

ノ終了セサルト西比利亞方面目下ノ状態トニ鑑ミ政府トシ

テハ現状ノ儘存置シ之(同軍)ヲ廢止スルノ時機ニ至ラズ

又中央政府トシテハ相當訓練アル軍隊ヲ有スルコト必要ナ

ルニ付參戰軍ノ必要ナキノ時期ニ至ラハ適當ノ方法ヲ以テ

同軍ヲ改編スルコトアルヘシ尤モ參戰軍ハ直チニ他ニ内乱

ノ申出レハ同電中段ニ申述ヘ置キタル通り支那側ヘノ説明ヲ

申入レハ後ニスヘキハ申ス迄モナシ(ニ就テハ本件借

款ノ預金ニ対シ其支途ノ監視スヘキハ勿論ノ儀ニシテ次官

ノ英國大使ニ説明ノ要旨ハ右ノ金額カ既ニ全額ノ交附ヲ了

シ支那政府ノ勘定トシテ銀行ニ預ケ入レアル以上我方ヨリ

彼レ此レ干涉スヘキ筋合ニアラズト云フニ在リ次ニ引出シ

ト云ヘルハ國防軍自体ノ問題ガ仮リニ支那政府ノ任意ニヨ

リ廢止ニ決シタル場合ニハ資金ノ剰余ヲ他ニ振り向クルモ

差文ナシトセル次第ニシテ(但シ此ノ場合改メテ両國ノ協

議ヲ要スヘキハ勿論ナリ)支那政府ニ於テ引続キ同軍ノ編

成計画ヲ支持セル今日其流用ニ異議ナシトセルニハ非ズ支

途ノ監督ハ依然励行スル次第ナレハ客年往電第一一八二号

第二四一号

貴電第二五〇号ニ關シ(ニ就テハ既ニ政府ノ方針決定シ往

電第一九三号末段ニ申添ヘ置キタル通り最近發送スヘキ分

ヲモ差止メタル次第ニテ支那側ノ応答振如何ニヨリ再考ノ

余地ヲ存スル次第ニアラザルモ一応ノ順序トシテ東少將ヨ

リ其筋ヘノ回答ヲ待チツアリシ折柄既ニ英國大使ヨリ本

九 対中国借款善後策二関スル件(一) 六五九

六五九 二月二十日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

兵器供給停止及參戰借款預金ニ關シ幣原次官

ノ英國大使ニ与ヘタル説明ニ對スル疑点ニ付

回訓ノ件

第二四一号

六八九 二月二十一日 在中國小幡公使宛(電報)

六八九

九 対中国借款善後策二閥スル件（一）六六〇 六六一 六六二

六九〇

ノ趣旨ト何等矛盾スル所無之ニ付右ニ御承知アリタシ

註 日本外交文書大正八年第二冊上巻三七四文書

六六〇 二月二十日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

參戰借款ニ閥スル唐紹儀ヨリ内田大臣宛電報

公表ノ件

第六〇号 (一月二十一日接受)

往電第五四号ニ閥シ唐紹儀ヨリ閣下ニ宛テタル電報ハ護法  
政府通告處ヨリ発表セラレ英漢字新聞ニ掲載セラレタルニ  
付右御含置ヲ乞フ

北京へ電報セリ

六六一 二月二十日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
福田參謀次長宛（電報）

參戰軍編成ノ進捗狀況及必要經費不足ニ閑シ

報告ノ件

坂極秘電第一七号 (一月二十一日接受)

參戰軍三師編成着々進捗シ今ヤ兵員徵募ノ過半ヲ終リ来三

月上旬ヨリ概々軍隊教育ニ任シ四個月内ニ歩、工、輜重、

五個月内ニ騎兵、砲兵第一第一期諸課目ヲ教育シ終ルヘク

十九日軍事課保管金僅ニ五萬元ニシテ各師団ヨリ要求シ來  
ル至当ノ經費ヲ支払ヒ得サル狀況ナリ  
大正八年二月二十日 木村朝鮮銀行理事ヨリ  
参戰借款金第三月分払出承認方申請ノ件

木村朝鮮銀行

外務省

木村雄次（印）

理事

政務局長

埴原正直殿

拝啓陳者參戰借款第二月分払出日タル一月十五日ヨリ一ヶ

月ヲ経過致シ先方ヨリモ第三月分払渡方請求有之候ニ付テ

ハ既定予算書ニ基キ第三月分一、七二一、二〇三元三払出

致度ト存候ニ付テハ何卒御承認被成下度尚本件ニ閑シテハ  
高尾總領事ヨリ電話ヲ以テ御申聞ノ次第モ有之候ニ付キ御

承引被成下度此段得貴意候也

追テ第四月分以降払出ニ付テハ既定予算書ニ基キ相当期

間経過後先方ノ請求有之候ハバ左記ノ通り払渡ノコトニ取  
計致度ト存候ニ付其都度御承認ヲ仰ギ出デ可申候得共大体

ノ御内認ヲ得置度御願申上候

元

第四月分 一、五四八、八五〇、二三三  
(払渡日三月二十日前後)

第五月分 六三七、七五一、二八三

(同 四月二十日前後)

第六月分以後ハ未定ナルモ概々第五月ニ準ス

六六三 二月二十一日 増原政務局長ヨリ  
木村朝鮮銀行理事宛

參戰借款金第三月分払出承認ノ件

拝復陳者參戰借款払出ノ儀ニ閑シ二月二十日附御書面ヲ以  
テ御申越ノ趣聞悉致候右ニ就テハ高尾總領事ヨリ電話ニテ  
ヲ請フ

九 対中国借款善後策ニ閥スル件（一）六六三 六六四

指示セシムル预定ナリ訓練所直屬教育機關銃劍術體操ハ將  
校学生三十二名、下士学生五十四名ヲ召集シ本月二十四日  
教育ヲ開始ス

交通、軍需、衛生ノ三教練所モ引続キ教官及教練所附幹部  
ノ教育ヲ開始スル皆ナリ然ルニ借款金ノ交付ナキ為小官初

メ各應聘武官ノ參画セル諸計畫實施ニ障碍ヲ生シ自ラ威信  
ニ閑ス

十九日軍事課保管金僅ニ五萬元ニシテ各師団ヨリ要求シ來  
ル至当ノ經費ヲ支払ヒ得サル狀況ナリ

大正八年二月二十日 増原政務局長（印）

参戰借款金第三月分払出承認方申請ノ件

木村朝鮮銀行

外務省

木村雄次（印）

理事

政務局長

埴原正直殿

拝啓陳者參戰借款第二月分払出日タル一月十五日ヨリ一ヶ

月ヲ経過致シ先方ヨリモ第三月分払渡方請求有之候ニ付テ

ハ既定予算書ニ基キ第三月分一、七二一、二〇三元三払出

致度ト存候ニ付テハ何卒御承認被成下度尚本件ニ閑シテハ  
高尾總領事ヨリ電話ヲ以テ御申聞ノ次第モ有之候ニ付キ御

承引被成下度此段得貴意候也

追テ第四月分以降払出ニ付テハ既定予算書ニ基キ相当期

間経過後先方ノ請求有之候ハバ左記ノ通り払渡ノコトニ取  
計致度ト存候ニ付其都度御承認ヲ仰ギ出デ可申候得共大体

ノ御内認ヲ得置度御願申上候

元

第四月分 一、五四八、八五〇、二三三  
(払渡日三月二十日前後)

第五月分 六三七、七五一、二八三

(同 四月二十日前後)

第六月分以後ハ未定ナルモ概々第五月ニ準ス

六六三 二月二十一日 増原政務局長ヨリ  
木村朝鮮銀行理事宛

參戰借款金第三月分払出承認ノ件

拝復陳者參戰借款払出ノ儀ニ閑シ二月二十日附御書面ヲ以  
テ御申越ノ趣聞悉致候右ニ就テハ高尾總領事ヨリ電話ニテ  
ヲ請フ

九 対中国借款善後策ニ閥スル件（一）六六三 六六四

上海、広東、南京へ電報セリ

(答) 参戦軍ヲ移シテ内争ニ用ヒザルコトハ本職及政府ヨリ  
リ屢々南方政府及南方首領等ニ電報シアル故今改メテ之ヲ公布スルノ要ナカルヘシ

六六五 二月二十一日 在北京坂西陸軍少将ヨリ

参戦軍、西北辺防軍、日中関係、南北和平会

議等ニ関シ青木中将及徐總統間質疑応答二付

報告ノ件

坂極秘電第一九号 (二月二十二日接受)

本日青木中将ハ徐總統ニ会见シ左ノ問答ヲナシタリ

一、近來南方派及列国公使等ハ参戦軍ヲ以テ南北媾和ニ害有リトシ種々ノ法ヲ講シテ之カ停止又ハ取消ヲ要求シツツアリ是ニ対スル大總統ノ決心如何

(答) 参戦軍ハ元來歐洲大戰ニ参与スヘク貴國ト特別ノ協約ニ依リ編成セルモノニシテ歐洲戦争モ未タ全然終了セルモノト視ル能ハズ東露ノ形勢亦安心ヲ許サザル形状ニ於テ之ヲ停止シ裁撤スルカ如キハ断シテ為サザルトコロナリ

二、参戦軍カ各方面猜疑ノ中心トナレル故過般小幡公使ハ外交部ニ対シ参戦軍ノ内争ニ使用セズトノ政府ノ声明ヲ求メタル筈ナルガ此際之ト同様ノ意味ヲ政府ヨリ全般ニヲ望ム

四、聞ク参戦督弁處ノ下ニ参戦軍ノ外西北辺防軍ナルモノアリト此軍ハ如何ナル性質ノモノナリヤ

(答) 北軍ハ前内閣ノ末期ニ徐樹錚ノ召募セルモノニシテ参戦軍トハ別種ノモノナリ其存廃ハ全国陸軍ノ裁撤問題ト同時ニ決定スル筈ナリ

五、近來中外ノ新聞其他ニ種々ノ謡言ヲ放チテ日支間ヲ離間セントスルモノアリ是レニ対シ何カ適當ノ防止方法アズ

リヤ

事ナキヤ

(答) 是ナキ積リナリ我主張ノ平和解決ニアルコトハ一般ノ能ク知ル所ニシテ此ノ如キ暴動ヲ為スモノハ北方派ハ勿論南方ニ於テモ是ナカルヘン

右ノ外我国ノ糧秣欠乏ヲ救助スル為貴国政府カ米穀輸出ヲ解禁セラレ居ルハ我国ノ大ニ徳トスル所ナルニ江蘇ノ省議会等尚ホ此事ニ反対シアルカ為進捗意ノ如クナラズト聞ケリ大總統ヨリ何トカ特別ノ方法ヲ採リテ此事ノ円満ニ進行スル様配慮アランコトヲ望ムト述ヘタルニ大總統ハ之ヲ快諾シ此事ニ就テハ既ニ政府及江蘇督軍省長ニ極力尽力スヘク命シアルモ尚一層ノ注意ヲ与フヘシト答ヘタリ

(答) 昨日漸ク開会式ヲ挙ゲタルノミニシテ今後如何ニ發

展スルヤハ予想ノ限リニアラザルモ南北ノ代表者等カ互ルヘク其期日ハ予想シ得ズ

(答) 昨日漸ク開会式ヲ挙ゲタルノミニシテ今後如何ニ發

展スルヤハ予想ノ限リニアラザルモ南北ノ代表者等カ互

等シク認ムル所ナルヲ以テ其内ニハ何トカ解決スルニ至ルヘク其期日ハ予想シ得ズ

第三三号

六六六 二月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛 (電報)

参戦借款ニ関スル唐紹儀ノ誤会ニ付説示方訓

令ノ件

貴電第五四号ニ關シ唐紹儀カ参戦借款ノ残額千七百万円ヲ

一時ニ引出シ得ルモノナルヤニ考ヘ居ルハ誤会ニシテ右ハ八、媾和會議ノ形勢ニ依リ北方主戦派ニ動搖ヲ起スガ如キ

ナリ居リ之レガ支途ニ就テハ貴見ノ通り参戦ノ目的以外使  
用セラレザル様我方ヨリ嚴重監督ノ方法取極メアリ次ニ本  
件ニ閔スル帝国政府ノ意向ハ次官ヨリ英國大使ヘノ説明通  
リナルモ尙ホ右ニ就テハ在支公使ヨリ貴官ヘ転電セル本大  
臣發在支公使宛往電第二三一号ニテ御承知ノ通り同公使ヨ  
リ支那側へ説明ノ際本件ノ資金ハ引続キ支那政府ニ於テ使  
用シ得ヘキ関係ニ在リト雖モ時局解決ノ促進上暫ク之レガ  
使用ヲ停止シ内外ノ疑惑ヲ除去スルノ態度ニ出ヅル方得策

貴電第六〇号ノ通り唐紹儀ヨリ内田外務大臣ヘ電報アリタ  
ル處同大臣ハ目下病氣引籠中ニテ親シク公私ノ要務ヲ處理  
スルコトヲ得ザルニ付差当リ唐氏ニ返電ノ途ナシ就チハ貴  
官ハ唐氏ニ面会ノ上右ノ事情諒承アリタキ旨ヲ述ベラレ尤  
モ本件ニ關スル日本政府ノ立場ハ本省發在支公使宛往電第  
二一九号及貴官宛第三三号ニ依ル貴官ノ説明ニ依リ唐氏ニ  
於テモ能ク了解セラルヘキヲ信スル旨本官ノ伝言トシテ可  
然挨拶シ置カレタシ

ナラント思考スル旨支那側ノ参考迄ニ申添ユルコト相成  
居次第ニ付貴官ハ唐ニ対シ重ネテ前段ノ次第可然説明ヲ与  
ヘラルルト同時ニ後段ノ趣ヲモ参考迄ニ内話シ置カルル様  
致度シ

六六八 二月二十三日 在上海松井陸軍大佐ヨリ  
上原參謀總長宛（電報）  
和平會議ニ於テ南北各代表ヨリ日中軍事協定  
ノ開示ヲ北京政府ニ請求ノ決議ヲ為セル件

六六七 二月二十三日 内田外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛 (電報)

参戰指  
第三四号

報セリ

六六九 二月二十四日  
在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣死(電報)  
參戰借款ニ関シ唐紹儀了解シタル件

第六八

貴電第三四号ニ閲シ二月二十四日唐紹儀ニ面会御来示ノ趣旨ヲ伝ヘ尚貴電第三三号唐ニ対シ委曲説明ヲ与ヘタル処唐ハ右ニ対シ善ク事情ヲ了解シ十分満足シタル旨并ニ内田大臣ノ速ニ全快アラン事ヲ祈ル（脱）希望セリ

六七〇 二月二十四日 在中国小幡公使（ヨリ 内田外務大臣宛）（電報）

兵器供給停止及參戰借款ニ関スル我政府ノ決定ヲ英米公使ニ通告済ノ旨報告竝參戰借款金交付問題ニ付意見稟申ノ件

(二月二十五日接受)

貴電第二二一號ニ關シ

英國公使ヘハ二月二十一日米國公使ヘハ二十二日夫々内密ノ含ミ迄ニ我力政府決定ノ趣旨ヲ通告シタル處両公使共ニ

九 対中国借款善後策ニ関スル件（一）六六九 六七〇

九 対中国借款善後策二関スル件（一）六七一 六七二

六九六

是迄帝国政府ノ与ヘタル説明ハ殆ド「エヴェーシヴ」ノモ  
ノトナリ我力誠意ヲ疑ハルニ至ルヤ必セリ右ノ如ク外間  
ノ非難物議ニ顧慮シ一步一歩退讓スルハ甚々不面目不得策  
ト認メラルニ付他日窮地ニ陥リ退讓スルヨリモ寧口今日  
ニ於テ借款金交付ヲ中止スルヲ得策ナリト思考ス本使等ノ  
立場モ有之ニ付借款金交付問題ニ対スル帝国政府究極ノ御  
決心一応承知シ置キ度シ

六七一 二月二十五日 在内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

飯島予備少佐取扱ノ參戰軍用軍需品第二回分  
ノ交付差扣ノコトニ決定ニ付關係國公使ニ内  
話方訓令ノ件

第一五八号

今般帝国政府ニ於テ南北妥協成立ニ至ル迄北京當局及ヒ督  
軍ヘノ兵器供給ヲ差扣フルコトトナリタルニ付テハ本件ハ  
嚴格ナル意味ニ於テ單ニ銃砲彈薬等ノ直接戰闘ニ用ユヘキ  
武器ノミト解釈スヘキモノニシテ軍用ノ電信電話ノ諸材料  
及ヒ工兵隊用ノ土工具等ハ兵器以外ノ軍需品ニ属シ今回交  
附方ヲ停止セル範囲外トシ引続キ供給セシメ差支ナカルヘ

上海へ転電アリタシ  
六七二 二月二十五日 在内田外務大臣ヨリ  
參戰軍ノ用途ニ關スル中國政府ノ声明書写送

付ノ件

附屬書 二月二十日付外交部ヨリ小幡公使死節略  
機密第九六号

大正八年二月二十五日

在支那

特命全權公使 小幡 西 吉（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

支那政府ノ參戰軍ニ關スル声明ノ件

本件ニ關シ外交部ヨリ回答ノ次第ハ不取敢往電第二六〇号  
ヲ以テ及電報置候處尚為念該聲明原文及訳文及送付候間御  
查閱相成度此段申進候也

本信写送付先 在上海有吉總領事 在廣東太田總領事  
在南京清野事務代理

（附屬書）

節 略

本月二日承

貴公使面詢參戰軍一節茲拵國務院函復應向貴公使声明如下

此項參戰軍係對待敵人而設現歐洲雖經停戰議和而和議一日

未定即兵備不容遽懈且俄境變亂紛紜逼近中國邊疆為自固本

九 対中国借款善後策二関スル件（一）六七三

旨報告ノ件

六七三 二月二十五日 在上海有吉總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

和平會議非公式集会ニ於ケル陝西問題ニ關ス  
ル決議及南方新聞ガ我对中国政策ニ感謝セル

キ儀ナリト雖ドモ現ニ貴地飯島予備少佐ノ取扱ニ係ル參戰  
軍用ノ軍需品ハ既ニ第一回ノ交附ヲ了シ今ヤ第二回分輸送  
ノ手配中ニアル趣ニテ而モ其數量少カラザルト右ノ代金ガ  
參戰借款ノ資金中ヨリ支払ハルルコトナリ居ル關係等ニ  
顧ミ右軍需品ノ供給ハ矢張北方軍隊ノ組織編成ノ計画ヲ促  
進セシムルコトナリ兵器ノ供給ガ南北妥協ノ障害トナル  
ベシトノ帝国政府ノ見解ト一致セザルノ結果ヲ來シ主義上  
好マシカラズト認メタルニヨリ陸軍當局ト協議ノ上本件飯  
島少佐取扱ノ軍需品ハ兵器ト共ニ一時其交附方ヲ差扣ヘン  
ムルコトニ決定セリ右御承知ノ上支那政府當局ヘ可然説明  
ヲ与ヘラレ同時ニ往電第二三一号ノ末段我方ノ利益ノ為メ  
今後關係國ヨリモ我方同様ノ態度ニ出デシムル様申入レタ  
ル關係モ有之ニヨリ本電ノ次第ハ關係國公使ヘ適宜内話シ  
置カレタシ尚ホ本件ニ關シテハ陸軍當局ヨリモ東少將ヘ同  
様ノ儀電報スル筈ニ付同少將トモ可然御打合セアリタシ  
上海へ転電アリタシ

六七四 二月二十五日 在内田外務大臣ヨリ  
參戰軍ノ用途ニ關スル中國政府ノ声明書写送

國邊圉計編練実不可緩既為參戰軍隊對於國內斷無何等政治  
作用等語相應奉達  
查照

陳 二月二十日

（右和訳文）

二月二日貴公使ヨリ申出アリタル參戰軍ノ件ニ關シテハ茲  
ニ國務院ノ公文回答ニ基キ貴公使ニ對シ左ノ如ク声明ス  
本件參戰軍ハ敵人ニ對待スル為メニ設ケタルモノニシテ現  
ニ歐洲ニ於テハ停戰和議アリト雖和議未タ決定セサル今日  
兵備ハ遽カニ弛ムルコト能ハス且ツ露國國境ノ變亂ハ紛糾  
シ支那ノ邊疆ニ近逼セリ本國邊疆ノ防備ヲ堅固ニスル為メ  
本軍ノ編成訓練ハ實ニ緩ウスヘカラス既ニ參戰軍隊タル以  
上国内ニ對シテハ断シテ何等政治作用ナシ右承知アラソコ  
トヲ請フ

六九七

第七一号  
（二月二十六日接受）

本二十五日和平會議非公式集会ニ於テ陝西問題ニ關シ左ノ二項ヲ北京政府ニ電請スルコトヲ議決セリ

（一）曩ニ發表セラレタル休戦ニ關スル大總統令ニ反スル司令官ハ处罚セラルヘキ旨更ニ大總統令ヲ以テ公布スヘキ事

（二）陝西ノ実情ヲ審査ノ上電報スヘキ様同省ニ電訓セラレ度事

尚当地新聞ニ掲記セラレタル日本ノ対支政策変更ニ關スル

報道ハ公然確メラレタリトナシ日本政府ノ賢明ナル此決意

ハ同政府カ隣邦ニ對スル友情ノ一層ノ証左ト見做スヘキノミナラズ又本和平會議ノ事業ハ為メニ多大ノ利便ヲ得ベシ

トテ感謝（？）セル趣ナリ

支、廣東ヘ電報シ南京ヘ郵送セリ

六七四 二月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

參戰借款及國防軍ニ關スル我政府ノ意向ヲ聞

係國公使ニ内話方訓令ノ件

第二六五号

往電第二三一号ニ關シ貴官ヨリ支那側へ説明ヲ了セラレタ

ル後關係國公使ヘ申入レラルル要旨ハ主トシテ兵器供給停止ニ關スル件ナルモ參戰借款及國防軍ニ對スル帝國政府ノ

意向並ニ往電第二三一号中段ニ申述ヘタル支那政府ノ参考迄ニ參戰借款ノ使用ヲ暫ク停止スル方得策ナラント申添ヘタル次第ハ帝國政府ノ公正ナル態度ヲ表明シ得ヘキ儀ト思考セラルニヨリ適當ノ機会ヲ以テ上記ノ次第關係國公使

ヘ可然内話シ置カルル様致シタシ

上海ヘ転電アリタシ

六七五 二月二十六日 在上海有吉總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

參戰借款及參戰軍問題ニ關連シ日中軍事協定

廢棄ノ必要ニ付王克敏極言ノ件

第七二号

二月廿五日王克敏來訪小幡公使ノ旧誼ヲ説キ本日一私人トシテ忌憚ナキ意見ヲ交換シタキ考ナリト前提シテ云ハク

今朝ノ會議ニ於テ唐紹儀ハ參戰軍ニ關シ貴官ガ外務次官ノ命ニ依リ昨日説明ヲ与ヘラレタルモノナリトシテ小幡公使ハ參戰借款ヲ交付セズ、武器ノ供給ヲ當分中止スル旨不日

外交部ニ申出テラルル筈ナリトノコトニテ尚貴官ノ私見ト

シテ參戰軍ハ遠カラズ廃止ニ至ル可シトノコトヲモ申添ヘ

ラレタル趣ナルガ事實ナリヤト質セルニ付本官ハ昨日ノ会見ガ唐紹儀ヨリ大臣ニ宛タル其電報ニ關聯シ主トシテ借款ニ闕スル説明ニ止マレル顛末ヲ申述べ小幡公使ヨリ支那側ニ申出ヅル趣旨ハ暫時右ノ引出ヲ停止シ内外ノ疑惑ヲ除去セラルル方得策ナル可シト貴方ノ参考迄ニナサル可キ儀ニ

テ右ノ趣ハ單ニ唐氏ノ含迄ニ内報セルニテ同氏トハ堅ク秘密ヲ約シ尠クトモ公使ノ申入れ迄ハ會議ニテモ發表セラレザルコトト考ヘ居タル次第ニ武器ノ供給ハ當分中止セラル可キコトハ之ヲ伝ヘタルモ參戰軍自体ニ付テハ何等言及

セル處アラザリシトノ趣ヲ以テセル處王ハ右等ノ説明ハ特ニ南方側ニ対スル一ノ懷柔策トシテナナルモノナリヤト

問ヘルニ付本官ハ我政府ハ一意和平會議ノ成功ヲ希望シ右ヲ以テセル處彼ハ然ラバ何故ニ武器供給ヲ中止シ借款ノ交

付ヲ中止セラレザルヤトシ軍事協定乃至武器供給ニ付テハ限り之ヲ中止セントスル誠意ヲ示ス外他意アルニ非ザル旨

ヲ以テセル處彼ハ然ラバ何故ニ武器供給ヲ中止シ借款ノ交

付ヲ中止セラレザルヤトシ軍事協定乃至參戰借款ニ付テハ限り之ヲ中止セントスル誠意ヲ示ス外他意アルニ非ザル旨

自分ハ当初之ニ関係シ居リ之レニ（脱）最後迄ハ承知セザルモ概略ノ事情ハ斯ノ如シトシテ詳細ニ前後ノ模様ヲ説明

シ武器ノ供給ニ關シテハ斎藤中将主トシテ之レニ当リ泰平組合ハ名義人ノミ借款ニ至リテハ表面朝鮮銀行等ト称スルモ其實貴國政府ノ資金ナリ果シテ然ラバ武器ノ供給ノ中止同様資金ノ引出シモ差留メ得ル筈ナリ、普通ノ借款ト雖モ正金銀行ナドニチモ口実ヲ設ケテ支払ヲ見合セタル例ナキニ非ズト述べタルニ付右ニ對シ本官ハ累次ノ貴電ノ御趣旨ニ依リ一応ノ弁明ヲ加ヘ置キタルモ多ク首肯セザル模様ニテ尚進シテ云ハク參戰軍問題ニ付テハ北京委員ノ一人トシテ実ハ非常ニ苦心シ居レル次第ナリトシ本件ニ付テハ南方委員ノ（脱）明ノ点ナキニ窮シ居リ今ニ於テ之ガ解決ヲ見ザレバ独リ支那ニ於ケル大問題タルノミナラズ延イテ日支國交上重大ナル障害トナルハ歴然タル可ク之ガ解決ノ途ハ一二本日支軍事協定ヲ廢棄スルノ外ナク參戰軍アリテノ軍事協定ニアラズ、協定アリテノ參戰軍ナル以上日本ヨリ右ノ廢止ヲ声明セラルコト各種ノ誤解ヲ一掃シ、両國ノ親善ヲ計ル上ニ最モ得策ナル可キ旨縷々陳述シ當時段ハ右ヲ外交手段トシテ内政ニ利セントシ貴國ハ之ヲ外交ニ用キントセルモノ斯カル陳腐ノ手段ハ之ヲ一廢シ今ヤ純正ナル國交ノ上ニ立タンコトヲ希望ニ堪ヘズト云ヒ同協定ノ有効期

間ニ対シテハ事実右ヲ必要トスル時期ノ経過セルニモ閑セズ尚之ヲ延長セントスルノ益々誤解ヲ深カラシムルヲ説キ切ニ我方ヨリ之レガ廢止ヲナスノ必要ナル旨ヲ極言シ居タリ

北京、廣東へ電報シ、南京へ郵送セリ。

六七六 二月二十八日

在中国小幡公使（内田外務大臣宛）（電報）

参戦軍解隊ニ閑シ徐總統ノ手ヲ強ムル為中國

政府ニ対シ連合国使臣協同行為ヲ執ルベキ様

電訓ニ接シタル旨英國公使内話ニ付請訓ノ件

第二八三号大至急

二月二十八日英國公使來訪本国政府ヨリ参戦軍解隊ノ為段

祺瑞ニ対スル徐總統ノ手ヲ強ムル為（strengthen the hands of President against Tuan for disbandment of Sansengun）聯合國使臣協同シテ支那政府ニ対シ必要ナル

「アクション」ヲ執ルヘキ旨ノ電訓ニ接シタル趣内話シ前記ノ意味ノ電文ヲ読聞カセ同時ニ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ早速本国政府ニ電報ノ上其ノ指令ヲ待チテ何分ノ挨拶ニ及ブベシト答ヘ置ケリ尚英國公使ノ語リタル所ニ拠

（三月一日接受）

参戦軍撤廃ニ閑シ中国政府ニ対シ連合国協同

ノ勧告ヲ為スベキ様本国ノ訓令ニ接シタル旨

英國公使小幡公使ニ内話ノ趣ニ付我方ハ之ヲ拒否スベキ様稟申ノ件

支極秘第九〇号至急親展

英國公使ハ本日小幡公使ヲ訪ヒ本国政府ヨリ其駐劄各公使ト協同シテ参戦軍撤廃ニ閑シ徐總統ヲシテ段祺瑞ニ対スル意思ヲ強固ナラシムルニ必要ナル勧告ヲ為スヘシトノ訓令

（三月一日接受）

参戦軍撤廃ニ閑シ徐總統ヲシテ段祺瑞ニ対スル意思ヲ強固ナラシムルニ必要ナル勧告ヲ為スヘシトノ訓令

英國公使小幡公使ニ内話ノ趣ニ付我方ハ之ヲ拒否スベキ様稟申ノ件

支極秘第九〇号至急親展

ニ接シタル旨ヲ告ケ小幡公使ノ意見ヲ求メタリ又同公使ハ仏國公使モ其ノ本国政府ヨリ同様ノ訓令ニ接シ居レリト附言セリ  
英國公使カ予メ小幡公使ニ何等ノ協議無クシテ突然右ノ提言ヲ為スハ畢竟列国共同シテ支那ニ対スル日本ノ勢力ヲ排擠セント企図スルニアルコト明カニシテ若シ我方ニ於テ之レニ同意セハ啻ニ参戦軍ノ廢止ノミニ止マラズ必ズ鉄道管理問題其他ニ及ブコトト確信ス殊ニ今後列国ノ行動ニ追随センカ支那ニ対スル帝国ノ威信ハ完ク失墜シ逐次列国ノ圧迫ニ遇ヒ挽回ノ途ナカルヘシ依テ英國公使ノ提言ニ対シテハ断乎タル決心ヲ以テ日本ハ支那ノ内政ニ干渉スルコトヲ欲セザル理由ニ依リ之レヲ拒絶スルヲ要スト信ス  
支極秘第八四号斎藤中将ノ意見ハ小官モ全然同意ナリ

六七八 三月一日 在中国小幡公使（ヨリ内田外務大臣宛）（電報）

参戦軍解隊ニ閑スル英國公使提議ニ付武官等

ト協議ノ結果ヲ報告及請訓ノ件

（三月一日接受）

往電第二百八十三号ニ閑シテハ既ニ帝国政府ニ於テハ慎重

九 対中国借款善後策ニ閑スル件（一）六七八

レハ米國公使ニハ未夕面会セサルモ仏國公使ハ既ニ同様ノ電訓ニ接シタルヤニ承知セリトノコトナリ本件ハ当地ニテ重ナル聯合國使臣ト予メ協議ノ上各本国政府ニ勧告シ北方派ニ対スル帝国ノ声価及關係ヲ打破スル為我ヲ孤立ノ地位ニ陥ラシメ以テ南北妥協後ニ於ケル彼等殊ニ英米ノ鞏固ナル地位ヲ確立セントスル策略上此ノ断乎タル措置ニ出デタルコトト確信ス本件ハ支那ニ対スル帝國将来ノ威信上ニ重大ノ關係ヲ及ボス問題ナリト思考スルニ付最慎重ニ御審議ノ上速ニ何分ノ儀御電訓ヲ請フ

六七七 二月二十八日 東在中国日本公使館付陸軍武官ヨリ

上原參謀總長宛（電報）

参戦軍撤廃ニ閑シ中国政府ニ対シ連合国協同

ノ勧告ヲ為スベキ様本国ノ訓令ニ接シタル旨

英國公使小幡公使ニ内話ノ趣ニ付我方ハ之ヲ拒否スベキ様稟申ノ件

支極秘第九〇号至急親展

英國公使ハ本日小幡公使ヲ訪ヒ本国政府ヨリ其駐劄各公使ト協同シテ参戦軍撤廃ニ閑シ徐總統ヲシテ段祺瑞ニ対スル意思ヲ強固ナラシムルニ必要ナル勧告ヲ為スヘシトノ訓令

（三月一日接受）

参戦軍撤廃ニ閑シ徐總統ヲシテ段祺瑞ニ対スル意思ヲ強固ナラシムルニ必要ナル勧告ヲ為スヘシトノ訓令

英國公使小幡公使ニ内話ノ趣ニ付我方ハ之ヲ拒否スベキ様稟申ノ件

支極秘第九〇号至急親展

英國公使ハ本日小幡公使ヲ訪ヒ本国政府ヨリ其駐劄各公使ト協同シテ参戦軍撤廃ニ閑シ徐總統ヲシテ段祺瑞ニ対スル意思ヲ強固ナラシムルニ

ズ今後更ニ一步ヲ退キ英國ノ提議ニ全然聽從シ參戰軍廃止ヲ支那政府ニ勧告スルノ共同行為ニ參加スルニ於テハ殆ンド軍事協定ノ精神並ニ過日幣原次官ガ英國大使ニ對シ參戰軍廃止ヲ支那政府ニ迫ル如キ内政干涉ニ類スルノ行為ニ帝國政府ハ責任ヲ採ル能ハズ云々ト言明セラレタル等本件ニ關スル從來ノ説明ト矛盾スルノ行為ヲ敢テスルモノトシテ益外間ヲシテ帝國ノ鼎ノ輕重ヲ問ハシムルノ結果ニ終リ独リ列国ノ間ニ信ヲ失スルノミナラズ支那南北ニ對シテモ我威信ヲ甚ダシク失墜スルニ至ルベク旁方一本問題ニ對スル帝國ノ方針ヲ誤ラシカ昨今在天津總領事ヨリ報告ノ通り山海關一帶ニ於ケル日本人立退命令事件ヲ初メ将来之ニ類スル問題続出シ帝國ガ支那ニ於テ今日迄樂キ上ゲタル地盤ハ益動搖セザルヲ得ザルベシト認メラルニ付今回英國公使ノ提議ニ關シテハ各方面ニ及ボス激烈ノ影響等モ詳細御考量ノ上最モ慎重ナル御詮議ヲ仰ギ度次第ハ前電所陳ノ通りナリ右ノ如ク本問題ハ頗ル慎重ナル考量ヲ要スルモノト思考セルニ付當館附武官ヲ初メ斎藤、青木、坂西等トモ協議ノ結果先ヅ以テ帝國政府トシテハ英國公使ニ對シ最近迄ニ軍器供給停止及參戰借款引出ニ對スル支那政府ノ自制的中

威信ヲ甚ダシク失墜スルニ至ルベク旁方一本問題ニ對スル

帝國ノ方針ヲ誤ラシカ昨今在天津總領事ヨリ報告ノ通り山

海關一帶ニ於ケル日本人立退命令事件ヲ初メ将来之ニ類スル問題続出シ帝國ガ支那ニ於テ今日迄樂キ上ゲタル地盤ハ益動搖セザルヲ得ザルベシト認メラルニ付今回英國公使

ノ提議ニ關シテハ各方面ニ及ボス激烈ノ影響等モ詳細御考量ノ上最モ慎重ナル御詮議ヲ仰ギ度次第ハ前電所陳ノ通りナリ右ノ如ク本問題ハ頗ル慎重ナル考量ヲ要スルモノト思考セルニ付當館附武官ヲ初メ斎藤、青木、坂西等トモ協議ノ結果先ヅ以テ帝國政府トシテハ英國公使ニ對シ最近迄ニ軍器供給停止及參戰借款引出ニ對スル支那政府ノ自制的中止ノ希望申込等ノ経過ヲ詳細説明スルト同時ニ參戰軍ノ存廃ハ支那政府自身ノ決定スペキ内政問題ニシテ帝國政府ハ前述ノ如ク之迄採リ來レル措置以上ニ干涉ガマシキ勧告ニ聯合スルコトハ之ヲ避ケタキ旨回答スルヲ以テ最モ得策トスルニ意見一致セリ右何等御詮議ノ参考迄ニ申進ズ尙ホ本件ハ英國公使ヘ挨拶ノ都合モアリ余リ長ク打捨テ置キ難キ二付御詮議ノ結果成ルベク速ニ御回訓ヲ請フ往電第二八三号ト共ニ上海へ電報セリ

六七九 三月一日 東在中国日本公使館付陸軍武官ヨリ

上原參謀總長宛(電報)

英國公使參戰軍解隊ニ關スル提議ニ付小幡公使ニ於テ青木斎藤坂西等ヲ招致シテ會議ヲ開

キタル結果ヲ報告ノ件

支極秘第九一号(至急陸同文)

(三月二日接受)

支極秘第九〇号參戰軍解散ニ關スル英國公使ノ提議ニ對シ小幡公使ハ帝國ノ威信ニ關スル重大問題ナリトシテ最モ慎重ニ之ヲ審議スル為メ今朝青木、斎藤、坂西ノ三官小官並ニ船津書記官ヲ招致シテ會議ヲ開キシガ本問題ハ北京駐在英米仏公使等ノ出先キ役人力帝國勢力ノ益々支那ニ加ハラ

ソコトヲ恐レ協議ノ上本国政府ニ請訓シタル結果ニシテ本国政府間ノ協議ニ基クモノニ非ザルヘシト各人判断全然同

一ナリ次テ我政府ノ之ニ對スル賛否ニ關シテ如何ナル結果ヲ齊スヘキヤニ付比較研究シタルガ結局支極秘第九〇号意見ノ如ク縱令列国ノ我ニ對スル注意ヲ引クモ日本ハ斷乎タ

ル決心ヲ以テ内政不干涉ヲ標榜シ該借款預金ヲ銀行ヨリ引出サザランコトヲ支那政府ニ勧告スルノ程度ニ於テ列国ト歩調ヲニスルコトヲ辭セザル旨ヲ以テ英國公使ニ回答スルニ止ムルヲ必要トスルコト、之ニ反シ列国ノ意嚮ニ追随セバ帝國ノ威信ハ全然失墜スルコト明ナレハ解散ノ勧告ニハ断シテ同意スヘカラサルコトニ意見一致セリ就テハ我政府ハ是非右ノ方針ニ出デラレントコト國家ノ為メ切要ナリト信ス又借款ノ規約ニ依テ交附シ得ヘキ金額ハ此際速ニ交附ノ手続ヲ了スルヲ得策トスヘク殊ニ參戰軍一師團ノ兵員ハ七千百ニシテ三師團ノ數僅ニ二万一千余ニ過ギズ之ヲ老大ナル各既設軍百万余ノ多數ニ比較セハ何等注意スヘキ勢力ニ非ズ然レトモ勢力小ナルニヨリ解散セシムルモ可ナラズヤトノ議論アランモ本件ハ勢力ノ問題ニ非ズシテ実ニ帝国ノ支那ニ對スル威信ノ分タルヘキ重大問題タルコトヲ切言

セザルヲ得ズト一同確信シアリ

六八〇 三月一日 在北京坂西陸軍少將ヨリ

福田參謀次長宛(電報)

英國公使ノ參戰軍撤廃運動ニ關シ日本ハ毅然

タル態度ヲ持セラレ度旨斬雲鵬談話ノ件

(三月二日接受)

坂極秘電第七号

英國公使ノ參戰軍撤廃ニ對スル運動益々露骨トナリ來レル

ニ關シ斬雲鵬ノ言左ノ如シ

貴國政府今日ノ態度即チ兵器ノ交付ハ暫ク見合ハスベキモ

參戰借款ハ既ニ支那ニ交付ヲ終リ之ヲ銀行ニ預ケアル次第

故干渉スル限リニ非ズト云フ事ハ昨今ノ形勢上貴國ノ立場

トシテ已ムヲ得ザルベキモ若シ更ニ英米ト共ニ參戰軍ニ對

シ圧迫ヲ加ヘラルカ如キ事アランカ段祺瑞始メ吾人等ノ

失敗ニ止ラズシテ徐世昌モ既ニ其位置ノ安固ヲ得ル能ハズ

支那ハ再ヒ擾乱スヘク徐世昌縱令一時的ニ親米、親英派ト

共鳴シテ其位置ヲ保ツト雖彼等ハ徒ラニ私利ヲ營ムコトニ

汲々トシ国家ノ為ニ自己ヲ犠牲ニスヘキ者ニアラザルコト

之レヲ既往ニ徵シ明カナリ故ニ結局支那ハ彼等ノ私利ヲ肥

ス為ニ歐米列国ノ餌食トナルニ過ギズ最近鉄道共同管理ヲ

吾々英、米人等ノ日本排斥ヲ主義トスル野心的甘陋ニ乘ヤ  
ケレ事實上ノ壳國的行為ヲ敢テヤントシツツアルカ如キハ  
既ニ其一ニシテ所謂支那獨立保全説又ハ徒ラニ唐紹儀等ヲ  
利用シツツアル英國公使等ノ言ニ動カサル事ナク殊ニ彼  
我両國間ニハ歐米各國ト異リタル軍事協定ト云フカ如キ特  
別關係アル故毅然タル態度ヲ以テ之ニ臨ミ所謂支那ノ中堅  
ヲ動搖セシムルコトナク支那ヲシテ歐米ノ餉食タル如キ端  
緒ヲ開クカ如キ政策行為ヲ採ラレザランコトヲ望ムハ々

~~~~~

六八一 二月一日 内田外務大臣より  
在中国小幡公使宛（電報）

參戰軍解隊ニ關スル英國公使ノ提議ニ対スル

日本政府ノ回答ニ付請令ノ件

別 電 同日内田外務大臣發小幡公使宛電報第二八二号

在中国英國公使ニ手交セラルベキ我回答覺書

附 記 | 右覺書ノ和文

二 二月二十八日監照三滿等ヲ小村課長宛書翰

第一一八一號 大至急

貴電第一一八二號ニ閱

本件ニ付テハ帝国政府ニ於テ篤ニ考慮ヲ加くタル結果在支

They fully realize that the question of this new army forms one of the difficulties with which the conference of the Northern and Southern delegates now in session at Shanghai is being confronted. They are not informed whether the British Government, following the same line of policy now proposed, have in contemplation a similar action by the foreign representatives at Peking with regard to the other points of differences standing equally in the way of an early reunion of China. In any case, the action suggested by the British Government does not seem to be wholly reconcilable with the declaration of the Japanese, British, French, Italian and the United States Governments embodied in the Addendum<sup>(1)</sup> Mémorial of December 2, 1918, in which the five Governments specifically disclaim any "desire to control or influence the particular terms of adjustment, which must remain for the Chinese themselves to arrange". Such action, with all its good intentions, will no doubt be regarded as an attempt to influence one of the terms now awaiting adjustment at the Shanghai conference, and the Japanese Gov-

英國公使ニ付シ別電第一一八二號ノ通り覺書ヲ以テ回答スル  
コトニ決定セルニ付貴官ハ至急帝国政府ノ訓令ニヨル並ハ  
以テ別電覺書ヲ英國公使ニ手交セラレ必要ノ説明ヲ加ヘ先  
方ヲシテ納得セシムル様御措置相成度尙其際參戰軍問題ニ  
對スル日本ノ態度及措置ニ付テハ南方總代表タル唐紹儀ニ  
於テモ十分帝国ノ誠意ヲ諒解シ現ニ本大臣宛有吉第第六八  
号及第七一号ノ通り感謝満足ノ意ヲ表シツツアル次第ニ  
此上列國側ニ於テ強テ措置ヲ執ルノ必要ナカルベキ直ニモ  
十分敷衍説明シ置カレタシ

（別 電）

二月一日内田外務大臣發小幡公使列電報第一一八二號

在中国英國公使ニ手交セラルベキ日本政府ノ回答覺書全文

第一一八一號

The Japanese Government have given their serious consideration to the proposals of the British Government for a joint action to be taken at Peking by the representatives of the Allied and Associated Powers with a view to strengthening the hands of President Hsu against General Tuan in the matter of disbandment of the "war participation army".

ernment are strongly of opinion that it would be unwise for the foreign Powers to interfere in the settlement of any of those terms in favour of one contending faction against the other. It should be added that the Japanese Government have not the slightest intention to raise any difficulty to China abandoning the plan for the organization of a new army. On the contrary, they are quite ready to do all that lies in their power to facilitate the work of the Shanghai conference, consistently with the declaration of the five Powers of December 2. They do not however consider themselves justified in taking part in an action which seems to them to imply a departure from the policy adopted in common accord and declared in an official communication by the Allied and Associated Governments. In thus communicating to His Excellency the British Minister the views which the Japanese Government feel it due to frankness to state, the Japanese Minister sincerely trusts that these views will commend themselves to the favourable reception of the British Government.



ノ予テ予期シタル所ニシテ此ノ際ニ於ケル日本ノ決心ハ實ニ国家百年ノ大計ヲ定ムル所以ニシテ日本ハ永ク東洋ノ霸權ヲ握リ得ルヤ否ハ因リテ岐カカル所ナリト信ズ支那ヲシテ今日ノ露国タラシメントセハ論無キモ若シ然ラズシテ統一セシメントセハ中心ヲ求メザルベカラズ今日ノ中心ノ穩健人物トシテ徐世昌ヲ推スハ内外ノ等シク認ムル所ニシテ日本ノ求ムル所又恐ラク同一ナルヘク果シテ然ラハ少クトモ現在ニ於テハ彼ヲシテ統一ノ目的ヲ達成スル如ク之ヲ指導スルヲ以テ日本ノ採ルヘキ目前ノ政策タラサルヘカラズ唯此際日本ノ考慮ヲ要スヘキハ此參戰軍解散勧告ノ提議力協商國ノ首班タル英國ニ起リ米國仏國之ニ同意シタルニアリ故ニ此際日本カ之ト行動ヲ共ニセザルトキハ所謂孤立ノ位置ニ立チ他方面ニ於テ不利ヲ見ルヘキヤノ論ニ在リト雖モ彼等英米國ニ対シ説明スルニ(抑々一國軍隊ノ編成及解散ヲ)他國ヨリ強要スルカ如キハ最モ大ナル内政干涉ナルヲ以テ之ヲ敢テスヘカラザルコト日本及支那ハ西比利ニ対スル關係自ラ英米仏ト異リ頗ル密接ナルノ故ヲ以テ曩ニ両国間ニ軍事協約ヲ行ヒタル特種ノ關係モアリ西伯利カ今日ノ如キ状態ニ在ル以上総令協商參戰ノ与國ナリトスルモ今遽

ルコトハ今日ニ於ケル我政府ノ態度如何ニ係ル若シ夫レ日本ニシテ一旦英米ノ協同ノ提議ノ下ニ届伏センカ支那ハ遂ニ私利ヲ當ムニ汲々タル親英親米派ノ傀儡トナリ日本ノ威信ハ全ク失墜シ彼唐紹儀等ハ一時日本ニ対シ謝意ヲ呈スヘキモ心中極メテ我レヲ輕蔑シ英、米ヲ利用シテ我レヲ脅威セハ万事支那ノ意ノ如ク為ルヘント判断シ日本ノ支那ニ於ケル施設ハ再ヒ展フルノ日無キヤ明カナリ日本ノ東亞ニ於

ルコトハ今日ニ於ケル我政府ノ態度如何ニ係ル若シ夫レ日本ニシテ一旦英米ノ協同ノ提議ノ下ニ届伏センカ支那ハ遂ニ私利ヲ當ムニ汲々タル親英親米派ノ傀儡トナリ日本ノ威信ハ全ク失墜シ彼唐紹儀等ハ一時日本ニ対シ謝意ヲ呈スヘキモ心中極メテ我レヲ輕蔑シ英、米ヲ利用シテ我レヲ脅威セハ万事支那ノ意ノ如ク為ルヘント判断シ日本ノ支那ニ於

六八四 三月三日 内田外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛(電報)  
ル答ナリトテ王克敏ノ為シタル發言ニ付同人  
ニ質問方訓令ノ件

第三九号

貴電第七二号王克敏ノ談話中ニ「普通ノ借款ト雖モ正金銀行ナドニテモ口実ヲ設ケ支払ヲ見合セタル例ナキニアラズ」トノ旨申述ヘ居レル処右ハ當方内密ノ参考迄ニ果シテ如何ナル事実アリシヤヲ承知致置タキニヨリ最近同人ヘ御面会ノ機会ヲ以テ貴官限リノ思付トシテ軽ク右ノ次第ヲ質

九 対中国借款善後策二関スル件(一) 六八四 六八五

ニ英米仏ト歩調ヲ一ニシテ支那ニ対シ參戰軍ノ解散ヲ迫ルカ如キハ絶対ニ不可能ナルコト(日本ノ南北平和的解決ノ速ナランコトヲ希望スルハ決シテ英米仏等他國ニ譲ラズ故トシテ取り得ヘキ(即今日迄採リタル)手段ヲ尽シアルコト(二)參戰軍解散ヲ迫ル如キ内政干涉ハ唐紹儀一派ハ喜フヘキモ少シク心アル督軍ハ必ズヤ激昂シ參戰軍仮ニ解散セラレタルモノトスルモ之ニ代ハルヘキハ張作霖、曹錕、倪嗣冲等カ之ヲ利用シテ如何ナル運動ヲ試ムヘキヤハ殆ント想像シ難カルベク或ハ張勲的動乱ヲ再演スルヤ識ル可カラズ張作霖カ部下ヲ率ヒテ北京ニ入りシ如キハ易々タル事實ニ屬ス故ニ曰ク參戰軍ノ解散ハ偶々擾乱再発ノ患ヲ増サシムル外何等ノ利益ナク英、米、仏各國果シテ此ノ時ニ於ケル責任ヲ負フヘキヤ如何等ノ事ヲ以テシ茲ニ毅然タル態度ヲ示サバ英、米、仏公使等モ恐ラク支那政府ニ向ヒ正式ニ參戰軍解散ヲ迫ルカ如キコト無カルヘント信ズ要スルニ徐大綱統ヲ中心トシ比較的眞面目ニ日本ノ支援ヨリ自主的ニ支那國家ノ親日說ヲ熱望シ日支両國ノ堅確ナル結合ニヨリ歐米勢力ノ東漸ニ対セントスル人士ヲシテ其希望ヲ繋カシム

問セラレ結果電報アリタシ尚未北京武内金平ニ於テ承知シ居ルヤ否ヤ小幡公使ヨリ確メサセ度キニヨリ其旨本大臣ノ訓令トシテ北京ヘ転電アリタシ尚当地正金ニ問合セタルニ王克敏談話ノ如キ事実ハ承知セズトノコトナリ御参考迄申添ユ

六八五 三月三日 内田外務大臣宛(電報)

米両國公使及中國當局ニ申入済ノ旨回報ノ件

第二九三号

貴電第二三一号ノ件ハ已ニ本使ヨリ英米両公使ヘ御電訓ノ趣旨ヲ申入レ又支那当局ヘハ本使差支アリタルニ付三月一日船津ヲシテ陳外外交次長ヘ篤ト申入レシメタル處同次長ハ帝国政府ノ好意ヲ謝シ且ツ本件ニ關シテハ各方面ヨリモ種々問合セアリタルニ付此際之ヲ公表スル方可然ト思考セラルガ本使ニ於テ異存ナキヤヲ尋ねタルニ付本使ハ異存ナキ旨ヲ答ヘ且公表文ハ發表前一応我方ト打合セラレタキ旨申入レシメ置ケリ

六八六 三月四日 在上海有吉總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

## 参戦借款預金引出問題ニ關シ唐紹儀ニ内話済

ノ件

第九一號

貴電第三三号末段ニ關シ已ニ唐紹儀ニ内々伝へ済ミナルハ屢々電報ニ依リ御承知ノ通りナル處右ハ未タ公使ヨリ外交部ニ説明ノ運ビニ相成ラザル趣ヲ以テ唐ノミナラズ北方代

表朱啓鈴、王克敏等モ屢々不審ノ語気ヲ漏シ本日ノ「ノース、チャイナ、デイリー、ニュース」ニハ唐ノ談トシテ『参戦借款残額千七百万円ハ段祺瑞曹汝霖名義ニテ北京朝鮮銀行ニ保管セラレ居ル旨及右ハ全然商業取引ニ属シ日本政府ハ之ニ干涉スルヲ欲セザルモ同政府ハ小幡公使ニ訓令シテ支那政府ガ右残額ニ触レザル様「レコメンド」スル筈ナル旨日本官憲側ヨリ内報セラレ居ルモ土曜日夜迄ハ未タ外交部ニハ伝ヘラルニ至ラズ云々』ト報シ居リ且ツ右ノ内話ニモアリ旁々勿論必要ノ手続ヲ要スル儀トハ思考スルモ可成速ニ御取運ビ相成リ同借款ノ引出シト否トハ其ノ責任支

那当局ニ存スル旨ヲ明白ナラシメ置カルルコト内外何レノ方面ニモ好都合ナランカト思考ス

北京へ電報セリ

六八七 三月四日 在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

## 参戦軍解隊ニ關スル英國公使ノ提議ニ対スル

第三〇〇號

貴電第二八一号ニ關シ三月四日英國公使ヲ訪問シ貴電第二八二号ノ覺書ヲ読ミ聞カセタル上之ヲ手交シ更ニ御訓令ノ趣旨ニ従ヒ一応最近ニ至ル迄取り来レル措置ニ就キ更ニ敷衍説明シタル處同公使ハ右ニ対シ謝意ヲ表シタル上右覺書写ヲ仏國公使ニモ提示シ差支ナカルヘキヤト尋ねタルニ就キ勿論何等差支無キ旨答へ置キタリ尚其附言スル所ニ拵レハ米國公使ハ本件ニ關シ本国政府ヨリ未タ何等ノ訓令ニ接セザル由ナリ

六八八 三月四日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）  
兵器供給中止及参戦借款預金引出停止問題ニ  
六八九 三月六日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）  
英國公使ノ徐大總統謁見状況ニ關シ國務院側ヨリ日本通信記者ニ対シ為セル内話報告ノ件

第三〇八号  
三月四日英國公使ガ大總統ニ謁見シタル状況ニ關シ翌五日  
國務院側ヨリ日本通信記者ニ対シ大要左之通り内話シタル趣ナリ

英國公使ハ全然個人ノ資格ニ於テ謁見シタルコトヲ前提シタル上唐紹儀ヨリノ來電ニ關聯シ、（陝西問題ニ対スル北  
方側ノ意向及事情ヲ質問シ大總統ハ之ニ対シ現時ノ状態ヲ詳述セリ）次ニ参戦軍ノ撤廃ニ關スル英國公使ノ質問ニ對シ大總統ハ参戦軍組織ノ由來ヨリ説キ起シ今日ニ於ケル実情ヲ詳細説明シタル上、歐洲講和會議未ダ終了セズ且西北

又参戦借款ハ契約成立ノ際直ニ全額交付ラアシ支那政府代  
スルニ於テハ目下進行中ノ南北和議ヲ妨クルヲ恐レ南北平  
和會議ノ終了迄軍器引渡ヲ中止セシムルコトニ決定セリ將  
別電ト共ニ上海広東漢口福州及雲南へ電報セリ

（別電）

三月四日小幡公使発内田外務大臣宛電報第三〇四号

兵器供給中止及参戦借款預金引出停止問題ニ關シ小幡公使ノ中

国外交部ニ対シ為セル通告公表文

第三〇四号 別電

三月四日午後小幡公使ハ船津書記官ヲ外交部ニ遣シ本国政  
府ノ訓令ニ依リ陳代理総長ニ対シ左ノ通り通告セリ

日本政府ハ軍器購入契約ニ基キ陸續支那政府ニ軍器ヲ交付

スルニ於テハ目下進行中ノ南北和議ヲ妨クルヲ恐レ南北平  
和會議ノ終了迄軍器引渡ヲ中止セシムルコトニ決定セリ將  
又参戦借款ハ契約成立ノ際直ニ全額交付ラアシ支那政府代

九 対中国借款善後策ニ関スル件（一）六九〇 六九一

七二二

ヲ繰述シ且同軍関係ノ幹部交送モ今日ノ際出来難キコトナ  
ル旨ヲ答ヘタリ（三）英國公使ハ最後ニ南北統一ハ支那ノ為必

要ナル旨ヲ力説シ殊ニ巴里會議ニ於テ其ノ統一促成ノ支那  
ニ利益ナル旨ヲ述ヘ辭退セリ云々

尚亦國務院側ノ記者応接員ハ參戰軍借款ニ關スル日本政府  
ヨリノ申入レニ付テハ其ノ好意ヲ感謝スルト同時ニ參戰軍

ノ或部分ハ已ニ編成成リ殆ソド出兵セル狀態ナルニ付同軍  
ニ要スル糧秣其他經費ハ是非參戰軍借款ヨリ支出ノ要アル  
ニ付右必要額丈ハ該借款ヨリ引出ス考ナルモ該軍ハ斷ジテ  
内政問題ニ利用セシメザル方針ナリト述べ尚未啓鈴ヨリハ  
三月三日ノ停戰命令丈ニテハ充分ナラズ今少シク明確且嚴  
重ナル命令ヲ發セラレタキ旨政府ニ対シ電報シ來リタルニ  
付政府ヨリハ本五日更ニ一層嚴重ナル命令ヲ發スル筈ナリ  
ト述ベタル趣ナリ不取敢電報ス

上海、廣東、南京ヘ電報セリ（六日）

六九〇 三月六日

木村朝鮮銀行理事ヨリ

六九一 三月六日

内田外務大臣宛（電報）

參戰借款第三月分払出超過分整理ニ付承認方

依頼ノ件

參戰軍解隊ニ關スル英國公使其後ノ行動ニ付

回電方ノ件

註 別紙省略

内支總借第六四号

大正八年三月六日

朝鮮銀行理事 木村雄次（印）

外務省政務局長 増原正直殿

參戰借款第三月分払出ニ關スル件

拝啓曩ニ御承認ヲ得テ実行致候掲題払出金交付方ニ關シ匯  
業銀行ヨリ別紙写ノ通り入電有之概算額金弐百九拾万円也  
ノ換算額ハ同月分予算ニ照シ銀九万八千五百四拾六元七角  
ノ過払ト相成候由ニテ之ヲ第四月分ヨリ差引整理スルコト  
致シ度旨申越有之候處右ハ御承認方申出當時ニ比シ銀相  
場下落ノ結果ニシテ已ニ先方ニ於テモ払出後ノコトニ有之  
前記過剩額ハ第四月分予算額ヨリ差引ノコトト致シ第三月  
分ハ其儘払出整理ノコトニ取計方御承認被成下度此段得貴  
意候也

第一八一号

貴電第三〇〇号ニ關シ英國公使ニ於テハ能ク帝國政府ノ趣  
旨ヲ了解シタルコトト存スル処三月四日貴地發新聞電報ニ  
拵レハ同公使ハ同日午後徐世昌ニ面謁シ唐紹儀ヨリノ調停  
依頼ニ基キ善後策ニ關シ密談スルトコロアリタリトアリ果  
シテ右様ノ事実アリヤ參戰軍解隊ニ關スル同公使其後ノ行  
動並ニ米仏両國公使ノ本件ニ關スル態度等可然確メラレ結  
果電報アリタシ

六九二 三月七日 在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

五国公使會議ニ於ケル參戰軍解隊問題ニ關シ

英國公使ヨリノ経過説明及我方ノ執リタル措

置ニ付報告ノ件

第三一五号

（三月八日接受）

貴電第二八一号ニ關シ

三月六日五国公使會議（日英仏米伊）ノ席上ニ於テ參戰軍  
解隊問題ニ付英國公使ガ其執リタル措置ノ経過ヲ説明セル  
処ニ依レバ同公使ハ此程本国政府ヨリ參戰軍解隊方ノ勧告  
ヲ聯合國使臣ト共同シテ支那政府ニ申入ルヘキ旨ノ電訓ニ

若クハ借款金ノ引出ヲ自制的ニ差控フルニ於テハ我方ニ於

九 対中国借款善後策ニ關スル件（一）六九二

七一三

テ無論異存ナキノミナラズ現ニ此程本使ハ支那政府カ大局ニ顧念シ本借款ノ引出ヲ暫ク自制シ南北統一ノ促進ニ資ス

ルノ得策ナルヲ注意シ置ケル次第ナルヲ述ヘ種々議論ヲ交タル結果結局參戰軍問題ニ關シテハ本月一日日本使カ外交部ニ申入レタル趣旨ヲ支持スル意味ニテ四國公使一同ニテ部ニ申入レタル為スコトニ協議纏マリタル次第ハ往電第三一一号報告ノ通ナリ次ニ米仏公使ノ態度ニ付テハ仏國公使ハ英國公使ト同様ノ訓電ニ接シ居リ關係国使臣トノ協議纏リ次第支那側ニ參戰軍解隊ノ勸告ヲ為サントスルニアリ又米國公使カ本国政府ヨリ未タ明確ナル訓令ニ接シ居ラザルハ既電ノ通ナルモ大体英仏公使ト協調シ行動スヘキ意向ナリト認メラル

### 六九三 三月八日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣死(電報)

兵器供給停止國防軍ノ存廐及參戰借款二関ス  
ル我方針ヲ中國政府ニ申入方暫時差控ヘタル

事情ニ關シ具申ノ件

(三月九日接受)

第三一七号

ヲ翻シ軍器供給ハ之ヲ差止メラルコトニ決定シタルモ借款金ハ既ニ支那政府勘定トシテ我ガ銀行ニ預金トナリ居ル迄ナルヲ以テ政府ニ於テ之ヲ如何トモスルコト能ハザル旨貴電ニ接シ尚ホ英米公使ヘ其趣旨ヲ伝ヘ置クベシトノコトニ付キ其儀直ニ執行シタルニ追駆ケテ更ニ借款金額ノ引出シニ付キテモ時局關係ノ促進上自發的ニ暫ク之ガ使用ヲ停止シ内外ノ疑惑ヲ除去スルノ態度ニ出ヅル方得策ナルベキヲ支那側ノ考量ニ入ルベキ旨御訓令ニ接シタル次第ナリ然ルニ斯ノ如ク本件ノ処理ニ付テハ遺憾乍ラ一貫セル方針ニ基カズ外部ノ物議、言論ノ為メニ始終動搖シテ我方主張ノ論拠ノ如キモ幾度カ自ラ之ヲ覆シ來リタルノ姿ニテ甚ダ不遜ノ言分ナガラ殆ド朝令暮改ト言フノ外ナクスケテハ出先ニ於テ之ガ執行ノ任ニ當タル本官等ハ時ニ苦痛ナル立場ニ立タザル可カラザルハ仮リニ忍ビ得ルトスルモ斯ク方針ノ変転常ナキハ果シテ外間ニ如何ニ映ズベキカ、自然帝國政府ガ鼎ノ輕重ヲ問ハルルニ至ルヲ衷心憂慮ニ堪ヘザル次第ニキヲ保シ難シトモ思料シ為メニ支那側ヘノ申入モ差控第一次第二シテ或ハ右ノ卑見御酌量ノ結果更ニ何等御垂示ノ次第ナキヲ

貴電第二九五号ニ閲シ  
支那政府ヘノ申入聊カ遲延シタルカ為メ我方折角ノ趣旨力十分徹底セザリシヤノ嫌アリトノ御示達ニ対シテハ誠ニ恐懼ニ堪ヘザル處ナルモ実ハ當時參謀本部ヨリ東少將ヘノ訓令ニ依レハ先以テ支那陸軍側ノ意嚮ヲ探究スル事然ルヘントノ趣旨ニ解セラレ同少將ヨリ支那陸軍當局ノ意嚮ヲ確ムル迄訓令實行方猶予シ置カレマジキヤトノ話モアリ旁幾分遲延ヲ來タシタル實状ニ有之加之元來本問題ニ付テハ当初帝国政府ノ主張ハ要スルニ借款及軍器供給ハ特ニ何レモ本邦ノ銀行会社カ支那政府ニ對シテ負フ處ノ既定義務ニ属シ政府ニ於テ之レヲ命令的ニ中止セシムル事ヲ得ズト云フニ在リテ右ノ趣旨ハ當時英米両國側ニモ明確ニ声明ヲ了シタル次第ナルガ爾來本問題カ益々内外人注目ノ標的トナリ我方トシテモ唯漫然トシテ黙過シ難キ形勢トナリタルニ就キ寧ロ支那側ヨリ參戰軍力将来断シテ危險ナル用途ニ供セラルヘキモノニ非ストノ言質ヲ提出セシメ置クヲ我方将来ノ立場ノ為メ得策ト認メ幸ニ卑見御採納ヲ得タルヲ以テ右ノ措置ヲ進行スル事トナリタルハ御承知ノ通リナリ然ルニ未ダ先方ヨリ何等声明ニ接スルニ先立チ政府ハ当初ノ論拠ノ点ニ對シテ謝意ヲ表シタル義ナリ哉トノ御下問ニ付テハ実ハ当日船津ニ於テモ通常有勝ノ辞令ナルヲ以テ別段何レノ点ニ對シテ謝意ヲ表シタル哉トノ推問スル必要モナカルベシト考へ不問ニ附シタル趣ニ付次長ノ真意如何ハ遺憾ナガラ究明致難キモ帝國政府ガ和平統一ニ眷々タル至情ヨリ今回ノ処置ヲ執ルニ至リタルトノ説明ニ對シ一応ノ謝意ヲ表シタルニ過ズシテ特ニ重大ナル意味合ヲ含有スルモノニ非ザルベク尤支那當局ノ意向ニ付テハ今後共留意ノ上更ニ追報ニ及ブベシ本件ニ付テハ次長以外他方面ノ支那當局ニ對シ未ダ何等ノ措置ニ出デタルコト之無モ支那側ニ申入レ後直ニ新聞ニ發表セラレ且二三新聞ハ号外ヲ出シタル位ニテ世間周知ノ事實ナルヲ以テ別段特ニ他ノ方面ニ説明ヲ試ムルノ要ナシト認ム

六九四 三月八日 在上海有吉領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

北支毎日新聞ニ於テ和平ノ為ニハ陝西督軍文

迭段徐両氏ノ免職日本ノ誠実ナル政策ヲ要ス

ル旨ノ記事掲載ノ件

第一〇三号

三月六日ノ「ノウス、チャイナ、ディリー、ニュース」ハ

「エ、コレスピンドント」ヨリトシテ一文ヲ掲ケ陝西ニ於

ケル北軍ガ政府ノ命令ニ反シテ戦争ヲ継続スルハ北京ニ於

ル措置ニ出テ段祺瑞、徐樹錚ノ即時退職ヲ要求スルノ時期

ニアラザルナキカト謂ヒ右両人カ和平ノ妨害者タルヲ説キ

テ日本ノ關係ニ及ビ参戦借款ニ関スル小幡公使ノ北京政府

ニ対スル申入レニ言及シテ右ヲ背信ノ行為ナリトシ日本ニ

シテ若シ誠実アランニハ元来「インモーラル、コントラクト」タル同借款ヲ取消スヘキ筈ナリトシ日本官憲ト段、徐

両人間ニ密約アルハ争フヘカラズ之ヲ破壊スルニアラザレ

バ和平ハ望ム可カラズト論シ最後ニ（脱）ガ為ニハ一、陝

西督軍ノ交迭、二、段祺瑞、徐樹錚ノ免職、三、日本ノ誠

六九五 三月八日 在福州森領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

兵器供給中止及参戦借款ニ関スル公表ハ一般

ニ好感ヲ以テ迎ヘラレタル件

（三月九日接受）

本官発在支公使宛第一二号

貴電第二三号軍器ノ交附停止及参戦借款ニ関シ閣下ノ外交

部ニ対スル通告ハ三月五日当地ニ於テ公表セル處本七日ノ

ケン報（進歩党系）ハ日本政府今回ノ措置ハ南北平和促進

ノ上ニ多大ノ効果アルヘシト称シ日本カ支那南北統一ヲ深

ク顧念セラルヲ謝シ終リニ我カ親睦ナル日本ハ若シ一二

野心家出デテ如何ニ運動スルトモ此議ヲ堅持シ絶対ニ之レ

ヲ取消スカ如キ事無キヲ信ス云々ト述ヘタリ其他ノ新聞ハ

何等論評ヲ加ヘサルモ一般好感ヲ以テ迎ヘラレタルガ如シ

大臣ヘ転電セリ

六九六 三月八日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

英米仏伊四国側ニ於テモ中国ノ参戦借款預金

引出自制ヲ得策ト認ムル旨英米公使ヨリ陳外

文総長代理ニ申入レタル旨米国公使談話ノ件

第三二二号

（三月九日接受）

三月七日本使催シノ晚餐会ニ來会セル米公使ニ就キ往電  
第三一号末段英仏米伊四国公使ヨリ外交部ニ対シ本使ヨ  
リノ申入ヲ支持スル意味合ノ勧誘ヲナスノ件ハ如何ナリタ  
ルヤフ尋ねタルモ同日午後四国公使打チ連レ陳外交総長代  
理ヲ訪問シ簡単ニ英米公使ヨリ本使ノ申入ニ Refer シ四  
国側ニ於テモ日本ト同様支那政府カ借款金引出シヲ自制ス  
ルヲ得策ト認ムル旨申入レタリト語レリ

六九七 三月八日 内田外務大臣ヨリ  
高橋大蔵大臣宛

参戦借款第三月分過払額戻入方手配セシムル

様依頼ノ件

参戦借款第三月分過払額戻入方手配セシムル

政機密送第六〇号

参戦借款第三月分過払額戻入方手配セシムル

九 対中国借款善後策ニ關スル件（一）六九六 六九七

実ナル政策トヲ要スルモ是レ蓋シ容易ニアラズ從ツテ英米  
仏三国公使ハ当國若クハ巴里ニ於テ其ノ勢力ヲ利用スルコ  
ト必要ナルベシト結ヘリ  
在支公使ヘ電報セリ

六九六 三月八日 在福州森領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

参戦借款第三月分ノ予算額ハ洋銀百七拾弐万壹千貳百〇參  
元參角ニ有之右ハ二月中旬朝鮮銀行ヨリノ申出ニ對シ払渡  
シ差支ナキ旨ノ承認ヲ与ヘ置候次第ノ処同行ヨリハ右ニ對  
スル概算額トシテ邦賃金弐百九拾万円ヲ北京ニ送金シ同地  
滙業銀行ニ於テハ此洋銀換算額ノ全部ヲ誤テ交付セシ為メ  
予算額ニ對シ洋銀九万八千五百四拾六元七角ノ過払額ヲ生  
シ之レカ戻入方ヲ交渉シタルニ支那側ニ於テハ右ハ第四月  
分ヨリ差引整理スルコトシタキ旨請求アリタル趣ヲ以テ  
右承認方別紙<sup>(註)</sup>写ノ通り朝鮮銀行理事ヨリ当省政務局長宛願  
出有之候然ル處本件借款ノ月割交付額ハ既定予算書ニヨリ  
明ラカニシテ銀相場下落ノ為メ予算額ニ過剰ヲ生スヘキコ  
トモ事前ニ於テハ自ラ明瞭ノ事實ナリシニ拘ラズ当事者ニ於  
テ全部ノ交付ヲシタルハ粗漏ト申スノ外ナク殊ニ本件借款  
ハ御承知ノ通り外交上極メテ重要ノ關係ヲ有シ居ルカ為  
儀ニ有之候間貴省ヨリ同行当事者へ嚴重御下命ノ上至急本  
件過払額ノ戻入方手配セシムル様御取計相成度此段及御願  
会候也

註 別紙前掲ニ付省略

六九八 三月九日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

英米仏伊四国公使ハ中国ノ参戦借款預金引出

自制方ニ関スル日本公使ノ申入ヲ支持スル事

ノ覚書ヲ陳総長代理ニ交付シタル趣英國公使

來談ノ件

別電 同日小幡公使発内田外務大臣宛電報第三一一五号

右覚書

第三一一四号

往電第三一一号ニ關シ英米仏伊四国公使ハ三月七日陳外交  
総長代理ヲ往訪シ別電第三一二五号ノ如キ覚書ヲ交付シタル  
旨今八日英國公使來訪報告アリタル処先是吾通信員ガ外交  
部側ヨリ得タル情報ニ依レバ英國公使ハ右覚書ヲ交附スル  
際参戦軍ハ此ノ際寧ロ解散スル方得策ナリト附言シタリト  
ノ事ナルニ付英國公使ニ対シ本覚書以外何等意見ヲ開陳セ  
ラレザリシヤト取糺シタルニ英國公使ハ暫ク躊躇ノ上既ニ  
必要ナル資金ノ引出ヲ差控ユル以上自然該軍隊其ノモノノ  
廃止ノ「イムプライ」サルル事並支那目下ノ急務ハ軍隊ノ

裁撤ト新規募兵ノ中止ニ在ル事ヲ概括的ニ説述セリト答へ  
タリ

（別電）

三月九日小幡公使発内田外務大臣宛電報第三一二五号

英米仏伊四国公使ヨリ陳外総長代理ニ交付ノ覚書

No. 325. Betsuden.

Representatives of France, Great Britain, Italy  
and U.S.A. desire to associate themselves with and  
give their full support to the communication already  
made to the Chinese Government by their Japanese  
colleague in which the hope is expressed that in view  
of general state of affairs, Chinese Government will,  
in order to promote early reunion of North and South  
refrain, for the present, from drawing on the  
proceeds of war participation loan now on deposit in  
the Japanese Bank. Obata.

六九九 三月九日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

参戦借款及参戦軍取消ノ唐紹儀要求ニ付スル

中央政府ノ態度ニ付報告ノ件

第三一一〇号

（三月十日接文）

（前略）

唐総代表ハ熱心ニ参戦借款ノ取消シ参戦軍ノ取消等ヲ要求  
セラルモ中央政府ニテハ歐戰未終了セズト認ム從テ軍  
事協定ヲ取消スハ其時機ニ非ズ既ニ之レヲ取消シ能ハザレ  
ハ参戦借款ハ当然交付スヘキモノナリ歐洲平和條約調印セ  
ラレ軍隊撤退セラレタル後ニ至リ軍事協定及参戦軍ハ何レ  
モ同時ニ消滅スヘキモノナルモ其際参戦軍ヲ解散スヘキヤ  
否ヤハ陸軍部ヨリ他ノ軍隊裁撤案ト共ニ一併考慮スヘキ問  
題ナリ

七〇〇 三月十日 在中国小幡公使宛（電報）

徐總統ノ参戦軍ニ関スル聲明ハ誤解ナルニ付

同總統ヨリ英國公使ニ我方ノ真意ヲ伝フル様

取計方訓令ノ件

第三一一一號

貴電第三一五号ニ關シ

徐總統ハ英國公使ニ対シ参戦軍ハ外国トノ協約ニ基キ組織  
セラレツツアルモノニ付同總統ニ於テ如何トモスルコト能

ハサル旨述ヘタル趣ナル処素ト参戦軍組織ニ要スル資金ハ  
ハサル旨述ヘタル趣ナル処素ト参戦軍組織ニ要スル資金ハ

七〇一 三月十一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

参戦軍解散ニ付スル英米両國ノ強硬主張及參

戦軍教官傭聘問題ニ關シ請訓ノ件

第三一二号（大至急） （三月十二日接文）

往電第三二八号ニ關シ三月拾一日午前五国公使会議ヲ開キ

九 対中国借款善後策ニ關スル件（一）七〇〇 七〇一

七一九

討議ヲ尽シタルガ本使ヨリ更ニ御訓令ノ次第ヲ敷衍説述シタルニ対シ英國公使ハ支那政府ニ対スル第二次勸告ノ主要目的ハ和平促進行惱ノ主要原因タル參戰軍解散ニ帰セズンバアラズ実ハ今朝本国政府ヨリ接受シタル十日倫敦発電訓ニ拠レバ英國政府ハ在東京英國大使ニ対シ參戰軍解散問題ニ闇シ更ニ日本政府ト折衝スペキ旨ノ電訓ヲ發シタル趣ニシテ旁此際自分トシテハ日本政府提案ノ要領及右提案ガ參戰軍解散ニ言及スル事ナク而カモ余リ強硬ナラザルモノナル事ヲ特ニ指摘シ本国政府ニ電報スルニ一方東京ニ於ケル交渉ノ推移如何ヲ確知スル迄当地ニ於テハ暫ラク措置ヲ取ル事ヲ差控ヘタキ所存ナル旨ヲ陳述シ米仏両国公使亦之ニ賛意ヲ表シ伊国代理公使モ此際更ニ事態ヲ具シ本国政府ニ請訓スル事トナリ

十一日五国公使會議ノ経過ハ大体上記ノ通ナルガ本使ノ見ル所ニ依レバ本問題ガ英國政府ノ熱烈ナル提唱ト米国公使ノ鞏固ナル支持ト相俟テ歐洲ニ於ケル現在並将来ノ立場ニ鑑ミ英米両国ト不斷ノ協調ヲ確保スルヲ以テ得策ナリトスル仏伊両国側ヲモ糾合シテ今ヤ飽迄モ其ノ主張ヲ達成シ參戰軍解散ヨリ延ヒテ同軍ト日本トノ関係ヲ全然打破セント

シ既ニ第二次勸告如何ノ問題ヲ全然脱シテ殆ド前記ノ目的ノミノ為ニ驚進セントスルノ鋒銳漸ク露骨トナリ來リタルヤノ感アリ若シ帝國ニシテ飽迄モ解散強要ニ参加スルコトヲ肯ゼザルニ於テハ勢四国代表者ノミニテ当初ノ所信ヲ決行セントスルノ底意ヲ有スルニアラズヤト見受ケラル節無キニ非ズ此点特ニ御留意アリ度ク將又此場合ニ処スペキ本使ノ態度ニ付テモ更ニ何分ノ方針御指示相成度シ

尚当日ノ席上米国公使ハ本使ニ対シ參戰借款契約当事者如何ヲ質シタルニ付本使ハ唯今明確ニハ記憶セナルモ日本銀行側代表者ト參戰督弁所代表者トノ間ニ取極メ決セラレタルモノニシテ全然私法的關係ニ過ギス而シテ參戰軍ノ組織自体ト借款契約トハ全然別個ノ問題トシテ考慮セザル可力ラザル旨ヲ説明シタルモ同公使ハ自分ノ承知スル所ノ該契約ニハ教官傭聘ノ条項ヲモ含メル趣ニシテ從ツテ參戰軍ハ一種ノ國際的關係ヲ有スルモノト云ハザルベカラザルト同時ニ又吾人ニ於テモ interrog ヲ感ゼザルヲ得ザル次第ナル旨ヲ述ベタル上更ニ本問題ノ解決如何ガ和平実現ノ根本要件トシテ上海會議ニ於テ南北代表トモ同様ニ憂慮シツツアル所ナル旨説述シタルガ右ニ対シ本使ハ更ニ從来御訓達

ノ次第ヲ反覆説明シタル上帝帝国政府ノ觀ル所ニ依レバ參戰軍解散ヲ強要スルガ如キハ明カニ内政干涉ト云ハザルベカラザルモ支那政府ガ自ラ進ンデ之ガ解散ヲ実行スルニ対シテハ是レ亦何等容喙ノ限ニアラズシテ帝国政府ニ於テモ素ヨリ異議ナキ所ナリト述べ偶々十一日朝接受シタル貴電第323号御來示ノ次第ヲ更ニ明確ニ附言説示シタルガ前記米国公使ノ指摘シタル借款契約中教官傭聘ノ条項ニ闇シテハ本使ニ於テモ明確ナル記憶ヲ有セズ旁即答ヲ避ケ置キタルガ今後共右等ノ点ニ闇シ本使ニ於テ率直ニ説明ヲ与ヘ差支ナキヤ是又何分ノ義御電示置キアリタシ(三月十一日)在上海、廣東總領事及ビ在南京領事へ電報セリ

七〇二 三月十一日 在上海有吉総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

### 陝西問題及參政軍撤廈問題ニ闇スル朱啓鈴ノ談話報告ノ件

第一〇七号

(三月十二日接受)

二月十一日朱啓鈴ニ面談彼曰ク陝西問題ニ付テハ北京ヨリ厳重ニ停戦ヲ命令シ既ニ能ク実行セラレ居ル旨通牒ニ接シ直ニ唐紹儀ニ伝ヘテ會議ノ再開ヲ請求セル處生憎唐ハ病氣

引籠中ニテ未タ公然回答ニ接セズ其間南方側ハ右様北京政府側ノ報道丈ヶニテハ満足シ難ク是非共于右任ヨリ直接報告ヲ待ツヲ要スト主張セルニ付現ニ自分ヨリモ陳樹藩及于右任ニ電報問合中ニテ最近同方面ヨリノ報道ニ依レバ南北兩軍ハ互ニ相交通往来シ彼我融和シ居レリトノ事ニ付特別ノ出来事ノ生セザル限り于右任モ満足ナル報道ア(脱)四五日内ニハ會議ヲ開キ得ルコトナルベク唐紹儀ノ容態モ漸次良好ニテ医師ハ尙ホ当分ノ静養ヲ勧告シ居ルモ唐ニ於テハ右問題ノ解決次第何時ニテモ出席スル旨申居レル趣ナリト云ヒ參戰軍問題ニ付テハ彼ハ最近北京ノ友人ヨリノ内報トシテ政府ハ愈々右(脱)公表スヘシトノ事ナルガ若シ事實トセバ貴国政府モ承諾ノ事ト考フルモ果シテ如何将又右ハ其全部又ハ一部ナリヤト質問セルニ付本官ハ自分ヘノ内報ニ依ルモ我政府ハ右公表方貴国政府ト打合セノ上遲クモ兩三日内ニハ北京及東京ニテ同時ニ決行セラルル筈ニテ勿論全部公表セラルルコトト思考スル旨答ヘタル處彼曰ク右ガ昨今ノ停戦中ニ公表セラルルコトモナラバ開会後自分等ノ立場ハ甚シク容易トナルベク是レニ貴国政府ノ賜物ナリト切ニ感謝ノ意ヲ表シ更ニ曰ク南方側ハ飽ク迄參戰

九 対中國借款善後策二閥スル件（一） 七〇三

預金引出ハ止ムヲ得ザル旨銀總理談話ノ件

七二二

軍ノ撤廃ヲ迫リ政府ニシテ肯ゼザレバ軍事協定ヲ巴里會議ノ議ニ附シテ迄モ之ヲ徹底セシ意氣込ナルヲ以テ此上トモ之カ方針ヲ持続スベク而シテ当初ニ於テハ自分ハ政府ノ訓令ニ基キ參戰軍ハ日本トノ協定ニ基クモ予ニシテ單獨ニ存廃ヲ決シ得ヘキ筋合ナラザル旨答ヘ来レル結果自然彼等攻撃ノ鋒先ハ日本ニ向ハザルヲ得ザリシ次第ナルモ貴國政府ガ軍器供給停止借款引出見合方ノ忠告引続キ今次ノ公表等ノ取計ニ出デラレタルニ見テ參戰軍ノ存廃ハ一二我政府ノ決定スル處ニ委セラルベキ態度益々明白トナリタル次第二付南方ト雖モ今後ハ單ニ嚴シク北京政府ニ向テ之ガ撤廃ヲ迫ルニ止マルベク自分トシテ之ガ趣意ニハ初ヨリ贊成ナルモ只北方代表タル立場ヨリ政府ニ於テ他ヨリノ圧迫ヲ受ケテ余儀ナクセラルニ至ラザル前、屑ク自發的ニ之ガ撤廃ヲ為サシムル方針ヲ以テ事ヲ進行スル積トセリ

公使、廣東へ電報シ南京へ郵送セリ

七〇三 三月十五日 在中國小幡公使（ヨリ）

内田外務大臣宛（電報）

參戰軍ガ南北和平ノ障害ナリトスルハ南方側

ノロ実ナル旨竝參戰軍存続ノ必要及參戰借款

日モ速ニ南北會議ノ成立ヲ希望シ努力シツツアル次第二付更ニ出兵ノ如キ行動ハ断シテ執ラザル決心ナルモ南方側ノ

本件ヲ以テ會議行キ惱ミノロ実トスルニ際シ中央政府ニシテ今日參戰軍撤廃ヲ讓歩センカ明日必ズ更ニ他ノ問題ヲ持チ出シ來リ其ノ要求終ニ際限無ク結局南方側ノ条件全部ヲ容レ之ニ屈從スルニ非ザレバ已マザル可シ中央政府ニ於テ

ハ南方側ノ正当ナル主張ニ対シテハ務メテ之ヲ容ルルニ客ナラザルモ単ニ口実トスルニ過キザル本問題ノ如キ要求迄之ヲ承諾スルコトハ到底其ノ堪フル所ニアラズ故ニ英國公使等ニ対シテハ相當ノ理由ヲ附シテ參戰軍ノ完成ヲ必要トスル今日之ニ必要欠クベカラザル経費本件預金ヲ引キ出スノ已ムヲ得ザル旨ヲ回答セン考ヘナルガ本使個人トシテノ意見如何ト尋ホタルニ付本使ハ帝国政府ニ於テハ衷心ヨリ速カニ南北會議ノ成立シ支那統一ノ大局ニ必要ナルニ鑑ミ本件預金引キ出シ見合セ方ヲ希望シタル次第二付參戰軍存続ハ支那政府ノ自由タルコト勿論ナルト共ニ本件預金引キ出シニ付テモ依然帝国政府前回ノ申入レヲ支持スル外猶ホ其レ以上支那政府ニ於テカ決行ヲナスハ之レ支那政府ノ責任トスル外致シ方ナカルヘシト答ヘ置ケリ

九 対中國借款善後策二閥スル件（一） 七〇四

ノ議ニ附シテ迄モ之ヲ徹底セシ意氣込ナルヲ以テ此上トモ之カ方針ヲ持続スベク而シテ当初ニ於テハ自分ハ政府ノ訓令ニ基キ參戰軍ハ日本トノ協定ニ基クモ予ニシテ單獨ニ存廃ヲ決シ得ヘキ筋合ナラザル旨答ヘ来レル結果自然彼等攻撃ノ鋒先ハ日本ニ向ハザルヲ得ザリシ次第ナルモ貴國政府ガ軍器供給停止借款引出見合方ノ忠告引續キ今次ノ公表等ノ取計ニ出デラレタルニ見テ參戰軍ノ存廃ハ一二我政府ノ決定スル處ニ委セラルベキ態度益々明白トナリタル次第二付南方ト雖モ今後ハ單ニ嚴シク北京政府ニ向テ之ガ撤廃ヲ迫ルニ止マルベク自分トシテ之ガ趣意ニハ初ヨリ贊成ナルモ只北方代表タル立場ヨリ政府ニ於テ他ヨリノ圧迫ヲ受ケテ余儀ナクセラルニ至ラザル前、屑ク自發的ニ之ガ撤廃ヲ為サシムル方針ヲ以テ事ヲ進行スル積トセリ

公使、廣東へ電報シ南京へ郵送セリ

第三八一号 （三月十六日接受）  
預金引出ハ止ムヲ得ザル旨銀總理談話ノ件  
七二二

七二二

三月十四日本使銀總理ニ會見ノ節同總理ハ全然一個人ノ資格ヲ以テスル次第ナルガト辞ハリ參戰借款預金ニ閥シテハ日本政府ヨリ引出シ見合セ方希望アリ其後四国公使ヨリモ右日本ノ通告ニ賛成ノ旨外交部ニ申出アリタル處參戰軍ハ支那政府ノ必要ニ応ジ已ニ略々其ノ編制ヲ了シ其ノ經費ハ全部參戰借款ニ依リ支持セラレ居ル實情ニシテ然カモ飽ク迄參戰軍ノ存続ヲ必要トスル今日該借款預金ノ引出シヲ要スルハ実ニ止ムヲ得ザル次第ト諒察アリ度ク元來南方側カ參戰軍ヲ以テ南北會議進行ノ妨害タルヲ実トスルモ同軍ハ今後對内政治上ノ作用ニハ絶対的ニ之ヲ利用セシメザルハ勿論仮令万一南方側ノ杞憂スル如ク三師團位ヲ全部利用シタリトテ中央政府ニ於テ再戰ノ考ダニ有レハ北方ニハ尚ホ軍隊モ有ルニ付必ズシモ參戰軍ノ存廃ニ拘ラズ其ノ所信ヲ断行シ得可キ筈ナリ從ツテ參戰軍問題ハ一二南方側ノ口実ト思ハザルヲ得ズ尤モ中央政府ニ於テハ誠意ヲ以テ一

燒シタリトテ中央政府ニ於テ再戰ノ考ダニ有レハ北方ニハ尚ホ軍隊モ有ルニ付必ズシモ參戰軍ノ存廃ニ拘ラズ其ノ所信ヲ断行シ得可キ筈ナリ從ツテ參戰軍問題ハ一二南方側ノ口実ト思ハザルヲ得ズ尤モ中央政府ニ於テハ誠意ヲ以テ一

在上海、廣東總領事へ電報セリ

七〇四 三月十九日 高橋大藏大臣（ヨリ）

内田外務大臣宛

參戰借款第三月分過払額ハ第四月分ヨリ差引

整理方鮮銀ノ願出ニ關シ今回ハ特ニ承認可然

旨申越ノ件

官房秘乙第六一五号

（三月二十日接受）

本件ニ閥シ三月十日附政機密送第六〇号ヲ以テ御照会ノ趣了承第三月分過払ニ至リタル事情朝鮮銀行ニ問合セタル處右ハ全ク中華滙業銀行当事者ノ過失ニ出デタルモノニシテ重々不都合ノ次第ナルハ御申越ノ通ナルモ此際滙業銀行ニ於テ支那政府ニ対シ右過払分ノ戻入方ヲ要求スルコトハ頗ル困難トスル事情モ有之趣ニテ第四月分ヨリ差引整理方枉ケテ承認ヲ得度旨朝鮮銀行ヨリ縷々申出有之候處本件金額ハ比較的少額ニ有之此際強イテ滙業銀行ヲシテ戻入方ヲ支那側ニ要求セシムルコトハ同行将来ノ立場ニ閥シ同情スヘキ事情モ有之候間其将来ニ付銀行当事者ヲ嚴重戒飭シタル上今回ハ特ニ右願出ヲ承認致可然思考致候處貴省御意見至急承知致度此段回答旁右申進候也

七二三

大正八年三月十九日

大蔵大臣男爵 高橋 是清（印）  
外務大臣子爵 内田康哉殿

七〇五 三月二十一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

陝西省ニ在ル軍隊ハ參戰軍ニ非ザル旨其他ニ  
關シ張志潭陸軍次長ノ西田ニ対スル説明報告

ノ件

第四二〇号

（三月二十二日接受）

貴電第三八九号ニ閲シ

三月二十日西田ヲシテ陸軍次長張志潭ニ就キ確メシメタル  
處同次長ハ參戰軍ハ浦塩方面ニ出征セル軍隊ト近時編制ノ  
三個師団（未ダ全部完成ニ至ラズ）ニ過ギズ従ツテ參戰軍  
中陝西方面ニ出動セルモノ全然無之將又貴電中ニ所謂国防  
軍ト称スルモノハ現在存在セズ西北邊防ノ軍隊ヲ統轄スル  
為メ一時參戰處内ニ国防籌備處設置ノ議アリシモ歐洲講和  
會議終了セズ西比利亜方面ノ現状ニ鑒ミ參戰軍ノ必要アリ  
急ニ同軍ヲ撤廃シ難キニ付キ国防籌備處設置ノ議ハ実行ニ  
至ラズ取リ消サレタリ現ニ陝西省ニ在ル北方軍隊トシテハ

陳督軍等ノ節制ノ下ニアル從来ヨリノ軍隊（約二個旅團）  
以外ニ許蘭州ノ率キル奉天軍（二旅團及騎兵一聯隊）並ニ  
張錫元ノ率キル一混成旅團（從來通州ニ駐屯セシ軍隊ニシ  
テ實際ハ一旅團ニ足ラズ）ナリ、世上ニハ參戰處ニ關係ア  
ル徐樹錚ガ奉天軍ノ若干部隊ヲ同人ノ直隸トセルヨリ南下  
セル奉天軍ヲ參戰軍又ハ國防軍トト称セルモ事実ハ然カラ  
ズ殊ニ支那政府ハ參戰軍ヲ對内政治上ニ利用セシメザルコ  
トヲ声明シ且ツ大總統モ速ニ南北平和會議ノ成立シ妥協統  
一ヲ切望セル今日參戰軍ヲ陝西方面ニ出動セシムルガ如キ  
コトハ斷ジテ許ナザル處ニシテ陸軍部トシテモ此ノ見地ヨ  
リ軍隊ノ行動ニ閲シテハ平和會議ノ妨害トナラザル様嚴重  
ニ注意セル處ナリト言明シタル趣ナリ因ミニ同次長ハ段ノ  
系統ニ屬スルモ寧口文治派ニシテ最初ヨリ平和ヲ希望シ徐  
樹錚トハ反対ノ意見ヲ有シ最近大總統ニモ信任厚キ人物ナ  
ルニ付キ同人ノ所言ハ大体ニ於テ信用（脱）ナラント認メ  
ラル

上海、廣東、南京ヘ電報セリ。

七〇六 三月二十一日 東在中国日本公使館付陸軍武官ヨリ

上原參謀總長宛（電報）

段祺瑞ノ參戰督弁辭職説ニ閲シ報告ノ件

支極秘一二三

（三月二十二日接受）

近來段祺瑞ノ參戰督弁辭職ニ閲スル種々ノ風説アルカ彼ハ  
參戰軍ノ支持ニ閲シテハ依然強硬ナル主張ヲ有スルモ南方  
派ノ參戰軍撤廃ヲ強要スルハ畢竟自己ヲ排斥セントスルニ  
外ナラザルヲ知リ自己ノ在職ガ南北妥協ニ害アリトセバ敢  
テ其職ヲ辞スルニ躊躇セザルノ意思ヲ表明セルハ事實ニシ  
テ大總統ハ段ノ辭職ハ大局ニ不利ナリトシ之カ慰留ニ努メ  
ツツアルガ如キモ将来和議問題錯綜スルニ於テハ或ハ辭職  
ヲ決行スルニ至ルベシト信セラル

七〇七 三月二十三日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

入竝四國公使申入ニ対スル中國政府ノ回答ニ  
付施履本外交次長代理來談ノ件

第四二二号

付施履本外交次長代理來談ノ件

往電第二九三号申入ニ対シ三月二十二日施履本外交次長代

理トシテ本使ヲ來訪ノ上支那政府回答左ノ如ク申述ヘタリ  
軍器ノ件ニ閲シテハ南北和平會議結果迄交付ヲ一時中止ノ

九 対中国借款善後策ニ閲スル件（一）七〇七 七〇八

撤廢シ督弁ヲ辞スル旨ノ書面ヲ三月十八日政府へ提出シタル趣ノ處右様ノ報道ハ如何ナル程度迄事実ナリヤ何分ノ儀電報アリタシ

七〇九 三月二十四日 内田外務大臣ヨリ  
高橋大蔵大臣宛

## 参戦借款第三月分過払額整理方ニ閑スル鮮銀

ノ願出ハ今回限り承認ノ件

政機密送第七九号

参戦借款第三月分過払ニ閑スル件

本件ニ閑シ本月十九日付秘乙第六一五号貴信ヲ以テ御示ノ趣了承致候貴見ノ次第モ有之候ニ付今回限り朝鮮銀行ノ願出ヲ承認スルコトニ異存無之候尤モ同行当事者ニ対シテハ嚴重戒飭ヲ加ヘ置カル様致度此段申進候也

七一〇 三月二十五日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

参戦借款金引出見合方ニ閑スル四国公使申入  
二対スル中国政府回答ノ真意及右回答ニ対ス  
ル英國公使等ノ意向ニ付問合ノ件

第四〇七号

貴電第四〇七号ニ閑シ

英國公使カ支那政府ノ回答（別電第四六一号）ニ対シ不満ノ意ヲ表シタル趣ハ外交部員其他ヨリモ聞知セルモ詳細ノ事情承知ノ必要上坂西ニ依頼シ斬雲鵬ニ就キ確メタル処始メ英國公使カ右回答ヲ受ケタル節外交部員ニ対シ回答ノ内容ハ某国公使（即チ本使ヲ指スモノナリ）ガ五国公使會議ノ席上ニ於テ述ヘタル處ト頗ル相符合シ居ルコトヲ指摘シ其ノ回答カ本使ノ人知恵ニ依リ出来タルモノノ如ク看做シ不満ノ意ヲ表シ其後同公使ハ更ニ自ラ外交總長代理ニ面会シ右同様ノコトヲ述ヘ斯ノ如クナレバ結局支那ノ外交ハ日

本ノ指揮ヲ受ケテ行ハルト同然ニシテ支那ハ朝鮮ノ二ノ舞ヲ演ズルモノナリト迄極言シタル末同公使ハ四十年支那ニアリ今回程不面目ナル目ニ会ヒタルコトナシトテ非常ニ憤慨激怒ノ情ヲ洩ラシ引取リタル處次テ米國公使カ仲裁ニ入り結局支那側ニ於テ先ノ回答ヲ英國公使ヨリ取戻シ始ヨリ何等回答ヲ与ヘザリシ姿トナシ落着セル趣ナリ尚參戦軍存廃問題ハ支那政府部内ニ於テ過般來數次商議ヲ凝ラシタル結果對外關係ニ於テハ日本カ其存続ニ異議ナキハ勿論米國公使ト雖モ四國公使勧告後同公使カ密カ二人ヲ新陸軍總

貴電第四三二号末段參戦借款引出シ見合セ方ニ閑シテハ支那政府ハ慎重考慮スペシトアル處右ハ結局拒絕スル意向ナルモ之ヲ明白ニ表示スルコトハ好マシカラズトノ見地ヨリシテ特ニ斯カル辞令ヲ用ヒタル次第ナリヤ將又内部ニ於テ既ニ引出シ見合セノ事ニ決シ居ルモ体面上態ト曖昧ノ回答ヲ為セル次第ナリヤ右ニ対スル貴官限リノ御見込み承知致度尚又英國公使等ニ於テハ本件ノ回答ニ対シ如何ナル意向ヲ有シ居ルヤ新聞電報ニヨレハ四国公使ハ更ニ質問スル所アルベキヤニモ伝ヘラルル處其辺内密御確メノ上併セテ電報アリタシ

右貴電第四三二号ト共ニ広東上海ニ転電アリタシ

七一一 三月二十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使（電報）

参戦借款金引出見合方ニ閑スル四国公使申入  
二対スル中国政府ノ回答ニ英國公使不満ノ儀  
二付坂西ガ斬雲鵬ニ確メタル所ヲ報告ノ件

別電 同日小幡公使宛内田外務大臣宛電報第四六一号  
右中国政府ノ回答

第四六〇号

（三月二十八日接受）

長ノ許ニ送リ參戦軍ニ対シテハ米國公使本来ノ真意ハ不贊成ニアラズ只余リ英國公使カ其廢止ニ熱心ナルヨリ行動ヲ共ニシ居ルニ過ギザルニ付支那側ニ於テ不惡之レヲ諒セラレ度キ旨告ゲシメタルヲ以テ同公使モ鞏固ナル反対論者ニアラズ從テ外交團ニ於ケル唯一ノ反対者ハ「ジヨルダン」一名ニ過ギズト看做シ終ニ別電ノ如キ回答ヲ送ルニ至レルモノノ由之レ又過日陸軍總長カ親シク坂西ニ語リタル処ニシテ既ニ參謀本部ヨリ御承知ノコトト信セラルルモ乍序茲ニ之レヲ附記ス

（別電）

三月二十七日在中國小幡公使宛内田外務大臣宛電報第四六一号  
参戦借款金引出見合方ニ閑スル四国公使申入ニ対スル中国政府ノ回答

第四六一号

本年三月七日英米仏伊國公使ヨリ口上書一通ヲ手交セラル具ニ諸公使カ南北統一ヲ促進スルノ熱心ナルヲ知ルヘク本政府ハ感謝ニ堪ヘズ所謂參戦借款引出ノ事ハ本政府ハ完全ナル内政ト認ム查スルニ客年十二月二日貴各公使カ手交セル口上書内ニハ毫モ此度ノ和議条件ニ最後干涉ノ策モナク

九 対中国借款善後策ニ関スル件(一) 七一二 七一三

又指揮或ハ勧阻スルノ意ナシ故ニ此種条件ハ必ズ須ラク支

那人自ラ決定スヘシトノ語アリ本政府ハ此表示ヲ重要視ス

ルモノナリ蓋シ貴各公使ハ本国ノ(訓令?)ヲ重要視シ聊

モ干渉ケ間敷キ地位ニ立ツラ願ハザルヲ深知スルヲ以テナ

リ、参戦借款ヲ如何処置スヘキヤハ本政府自ラ將ニ慎重考

慮スヘシ

七一二 三月二十七日

(在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

段祺瑞ノ参戦軍督弁辞任ノ報道ニ付回報ノ件

第四六三号

(三月二十八日接受)

貴電第三九九号後段ニ関シ三月二十六日船津張志潭ヲ往訪シ該報道ノ実否ヲ確メタル處張ハ過日参戦軍ニ関スル物議高潮ニ達シタル際段祺瑞カ徐世昌ヲ往訪シテ参戦軍弁辞任ノ意ヲ漏ラシタルハ事実ナルモ當時徐ヨリ慰撫挽留ノ結果用意シタル辞表モ差出サズ其儘ト成リタル(脱)参戦軍弁處ヨリ分離シテ陸軍部ノ管轄ニ移属セシメ從来ノ参戦軍弁處ハ依然大總統ノ直屬機関トシテ存置スルコトニ略ボ内定シ居ル旨語リタル趣ナリ

七一三 三月二十七日

(在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

ニ対スル中国政府ノ回答ヲ同政府ガ英國公使

ヨリ取戻ニ付曹汝霖西田ニ内話ノ件

第四六六号

(三月二十八日接受)

往電第四六〇号前段ニ関シ三月二十六日宴会ノ節曹汝霖ハ西田ニ対シ前電ト略ボ同様ノ事ヲ述ヘ英國公使ハ支那政府ノ回答ニ甚夕不満ヲ抱キ該回答ヲ突返サントノ意嚮ヲ示シタルニヨリ米國公使仲裁ニ入り支那側ニ対シ英國公使ヨリ一応該回答ヲ取戻スコトトスル方宜シカラント穩便ニ勧誘ノ申出アリ三月二十一日臨時國務會議ニ於テハ英國公使カ支那政府ヨリノ回答ヲ突返サントスルハ甚タシク支那ヲ侮辱スル仕打トシテ随分非難憤慨ノ意見アリタルガ折角米國公使ノ好意的勧告ノ次第モアリ若シ英國公使ニ於テ今後參戰軍ニ關シ何等苦情ヲ云ハザルニ於テハ該回答ヲ取戻スモ差支ナシトノ事トナリ結局双方ニ於テ右諒解ノ下ニ支那側ニ於テ英國公使ヨリ該回答ヲ取戻スコトトシタル次第ナル旨ヲ内話セル趣ナリ

七一四 三月二十七日 (在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

参戦借款預金引出ノ権利ヲ中國側実行ノ場合

二対スル我方ノ措置振ニ関シ請訓ノ件

第四六七号

(三月二十八日接受)

貴電第四〇七号ニ関シテハ曩ニ申入レノ我方希望ニ対シ支那政府ハ今尚我真意ヲ計リ兼不居ルニアラスヤト思料セラルル節ナキニ非ズ是レ我方申入ノ措辞甚々婉曲ナリシテ参戦軍編成ニ関スル我方從來ノ行懸リト意嚮トニ鑑ミ支那側トシテ考フルモ無理ナキ次第ト信ズ現ニ往電第三八一号所報ノ如ク國務總理カ本使ニ対シ借款引出ノ已ムヲ得ザル次第ヲ訴ヘ本使ノ私見ヲ聞カントシタルニ徵シ略ボ想察ニ難カラズ從テ支那側回答ニ於テ慎重考量云々セセルハ今尚借款引出シ得ルノ望ヲ存シ更ニ我方四ヶ國側ノ真意ヲ充分ニ突止メ其ノ上ニテ進退ヲ決セントスル為ノ余地ヲ存セル趣向ト觀察ス就テハ本使トシテモ帝国政府ノ御意向今一応明確ニ承知シ置クノ必要アリ即チ支那カ我方其他ノ思惑ニ頓着ナク支那政府自身ノ責任ヲ以テ其預金引出シノ権利ヲ実行セントシタル場合ニハ我方ニ於テ如何之ヲ措置セラルル

御所存ナリヤ折返シ御回訓ヲ請フ貴電第四〇七号末段ニ關シテハ往電第四六〇号及ビ第四六六号ニテ御承知ヲ請フ

七一五 四月一日 (在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

参戦借款及参戦軍ニ関スル日本政府申入ノ真

然措置方回訓ノ件

(政務局意見)

貴電第四六七号ニ關シ支那側ニ於テハ帝国政府カ参戦借款及参戦軍ニ関シ往電第二一九号及第二三一号ノ如キ申入ヲ為シタルハ实ハ他國トノ關係ヲ主トシテ顧慮シタルニ外ナラザルモノニテ内実ハ却テ支那側ニ於テ統々右借款ヲ引出シ参戦軍ノ編成ヲ促進セムコトヲ希望シ居レルモノナルヤノ誤解ヲ抱キ居レルモノノ如ク推測セラルル處帝国政府カ参戦借款及参戦軍問題ニ關シ前記往電ノ如キ婉曲ナル辞令ヲ用キタルハ是等ハ素ト兵器問題ト異リ偶々ハ支那政府ノ名義ニテ普通ノ銀行預金トナリ居レルト他ハ全然支那

内部ノ問題タルコトヲ顧念セルニ外ナラズ是等ニシテ万一兵器供給ノ件ノ如ク日本政府ノ権内ニ属スルモノナルニ於テハ和平促進ノ本旨ヨリ參戰借款ト雖兵器問題ト同様ノ措置ニ出デタルヤ言ヲ俟タザル次第ニシテ此辺帝国政府ノ真意未ダ充分支那政府側ニ徹底セズシテ日本ノ申入ニハ表裏アルヤノ誤解ヲ抱キ居レル感アルニ付貴官ニ於テモ右御含ノ上必要ト認メラルニ於テハ可然御措置相成度シ

## （附記）

小幡公使來電第四六七号ノ件ニ關スル措置方（政務局意見）

帝国政府ハ曩ニ支那政府ニ對シ「兵器供給ノ件ハ明白ニ之ヲ停止スル旨ヲ申入レタルモノ」〔參戰借款ニ付テハ支那政府ニ於テ引続キ之ヲ使用シ得ヘキ關係ニ在リテ我方ニ於テハ右ニ対シ何等容喙スルノ意嚮ナク又支那側ノ行為ニ対シ彼は要求ガマシキコトヲ申出ヅル次第ニアラザルモ時局解決ノ促進上暫ク之力使用ヲ停止シ内外ノ疑惑ヲ除去スルノ態度ニ出ヅル方得策ナラムト思考スル旨單ニ先方ノ参考迄トシテ申入レタルニ止マリ又〔參戰軍ニ付テハ全然支那内部ノ事柄ニ屬シ帝国政府ハ支那ノ意嚮ニ反シテ同軍編成ノ計画ヲ支持スルノ意思ナキト共ニ之カ廢止ヲ支那ニ請求スル

ノ責任ヲモ執ルコトヲ得ズ云々ト申入レタル次第ナル処其

後支那側ノ態度ヲ考察スルニ支那側ニテハ帝国政府力參戰借款及參戰軍ニ關シ前記ノ如キ申入ヲ為シタルハ實ハ外国トノ關係ヲ顧慮シタルニ外ナラサルモノニテ即チ日本ハ眞実參戰借款引出ノ停止ヲ希望シ乃至參戰軍編成ニ對シ無関係ノ地位ニ立タムトスルニアラス却テ支那側ニ於テ統々右借款ヲ引出シ參戰軍ノ編成ヲ促進セムコトヲ内実希望シ居レルモノナルヤノ誤解ヲ抱キ居レルモノノ如ク推測セラル

就テハ外務大臣ヨリ章支那公使ニ對シ帝国政府力參戰借款及參戰軍問題ニ關シ前記ノ如キ婉曲ナル辭令ヲ用ヒタルハ是等ハ素ト兵器問題トハ異ナリ偶々一ハ支那政府ノ名義ニテ普通ノ銀行預金トナリ居レルト他ハ全然支那内部ノ問題タルコトヲ顧念セルニ外ナラズ万一兵器供給ノ件ノ如ク日本政府ノ権内ニ属スルモノナルニ於テハ參戰借款ト雖モ兵器問題ト同様ノ措置ニ出デタルヤ言ヲ俟タズ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ此ノ辺ノ帝国政府ノ本旨十分支那政府ニ徹底セズ日本ノ申入ニハ表裏アルヤノ誤解ヲ抱キ居レル感ナキニアラザルヲ以テ此ノ点十分了解アル様致度旨説示セラレ且右ノ次第小幡公使ニ電報スルコトトセバ然ルヘキヤニ思考

## セラル

## （欄外註記）

「我態度ヲ鮮明ナラシムル為メ本案ハ最モ必要ナルモ少時形勢ヲ觀タル後ノ方宜シキニアラザル乎」



七一六 四月十日 在中国小幡公使宛（電報）

中国政府ガ鮮銀ニ對シ參戰借款預金引出請求

ノ手順ニ出デタル事情ニ付問質方竝中国側ガ

右決行ノ場合ニハ其旨我方ニ通告セシムル様

取計方訓令ノ件

## 第四八七号 至急

往電第四四〇号ニ關シ其後坂西少將並ニ參戰軍訓練處ヨリ參謀本部ヲ經テ又ハ直接朝鮮銀行ニ對シ數回參戰借款払出方督促シ来リタル處本件ハ貴電第四三二号ノ通り曩ニ支那ナルカ故此儘借款金払出ヲ容認スルニ於テハ日本ハ表面引出見合方ヲ申入レ置キ乍ラ其実然ラザルモノノ如ク看做ナレ結局我方ノ態度ニ表裏アルガ如キ誤解ヲ招クノ虞アリ帝

国政府ノ立場ヲ甚シク不利ノ地位ニ導クニ至ルヘキヤニ認

ナルカ故此儘借款金払出ヲ容認スルニ於テハ日本ハ表面引出見合方ヲ申入レ置キ乍ラ其実然ラザルモノノ如ク看做ナレ結局我方ノ態度ニ表裏アルガ如キ誤解ヲ招クノ虞アリ帝

国政府ノ立場ヲ甚シク不利ノ地位ニ導クニ至ルヘキヤニ認

七一七 四月十一日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
參戰借款預金払出三千渉セザル様詮議方稟申

九 対中国借款善後策二関スル件（一）七一八

七三一

陸同文 電報 四月十一日 午前十一時 ○分発  
午後十一時三十分著

総長宛

坂西少将

坂極秘電第三四号

貴地鮮銀ハ參戰借款払出ハ今尚政府ニテ詮議中ニテ承認ヲ  
与ヘズトノコトナリ然ルニ該借款ニ就キテハ曩ニ小幡公使

ヨリ我政府トシテ支那政府ニ向ヒ其引出延期ヲ希望シタル  
モ支那ハ參戰軍編成未完以前ナレバ兎三角既二人馬充足ノ

今日引出延期ハ不可能ナリトノ意味ヲ以テ答ヘタル筈ナレ  
バ其時ヨリ以後該借款引出ニ閑シ何等カノ問題起ラバ全ク

支那政府ノ責任ニ帰シテ可ナリ然ルニ今日モ尚帝國政府ニ  
テ其払出ニ干渉シ（不明）我多数ノ將校下士等力善ク閣下  
等ノ訓令ヲ遵奉シ日支兩國提携ノ実ヲ挙ヶ就中此借款ト離  
ルベカラザル關係ヲ有スル軍隊經理ハ支那軍改善中最モ至  
難ナル業務ナルニ拘ラズ今ヤ徐ロニ吾人指導ノ効果ヲ挙ケ  
ントシツツアル時ニ於テ日本方面ノ不条理ナル行為ニ依リ  
三師団人馬ニ対スル給与ヲ正確ニ実施スル能ハズ二月末以  
来三月四月迄給料ヲ受ケザルモノアリテ支那旧式軍隊ト同  
一狀態ヲ呈セントスルハ遺憾此上モナン朝夕支那當局ニ接

スル我應聘軍人ノ苦衷誠ニ忍ブベカラズ今後銀行払出二千  
涉セザル様詮議アリタシ小幡公使ハ寧ロ此際全部引出サシ  
ムル方可ナラントノ意見ナリ

七一八 四月十二日 在中國小幡公使（ヨリ）

内田外務大臣宛（電報）

陳外交總長代理ハ中國政府ノ鮮銀ニ對スル預  
金払出請求事情説明ノ上同政府方隨時該預金

ヲ引出ス所存ナル旨正式声明シ且本件ハ發表  
セラレザル様希望シタル件

第五五二号

（四月十三日接受）

貴電第四八七号ノ趣旨ヲ体シ四月（不明）陳外交總長代理  
ヲ訪ヒ支那政府ガ本件ニ閑シ一方慎重考慮スヘシト回答シ  
タルママ其後調査ノ結果ニ付テハ何等未タ通告ナク而モ實  
際ニ於テハ再三朝鮮銀行ニ對シ預金引出ヲ請求セラルニ  
至リタル事情ハ當方ニ於テ篤ト承知シ置クノ必要アル旨申  
聞ケタル處總長代理ハ實ハ曩ニ貴公使ノ申出アリタルニ引  
続キ英米等四國公使ヨリ同様ノ通告アリ、當時支那政府ハ  
參戰借款引出ハ全然支那ノ内政事項ニ係ルカ故ニ各國ノ干  
渉ヲ容認シ難キ旨最モ強硬ニ回答シ其後英國公使ヨリ前後

四十年支那ニ在勤スルモ未ダ如斯不満足ナル回答ニ接シタ  
ル事ナシトテ強硬ナル異議出デ（關係前電ノ通り説明セ  
リ）次テ米國公使ノ仲裁トナリ支那側ニ於テハ始メヨリ右  
ノ如キ回答ヲナサザリシ姿トナシ其代リ四國側ニ於テモ本  
借款問題ニ關シ再ヒ勸告セザル事ノ諒解ノ下ニ其回答ヲ取  
戾スニ至レリ換言スレハ支那政府ハ四國公使ニ對シ本借款  
ノ引出ハ支那政府ノ自由ニシテ各國ノ干渉ヲ容認セザルコ  
トヲ主張シ四國モ亦之レヲ認メ一段落ヲ告ケタル次第ナリ  
ト述ヘ本件ニ關スル四國トノ交渉ハ先以テ之レニテ解決ヲ  
告ケタル事ヲ言明シ次ニ日本トノ關係ニ至リテハ右參戰借  
款契約ハ依然有効ニシテ既ニ其借款金カ支那政府ノ預金タ  
リ又支那政府カ之レヲ引出スノ必要ニ迫マラ居ルカ故ニ  
支那政府ハ當然之レカ引出ヲ請求セルニ過ギサル次第ナリ  
ト述ヘタルニ付本使ヨリ更ニ支那政府内部ノ事情ハ右様ナ  
ランモ日本政府ニ對シテハ何等未ダ正式ニ右様ノ通告ヲナ  
シアラザルコトヲ指摘シタルニ對シ総長代理ハ然ラバ更ニ  
別ニ申出ヲナス迄モナク、此機会ニ支那政府ヲ代表シ、正  
式ニ支那政府ハ本借款ノ依然有効ニ存続セルニ鑑ミ支那政  
府ノ實際ノ必要上此ノ存款ヲ隨時引出ス所存ナルコトヲ声

九 対中国借款善後策二関スル件（一）七一九 七二〇

七三四

テハ下火トナリ居ル本件ヲ再燃セシムル結果トナルベク南方ノ主張等ハ支那政府ノ責任ヲ以テ然ルベク処置スベキ旨述ベタルニ付本使ハ支那政府ニ対スル誤解又ハ議論ハ貴国政府ノ責任ヲ以テ措置セラレ然ルベキモ日本ニ対シ誤解其他ノ物議アル場合ニハ之ニ対シ適當ノ措置ヲ取ルハ当然日

本政府ノ責任ナルガ故ニ必要ノ場合ニハ日本政府ハ本件ノ経過ヲ公表スベキコト承知アリタキ旨説示シタルニ陳ハ終ニ斯ノ如ク日本（政府ニ於テ公表？）セラルル必要アル

場合ハ発表セラルルモ致方無シト首肯セリ因ミニ本件発表ハ本使ニ於テ毫モ異存ナキ次第ナルモ目下殆ンド鎮静ニ帰シタル本問題ヲ突然発表シ又論議ヲ挑発スルノ機会ヲ作ルヨリモ暫ラク此儘トナシ置キ支那側ノ預金引出ガ世間ニ洩レタル場合ニ至リテ始メテ其顛末ヲ発表セラルルモ遲力ラザルベシト思考ス御一考ヲ祈ル

上海、廣東へ電報セリ

七一九 四月二十日

内田外務大臣ヨリ  
在中國小幡公使宛（電報）

参戦借款預金引出問題ノ成行公表見合ノ件

第五四九号

請求ニ応シ差支ナキ旨達置候此段為念申進候也

追テ朝鮮銀行ニ対シテハ第四月分中ヨリ第三月分過払額

ヲ差引交附スヘキ旨申添置候

（附記）

大正八年四月十九日（土曜日午後六時半）朝鮮銀行木村理事（私宅）ニ対シ電話ヲ以テ参戦借款第四月分払出差支ナキ旨並其中ヨリ第三月分過払額ヲ差引クヘキ旨ヲ通達シ尚第五月分以後モ支那側ヨリ払渡方申出アリタルトキハ為念其都度當省ノ承認ヲ求ムル様申添ヘ置キタリ（參謀本部、陸軍省及大蔵省通知済）

岡部書記官

七二一 六月五日

内田外務大臣ヨリ  
高橋大蔵大臣宛

参戦借款第五月分払出方ニ関シ意見問合ノ件

参戦借款資本払出高表（大正八年四月末日現在）

| 月 次  | 予 算 額    | 払 出 日 |   |   | 先 方 通 貨  | 当 方 通 貨 | 利 息 高    | 残 額 高     | 摘要        | 要         |
|------|----------|-------|---|---|----------|---------|----------|-----------|-----------|-----------|
|      |          | 年     | 月 | 日 |          |         |          |           |           |           |
| 第一月分 | 三、二三、四〇元 | 三     | 七 | 八 | 三        | 三       | 三、二三、四〇元 | 三         | 二         | 三、二三、四〇元  |
| 第二月分 | 一、七三、二〇元 | 三     | 一 | 五 | 一、七三、二〇元 | 三       | 三、二五、〇〇元 | 一、六〇六、六一元 | 一、六〇六、六一元 | 一、六〇六、六一元 |

（附記）  
参戦借款資本払出予定月額表

（石井鮮銀總支配人代理ヨリ高尾總領事ニ提出）

貴電第五五二号ニ關シ本件ノ成行公表ノ儀ハ貴電未段御申添ノ次第モアリ支那側ノ希望ヲ斟酌シテ暫ク公表セサルコトニ決シタリ尤モ今後ノ發展ニ依リテハ何時ニテモ公表スルノ已ムヲ得ザルコトアルベキニ付右様御承知アリタシ

七二〇 四月二十三日

内田外務大臣ヨリ  
高橋大蔵大臣宛

参戦借款第四月分払出差支ナキ旨鮮銀ニ達置

キタルニ付通報ノ件

附記 四月十九日岡部書記官ヨリ参戦借款第四月分払

出承認ノ旨木村鮮銀理事ヘノ電話要旨

政機密送第一一九号

参戦借款第四月分払出ニ関スル件

支那側ニ対シ参戦借款引出見合方申入ノ件ニ關シテハ累次ノ電報往復ニテ御承知ノ通ニ有之候處最近支那外交總長代理ハ在支小幡公使ニ対シ参戦借款契約依然有効ニ存続セルニ鑑ミ實際ノ必要上此ノ存款ヲ隨時引出ス所存ナル旨ヲ正式ニ通告スル趣声明シタルニ付（來電第五五二号参照）最早帝国政府ニ於テハ如何トモスル能ハザルニ至リ貴省ヨリ御申越ノ次第モアリ去十九日朝鮮銀行ニ対シ第四月分払出

九 対中国借款善後策ニ関スル件(一) 七二二

七三六

|      |          |   |   |   |         |         |   |
|------|----------|---|---|---|---------|---------|---|
| 第三月分 | 一、七三、一〇九 | 三 | 八 | 一 | 一、八九、五〇 | 八、七六、六一 | 癸 |
| 第四月分 | 一、五九、八〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 第五月分 | 一、五九、五〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 第六月分 | 一、五九、五〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 第七月分 | 一、五九、五〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 第八月分 | 一、五九、五〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 第九月分 | 一、五九、五〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 第十月分 | 一、五九、五〇  | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |
| 計    | 一〇、八九、四〇 | 三 | 八 | 四 | 一、五〇、三〇 | 五三      | 庚 |

(註 払出日ハ北京鮮銀ヨリ支那側へ払渡シタル日付)

七二二 六月七日 高橋大蔵大臣ヨリ

内田外務大臣宛

參戰借款第五月分払出方ニ關シ回答ノ件

秘乙第一二八一号

參戰借款第五月分払出方ニ關スル件

本件ニ關シ本月五日附政機密送第一五六号ヲ以テ御照会ノ趣了承當省ニ於テハ本件五月分ノ払出並ニ爾今各月分予算額中ヨリ日本政府又ハ民間ヨリ購買セル物品代金ヲ日本ニ

於テ支払ノ件ニ項共異議無之候間右様御承知相成度此段及御回答候也

大正八年六月七日

大蔵大臣男爵 高橋是清(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

註 參戰借款第六月分以下モ第五月分払出ノ手続ト同様ノ手続

ニ依リ前記予定表(七二一文書附記)ノ通り夫々払出執行セラレタリ

七二三 六月七日 木村朝鮮銀行理事宛  
參戰借款第五月分払出方ニ關スル客月二十一日附  
拝啓陳者參戰借款第五月分払出方ニ關スル客月二十一日附

貴翰御申越ノ趣閲悉致候本件ニ關シテハ大蔵省トモ協議ノ上

五月分ノ払出並ニ爾今各月分予算額中ヨリ日本政府又ハ民間ヨリ購買セシ物品代金ヲ日本ニ於テ支払ノ件ニ項共異議無之コトニ決定候間右様御承知相成様致度此段回答申進候也

ハ我国ノ威信ヲ損スルコト大ナリ此際契約兵器中少クモ戰闘直接ノ兵器ヲ除ク他ノ器材ハ斷然之ヲ交付スルノ必要アリト認ム至急御詮議ノ上交付方御尽力ヲ乞フ

七二五 八月二十八日 神野大蔵次官ヨリ

參戰借款契約満期ニ付返済方及右返済不能場合ノ措置方ニ關シ中國側ニ申入レラレ度旨

鮮銀ニ達置キタルニ付通報ノ件

附記一 八月二十五日石井鮮銀總支配人代理及高尾總領事間會談ノ申入

七二四 七月十六日 在北京坂西陸軍少將ヨリ  
山梨陸軍次官宛(電報)

參戰軍ニ対シ兵器供給方稟請ノ件

(七月十七日接受)

官房秘乙第一九〇六号

參戰軍各教練所ノ教育進捗ハ日本供給器材未交付ノ為進捗

意ノ如クナラズ殊ニ交通教練所ノ如キハ到底其教育ヲ進ムル能ハザルノミナラズ之ガ為其一部ヲ解散閉務スルヤ否ヤノ問題ヲ解決スヘキ時機ニ迫レリ徐樹錚等切ニ外国自動車其他ノ器材ヲ受領シ着々其計画ヲ進捗セシメツツアル一方ニ於テ我国ノ指導ニヨル參戰軍ヲ斯クノ如キ苦境ニ陥ルル

大正八年八月二十八日

大蔵次官 神野勝之助(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

九 対中国借款善後策ニ關スル件(一) 七二三 七二四 七二五

七三七

九 対中国借款善後策ニ関スル件(一) 七二五

七三八

(別紙)

官房秘乙第一九〇五号

支那政府参戦借款ノ件

本借款ハ本年九月二十八日満期ニ付此際支那政府ニ対シ右期日迄ニ返済スル様御注意置相成度若シ支那側ニ於テ返済不能ノ場合ハ現在ト同一ノ条件ヲ以テ国庫証券ヲ更ニ切換ヘ発行セシメ之カ割引金額ハ発行ノ際當方へ仕払フヘキ旨

支那側へ申入相成度此段申進候也

大正八年八月二十八日

大藏次官 神野勝之助(印)

朝鮮銀行総裁 美濃部俊吉殿

(附記一)

八月二十五日石井鮮銀支配人代理及高尾総領事間会談

大正八年八月二十五日朝鮮銀行総支配人代理石井光雄來省参戦借款契約期限ハ九月下旬ヲ以テ満了スヘキ處支那政府ヨリハ到底期日迄ニ返済ヲ受クルノ見込ミナキニヨリ本件資金力政府預金部ヨリ支出セラレ居ルカ為メ大藏省ノ意向ヲ伺ヒタルニ更ニ一年間契約延期シ差支ナシトノ

右ニ対シ小官ハ大藏省ヨリノ照会ニ接シ次第何分ノ詮議ニ及フヘキ旨ヲ答ヘ置ケリ本件ハ坂西少将希望ノ如ク更ラニ続借ヲ行ハサル以上単ニ契約ノ更新文ケナラハ同意ヲ与ヘ申出アリ尚ホ大藏省ヨリハ不日公文ヲ以テ当省ノ意見問合セアル筈トノ旨石井ハ申添ヘタリ

(附記二)

八月二十八日高尾総領事ヨリ富田國庫課長ヘノ申入

参戦借款契約更新ノ儀ニ関シ大正八年八月二十八日大藏次官ヨリ別紙<sup>(註1)</sup>ノ通り申越シアリ右ハ一應当省ノ意見ヲ求メ然ル後朝鮮銀行ヘ指令ヲ与フヘキ性質ノモノナルニ拘ハラス同省限リニ延期ノ許可ヲ与ヘ殊ニ当省ニ対シテハ為念通知ストノ形式ヲ取レルハ從来ノ行懸ニ顧ミ且又本件カ政治的考量ヲ要スヘキ事柄タル關係上穩当ナラザルヤニ拘ハラレタルニヨリ其旨富田國庫課長ヘ指摘注意ヲ与ヘタル結果更ニ同省ヨリ当省ノ意向ヲ問合ス旨ノ公文ヲ寄セ越スコトトナレリ同時ニ朝鮮銀行ヘモ注意ヲ与ヘ置キタル處八月二十九日別紙<sup>(註2)</sup>ノ通り申越セリ

(高尾総領事記)

註1 前頭官房秘乙第一九〇六号公信

2 省略

七二六 八月二十九日

神野大藏次官ヨリ  
幣原外務次官宛

参戦借款ニ關シ中國側ニ交渉方鮮銀ニ指図シ

タルニ付意見問合ノ件

官房秘乙第一九一七号

支那政府参戦借款ノ件

本件ニ關シテハ八月二十八日附秘乙第一九〇六号ヲ以テ得

貴意候通リ支那政府ヘ交渉方朝鮮銀行ヘ指図致置候処右ニ  
關シ貴省ニ於テ御意見モ有之候ハバ折返シ御回示相成度此

段及御照会候也

大正八年八月二十九日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

七二七 九月二日

幣原外務次官ヨリ  
神野大藏次官宛

参戦借款契約満期ニ付中国政府ニ交渉方鮮銀

二指図ノ儀ニ關シ回答ノ件

九 対中国借款善後策ニ關スル件(一) 七二六 七二七 七二八

七三九

九 対中国借款善後策二関スル件(一) 七二九

甲号

参戦借款ノ為発行ノ中国政府国庫証券満期ニ依リ一個年間延  
期方申出デタルニ付承認方願出ノ件

内支総借第二八六号

大正八年九月二十六日

朝鮮銀行

美濃部俊吉

大蔵次官 神野勝之助殿

拝啓参戦借款ニ関シ秘乙第一九〇五号貴状ヲ以テ御申聞ノ

趣拝承仕候仰通リ支那政府ニ対シ返還請求致候処前回ト同

一条件ヲ以テ向フ一ヶ年間延期方申出有之候ニ付明二十七

日延期契約書調印ノ上夫々手続相連度就テハ支那政府国庫

証券ハ年七分八厘ノ割合ニテ御割引願度弊行、台湾、興業

ノ三行ニテ受クル利息並ニ手数料百六十万円ハ當行ヨリ支

那側へ支払フヘキ本借款金預金利息約六十八万円ヲ以テ充

当セシメ尚不足分ハ預金部ニ御預り致居候参戦借款資金中

ヨリ引出充当セシムル事ト致度候間此儀御承引被成下度御

依頼迄得貴意候也

乙号

中國政府国庫証券満期ニ付一個年間延期方申出承認ノ件

返還請求致候処前回ト同一条件ニテ向フ一ヶ年間延期借替

致度旨申出有之候ニ付予テ貴方ノ御承認相受候趣旨ニ基キ  
延期契約締結ノ上弊行台湾興業ノ三行ノ受クル利息及手数

料金百六十万円也ハ大蔵省預金部ニ御預ケ致居候参戦借款

資金中ヨリ別記ノ通り払出ヲ受ケ支那政府ヨリ取入タル新  
国庫証券ハ大蔵省国債課ニ於テ前回同様年七分八厘ノ割合

即金百五十六万円ノ割引料ヲ以テ御買上被成下候ニ付テハ  
右御承引被成下度此段得貴意候也

記

円 錢

(一) 六八五、九五一、八二 参戦借款預金利息九月二十  
六日迄ノ分

(二) 九一四、〇四八、一八 参戦借款預金元金

計 一、六〇〇、〇〇〇円也

七三〇 十月四日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国政府当局ノ親日的意向、我方ノ財政援助

ト山東問題、参戦借款統借其他諸問題ニ関シ

意見回申ノ件

九 対中国借款善後策二関スル件(一) 七三〇

七四〇

大正八年九月二十七日

大蔵省理財局長 森俊六郎

朝鮮銀行総裁 美濃部俊吉殿

本月二十七日満期ノ支那政府国庫証券二千万円借款ノ為発

行シタル同一条件ノ支那政府国庫証券二千万円前回同様年

七分八厘ノ割引ヲ以テ政府ニ於テ買受ケラレタキ旨願出ノ

件承認相成候条右御了知相成度依命此段及通牒候也

追テ借換発行ニ要スル割引料及手数料ニ充当ノ為百六十  
万円預金引出ノ件御申出ノ通取計可然此段申添候也

件承認相成候条右御了知相成度依命此段及通牒候也

七二九 九月三十日 美濃部朝鮮銀行総裁ヨリ

参戦借款一個年延期契約締結ニ付報告ノ件

大正八年九月三十日

芳沢謙吉殿

外務省政務局長

朝鮮銀行

総裁 美濃部俊吉

参戦借款二千万円向フ一ヶ年延期取扱ノ件

拝啓参戦借款二千万円也本月二十七日期日ニ付支那政府ヘ

第一三三五号

(十月五日接受)

貴電第一一八八号末段御下問ノ各項ニ対スル卑見大要左ノ  
通り

(一) 支那政府当局者トシテハ從来トテモ日本ノ疎外スペカラ  
ザルコトハ十分ニ感知シ居リ山東問題ノ如キモ今日ノ如キ

何時迄モ不定ノ状態ニ置クコトハ決シテ其本意ニアラズ其  
断然タル処置ニ出デザルハ唯一般輿論ノ反動ヲ恐レ邁進ノ

勇氣ヲ欠クニ依ルモノト見ルノ外ナキハ疾ク御了悉ノコト  
ト存ゼラル尤モ斬雲鵬ノ如キ其我方ニ対シ從來ノ關係ニ微

スルモ將又段祺瑞ヲ背景トスル其政治上ノ潜勢力ニ顧ミル  
モ同人ノ親日的決意及之が實行ノ手段ニ対スル自信ハ恐ラ

ク襲心湛等ノ遠ク及バサル處ナルベク(脱)坂西ニ対スル  
言明ハ相當真摯ナル意義ヲ有スルコトト察セラルモ而モ

之ヲ現実ニ施サントスルニ至ラバ恐ラクハ幾多ノ障害統出  
シ彼等自身ノ決意如何ニ強クトモ之ガ實行ハ其実力上蓋シ

容易ノ業ニアラザルベシ元來今回ノ財政援助ニ付日本之ガ  
主導トナリ若クハ日本専ラ之ニ当リ以テ支那側ノ対日感情

ノ一般的緩和乃至改善セラレシコトヲ望ムハ素ヨリ可ナル

モ直ニ之ヲ山東問題其他當面ノ具体的の案件ニ結ビ付ケ財政  
中国政府當局ノ親日的意向、我方ノ財政援助  
ト山東問題、参戦借款統借其他諸問題ニ關シ  
意見回申ノ件

九 対中国借款善後策二関スル件(一) 七三〇

七四一

援助ノ之等ノ案件ニ及ボスベキ直接ノ効果ヲ期待スルカ如キハ本使ノ贊同致シ兼マル處ナリ右ハ往電第一二五九号等ニテ略々明カナルモ尚為念申進ズ

〔最初漸ク財政窮乏ヲ伝ヘラルニ至リタル頃ハ外交團側ノ態度モ頗ル強硬ナリシカ其後六月末以来外交團ノ方針モ変更シ（往電第八九一號参照）関税剩余ノ引渡等ニ依リ一時財政上多少ノ融通ヲ生シ支那政府ハ兎ニ角之ニテ一ト息吐キタル次第ニシテ此等一時ノ余裕ハ之ヲ各地軍隊中最モ動乱ノ起リ易キ地方其他不平最モ多カルヘキ中央及地方ノ官庁へ小刻ミニ振分ケ急場ヲ糊塗シ來リタルモノト推セラル然レトモ斯ル手段ハ到底際限ナク行ハルヘキニアラズ早晩絶対的窮乏ノ域ニ達スルコトアルヘン

〔支那ニ於ケル変乱ニ對シ從来外国人力神經過敏ナリシ例ハ事件突発スル場合ニ多クシテ事前ニ於テハ愈トナル迄却テ呑氣ナルヲ常トスト存ズ徳川ガ御來示ノ趣旨ニ依リ夫レトナク二三外国人ニ質問シタル際ニ於ケル彼等ノ答モ略ホ同様ナリ彼等モ軍隊給料不渡等ノ為危難ノ虞アルコトハ十分認メ居ルモ直ニ勃發スヘキヤ否ヤニ付テハ余リ考慮ヲ払ヒ居ラザルヤニ見受ラル現ニ在英大使堀閣下宛電報第四三

ルノ結果トナルヘキハ寧口当然已ムヲ得ザル所ト云フヘク英國公使ノ如キハ軍閥ニ對スル借款ニ反対ト云ハシヨリハ寧口軍閥ヲ中心トスル政治其者ニ慊焉タラザルモノト見ルヲ当レリトスヘク其ノ動機モ蓋シ單純ナラズシテ北洋軍閥カ比較的日本ト親善ナルコトニ對スル一種ノ反感モ交リ居ルヘキハ同公使談話中ノ口吻ニ依ルモ略ホ推測セラル節アリ一般外国人側ノ感想モ惟フニ大同小異ナルヘシ若シ夫レ本件借款カ彼等ノ私腹ヲ肥シ若ハ其ノ党勢扶植ニ利用セラルノ虞ナキヤ否ヤノ点ニ至リテハ四國團ニ於テ本件借款ニ應スルコトトナル以上相當其ノ使途監督ノ方法ヲ立ツルヲ条件トスヘシ是等方法ニ付テハ後段（七）ニ議ル尚ホ四國團カ二千四百万元借款ニ應スヘキヤ否ヤニ關シ「フレーベ」ハ德川ニ對シ全然自分限ノ觀察トシテ目下英國政府内及英國銀行團側ノ意嚮ハ日本ヲ一員トスル新借款團ノ成立ノ見込立タザル内ハ日本ノ驥尾ニ附シ軍閥ヲ中心トスル現ト謂フニアラズヤト思ハルト語リタル趣ナリ序ヲ以テ申添フ

〔日本单独貸附ノ場合ニ於ケル使途監督ノ方法ハ全然之ナ

一号「タイムス」通信ハ徳川ガ「フレザー」ニ就キ一見シタルガ右ハ可成切実ニ軍隊殊ニ湖南ノ不穏ヲ報道シ居ルモノナルカ同人自身モ其勃發ノ結果ニ関シテハ外国人ノ生命財産ニハ格別ノ危害ナカルヘシトテ非常ナル憂慮ヲ懷キ居ルトモ見受ケラレザリシ趣ナリ

〔当地四国團代表者堀倫敦本部宛電報中ニ軍政府反対党ノ件ヲ謡ヒアル魂胆ニ付テハ往電第一三一五号ヲ以て本使ノ觀察電報致シ置キタルガ支那當局側ニ於テハ此点ニ付テハ既ニ南方側ト十分意志ノ疏通アルモノノ如ク龔心湛先ニ本使ニ對シ之ヲ洩ラシ昨三日李思浩來訪ノ際確メタルニ之又此点ハ懸念ニ及バザル旨申述ヘ居リタリ

〔四〕參戰借款ニ付テハ坂西少將ト支那側トノ間ニ統借ノ話アル趣内聞ス右ニ付テハ同少將ト參謀次長及陸軍大臣トノ間ニ往復アル趣ニ付右ニテ御承知アリ度乍序右ニ關スル政府御意向伺ヒ置キタシ

〔六〕英國公使ノ所謂軍閥一派ノ手ニ帰ストノ的確ナル意義ハ稍々明瞭ヲ欠クモ現政府力軍閥ノ一部ヲ中心トシ又一方軍閥一部ノ後楯ヲ有スル安福系ト密接ナル關係ニ在ル以上本件借款使途カ直接又ハ間接中央軍閥側ノ方寸ニ左右セラルナルヘシ

キニアラザルヘク例ヘバ借款金額ヲ銀行ニ保管シ之カ引出シニハ相當責任官吏ノ捺印アル信憑書類ノ提出ヲ必要トスルカ如キ一方法ナルヘキモ見方ニ依リテハ或程度以上ハ形式ニ了ハルト謂ハザルベカラザルヤモ計リ難シ右ハ都テ武内モ同感ナリ而シテ右ハ四國團引受ケノ場合ニ於テモ同様ナルヘシ

### 七三一 十月十五日 内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛（電報）

#### 參戰借款ニ關シ中國側ヨリ我參謀本部ヲ通シ

統借方申出デタルモ右ニハ應シ難キ旨同部ニ

回答済並契約満期ニ付延期借換方ニハ同意ヲ

#### 与ヘタル旨通報ノ件

ヘノ申出

### 一二二八号

貴電第一三二五号ノ（四）ニ關シ坂西少將ヨリハ本年六月末

參戰借款統借ノ必要ナル所以ヲ參謀總長宛稟報シ次テ九月

上旬同少將ヨリハ支那側當事者ヨリ朝鮮興業台灣三銀行ニ

對シ借款契約第六条ニ基キ更ニ金二千万円統借シ度旨ノ申

入ヲ參謀次長へ取次キタル結果同部ヨリハ之ヲ前記三銀行ニ転達スルト共ニ右ノ申入ニ對シテハ參戰軍ノ存続ヲ必要トスル見地ヨリシテ之ニ應セシムルコトニ同意アリ度旨當省へ申出ノ次第アリタルモ如此ハ對支關係ノ現状ヨリスルモ到底同意シ難キ所ナルニヨリ同月下旬其旨同部へ回答シ当省ノ閔スル限りハ爾來其儘トナリ居ル次第ニテ今後トテモ右ノ方針ヲ支持スル所存ナリ尚ホ本件借款ハ九月二十七日ヲ以テ返済満期日ニ達シタル處支那側ヨリハ返済不可能ノ故ヲ以テ更ニ向フ一ヶ年間前回ト同一条件ノ下ニ延期借換ヲ申出事情已ムヲ得ズト認メタルヲ以テ當省ヨリハ右ニ同意ヲ与ヘタリ

## （附記）

九月十九日石井鮮銀總支配人代理ノ高尾總領事ヘノ申出

參戰借款統借ニ閔スル件

## （政務第一課）

大正八年九月十九日朝鮮銀行石井總支配人代理來省別紙坂西少將參謀次長宛來電写ヲ呈出シ同時ニ左記ノ要領ヲ申出デタリ

別紙來電写ニ記載アル支那側ノ希望（金二千万円統借ノ

## タシ

（欄外註記）

九月二十五日參謀次長ニ面会ノ上統借ハ到底同意シ難ク尤モ支那政府財政窮迫ノ為メ目下二千四百萬元借款成立ノ為尽力中ナルヲ以テ右借款成立ノ上ハ其内ヨリ工面スルハ支那政府ノ隨意ナルベキ旨回答シ置タリ

## （別紙）

九月八日

電報 九月七日午後三時三十分發

九月八日

午前九時十三分着

吉会鐵道借款本契約締結交渉申入ニ對シ中國  
回答ノ件

## 附記一 大正七年十二月七日内田外務大臣發芳沢臨時

代理人使宛電報第一一二六号

二 大正七年十二月十日内田外務大臣發芳沢臨時

代理人使宛電報第一一三八号

三 大正七年十二月十日附内田外務大臣發芳沢臨時

代理人使宛政機密送第一八〇号

四 大正七年十二月十二日附内田外務大臣發芳沢臨時

代理人使宛電報第一一四四号

五 大正七年十二月十二日附内田外務大臣發芳沢臨時

代理人使宛政機密送第一八二号

六 大正七年十二月十三日芳沢臨時代理公使發内

田外務大臣使宛電報第一一七三六号

（一月十日接受）

第三八号  
客年往電第一七三六号ニ閔シ

外交總長ヨリ八日附公文ヲ以テ交通部ニ於テハ既ニ顧問ヲ

選任シ日本側委員ノ着京ヲ待ツテ直ニ商議ヲ開始セラルル

コトトナリ居レル旨回答アリタリ（九日）

## 二 吉会鐵道借款關係

## （附記一）

七三二 一月九日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

九 対中国借款善後策ニ閔スル件（二）七三二

大正七年十二月七日内田外務大臣發在中國芳沢臨時代理公使宛

七四五